

掲 示 板



2002 年度 第 1 号 通巻第 18 号 (4 月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。今年度も引き続き、私がフィールドレポーターのお世話をさせていただくことになりました。今年度 1 年間、どうかよろしくお願いいたします。

今年度は例年と違い、昨年度末にスタッフの皆さんと相談して、1 年間の活動予定を立てさせていただきました。まずフィールドレポーター調査ですが、1 回目はすでに始まっている「タンポポを調べよう」、2 回目は「ため池の外來生物」、3 回目は「アオマツムシ調査」です。これらの調査は、平成 15 年度当館で開催される外來生物の特別展示の中で、調査結果の展示を目指していますので、皆さんよろしくお願いいたします。また、1 月には小調査として、水鳥一斉調査にあわせてカイツブリの調査を行う予定です。一斉調査の方は琵琶湖が中心になりますので、それとの比較の意味も込めて琵琶湖以外の水域での調査をメインに行う予定です。最後に、昨年度好評だった「へちまクラブ」、今年度も継続して実施します。今年度の目標については、現在担当の芳賀さんと、編集長の根本さんで相談していただいています。へちまの種を同封しましたので、昨年度うまく育てられなかった皆さんも、お渡ししたへちま栽培完全マニュアルを参考に、今年は立派なへちまをたくさん育ててください。今年度は、活動内容がちょっと盛りだくさんになりますが、それぞれの活動に積極的に参加していただくことで、フィールドレポーターの楽しさもわかっていただけだと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。

さて、すでに始まっている「タンポポを調べよう」ですが、15 日現在で報告数が 17 通とちょっと出足が遅いようです。今年は春が早く、調査開始前の 3 月中旬にはもう咲き始めていたようです。特に、在来タンポポは花の咲く期間が短いので、早々に調査を行う必要があります。皆さん、調査の方どうかよろしくお願いいたします。

また、5 月 26 日(日)にはタンポポの合同調査会を計画しています。詳細はまだ決まっていますが、決まり次第ご連絡させていただきますので、こちらの方への参加もよろしくお願いいたします。

先日年度初めのアンケートをお願いしましたが、その中でスタッフにはなれないが、時間があればちょっとのぞいてみたいという方が何人かおられました。今年度も掲示板に開催予定を入れておきますので、ぜひのぞいてみてください。

それでは、今年度も積極的なご参加をお願いします。



フィールドレポーター 5・6 月の予定をお知らせします。

・ 5 月 11 日(土)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	14:00 ～
・ 5 月 25 日(土)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	14:00 ～
・ 5 月 26 日(日)	タンポポ合同調査会	詳細未定	
・ 6 月 9 日(日)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	14:00 ～
・ 6 月 22 日(土)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	14:00 ～

*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

表 題【冬場のカイツブリは池の散策から】

投稿日【02.02.07】お名前【草津 市町村 橋本

天気が良いので、自転車を走らせ、草津川の歩道を通り、琵琶湖を眺めながら、志那の湖岸まで来ると、コハクチョウの群れが、今にもとひ立ちそうでカメラマンが一斉にシャッターをこまえてたので、少し見ていました。

それから約1時間過ぎてもとへ立たず私は寒さに負けて帰ることにしました。帰る道で琵琶湖に多くの水鳥が浮かんでいましたか。

カイツブリの姿を見ることが出来ず、是非見つけようと思い、昔近くの池で見たことを思い出し、通称、三ツ池へ行ってみました。

昔は水が満ちたのですか 工事中で水が抜かれ、湿地帯の所で、カワウ？ ダイサギ？ が集っていました。二つ目の池には水が減っていましたか、鳥が泳げる程度の水がありカモ、サギ、ウ等が あちう。

こちらに居るの中にカイツブリを四羽見ることが出来ました。

カツブリは春さき 草津川の湖畔近くでよくサカけたのですが今は見ることも出来ません。冬場は大玉な池でないと見られないのでしうか？、これから池の

散策から始めます。

私の子供の頃、童うた…(カイツブリ、カイツブリおまの頭に火が着いた。)

二世にもぐろ カイツブリを見て この様にうたっていました。

表題【湖北町の野鳥センターへ行ったよ。】

投稿日【 4, 10 】お名前【 草津市町村 amagae ru】
020410

020410

オオバンとか、かるかもとか とんびの巣
とか、あおさぎとか、かんむりのついた鳥
とか、なんた"かんた"、……覚えきれなかった。
望遠鏡を自分一人で独占できて、なおかつ
どの鳥もおしえてもらって、楽しかった。



おあすめポイントでーす。

でも季節によって鳥かーいはくたさのかはあ。

表 題 [ダイサギ or チュウダイサギ]

投 稿 日 [2020]

名 前 [彦根市 加藤啓英]

鳥の調査も一段落しましたが、この調査対象にあげられている「ダイサギ」について、少し気になっている事があります。

野鳥についての素人向けの書籍の半数ほどには、「ダイサギ」と「チュウダイサギ」を別の亜種であると言う説をとっており、「ダイサギ」はごく稀に日本にやってくるものであり、通常見られるのは「チュウダイサギ」である、の注記がされているのです。

家中の鳥の本を引っ張り出し、比較してみました。(雨の日はやたらに暇なのです。)

「ダイサギ」のみで別の亜種はないとするもの

- | | | |
|---------------------|----------------|-------------|
| カラー日本の野鳥 2(山と溪谷社) | 《清棲幸保 1970/08》 | |
| カラー自然ガイド水辺の鳥(保育社) | 《小林桂助 1973/08》 | *この人は下説にも登場 |
| 野鳥探索小図鑑(講談社) | 《中村登流 1984/09》 | |
| 日本動物大百科 3 鳥類 I(平凡社) | 《浜口哲一 1996/07》 | |
| 図解ハンドブック 滋賀県の水鳥 | 《口分政博 2000/05》 | |

「ダイサギ」と「チュウダイサギ」を別の亜種とするもの

- | | | |
|---------------|----------------|--------------|
| 原色日本鳥類図鑑(保育社) | 《小林桂助 1956/03》 | *再登場 |
| 日本百科大事典(小学館) | 《黒田長礼 1963/09》 | |
| 世界大百科事典(平凡社) | 《今泉吉典 1972/04》 | |
| カラー動物百科(平凡社) | 《記載無し 1974/11》 | |
| 広辞苑(岩波書店)初版 | 《記載無し 1955/04》 | |
| 広辞苑(岩波書店)四版 | 《記載無し 1995/05》 | 重版の物の年/月は改定日 |

記述の概略

学名は別亜種としないものでは、ダイサギを *Egretta alba* とし、別亜種とするものでは、ダイサギを *Egretta alba alba* チュウダイサギを *Egretta alba modesta* (Gray)

別亜種とするものでは

- | | |
|-----------|---|
| 《サイズ》ダイサギ | 翼長 40~46 cm 嘴 11~14 cm |
| チュウダイサギ | 翼長 34~39 cm 嘴 10~12 cm |
| 《繁殖地》ダイサギ | 中国北部、シベリア南東部、アジア北西部、ヨーロッパ南東部、
日本には極めて稀に大陸から飛来する。 |
| チュウダイサギ | インド、マレー諸島、中国南部、朝鮮、本州、九州、冬は南方に
渡る。 |

とはなっておりますが、冬でも結構見かけますね。温暖化でチュウダイサギが残留するのでしょうか。全部か、極めて稀なダイサギなのでしょうか。やはり、別亜種は存在しないのでしょうか。

表 題【“つぼめ” か！】

投稿日【02.3.20】お名前【専津市町村 木江ミケ子】

ミ、スーさん つぼめが家の内へ入って来はくさつぱりに
今斗、3月14日、午前10時頃 スーンと飛来！なりました
それから 待っているけど 見えてません。何時か家にはいる
わけでもない こともありませんか。

我が家には、いっぴき、つぼめが家に入らないう
飛来口を 開けて待っています。

この家が建ってからスーッとで！

表 題【カワウと新緑】

投 稿 日【020417】

名 前【びわ町 梶本 さつき】

瑞々しい新緑や、野鳥から生命のドラマを感じる季節になりました。

春になると、アオサギのくちばしがピンクに変わり、巣づくりを始めます。美しいピン
クのくちばしに見とれていると、ヒッチコック映画の「鳥」を連想するようなカワウの連
隊に、息をのんでしまいます。朝の空を、黒くおおうようなカワウの大群です。

自然は、人の及ばない力で生きていることを、まざまざと見せつけます。

野鳥たちの住みやすい環境を喜ぶべきなのかもしれませんが。カワウの異常さには、複
雑な心境です。

八重桜が、10日ほど早く満開になりました。(4/16)

雨の後「ヘチマ」の種を蒔こうと思います。例年より早い種蒔きなので、発芽まで、新
聞紙で覆い保湿と保温を計るつもりです。

2002年のヘチマとの出会いに心弾ませています。それは、フィールドレポーター皆
さんとの出会に他ならないからです。

まず、種を蒔きしっかり根をおろしたいものです。

表 題 「教えて下さい」

投 稿 日 「020220」

名 前 「彦根市 加藤啓英」

その1 高校時代よりこの方、疑問に苦を生やしていることがあります。私は63歳になろうとしていますので、かれこれ半世紀、疑問長期間記録のギネス登録ものです。

カツオノエボシについてです。私の理解（？誤解）では機能を異にする個体よりなる群体であり、多分ホルモンのようなものの働きで各個体の機能の分担がきまるのではないかと思います。これですと有性生殖による次世代への遺伝情報は生殖体の個体のものだけとなりそうですが、それで正しいのでしょうか。

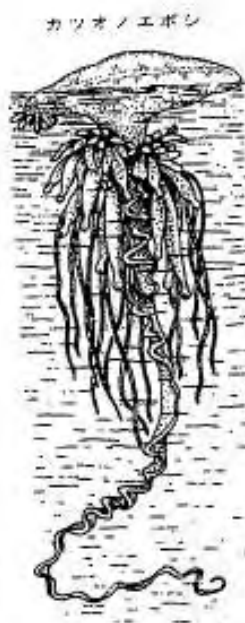
又、一群体を構成する個体は、一個の個体から発生した「身内のクラゲ」でしょうか。あるいは血？縁の遠い「あかの他クラゲ」の場合もあるのでしょうか。

その2 高校時代の授業までは、生物は植物界・動物界の二界として扱われましたが、当時でも少し無理な点が目につきました。今は、義務教育+高校では多分五界説をとっていると思い、手近な範囲で調べてみましたが、どうも研究者毎に少しずつ主張が異なるように思え、かえって解らなくなりました。

生物についての日本人の素人談義の共通の底辺としての、義務教育+高校で教える五界説について教えて下さい。

かつおのえぼし *Physalia physalis*
utriculus クダクラゲ類の1種。上端にえぼし形の浮きがあり、その下面に長短、大小さまざまなひもが下がっている。浮きはビニルの袋のように、薄く、堅くて強く、美しいコバルト色で、黒潮の色にそっくりである。その下のひも状のものはこの動物の本体で、栄養体、生殖体、触身体などの個虫が集まっており、それらの基部から長い触手が出ている。触手のうち中央のものは長く、初めは1本であるが老成すると数本になる。熱帯から温帯にかけて主として暖流に浮かんでおり、カツオの群と一っしょに見つかることが多いのでカツオノエボシの名がつけられた。風波のため、暖流の影響を受ける海岸に打ち寄せられることがある。主触手の刺胞は毒がひどくて、これに刺されるとやけどしたように激しく痛む。

(滝 澤)



「鰐の鳥帽子」クダクラゲ目のヒドロ虫類。ポリプは群体を作り、一個の大きい青藍色の気胞体で水面に浮び、下面に指形の栄養体、樹枝状の生殖体などを懸垂。長く垂れ下がった触手に触れると刺胞に刺され、劇痛を感ずる。広く暖海に産し、風で海岸へ吹き寄せられる。電気水母。

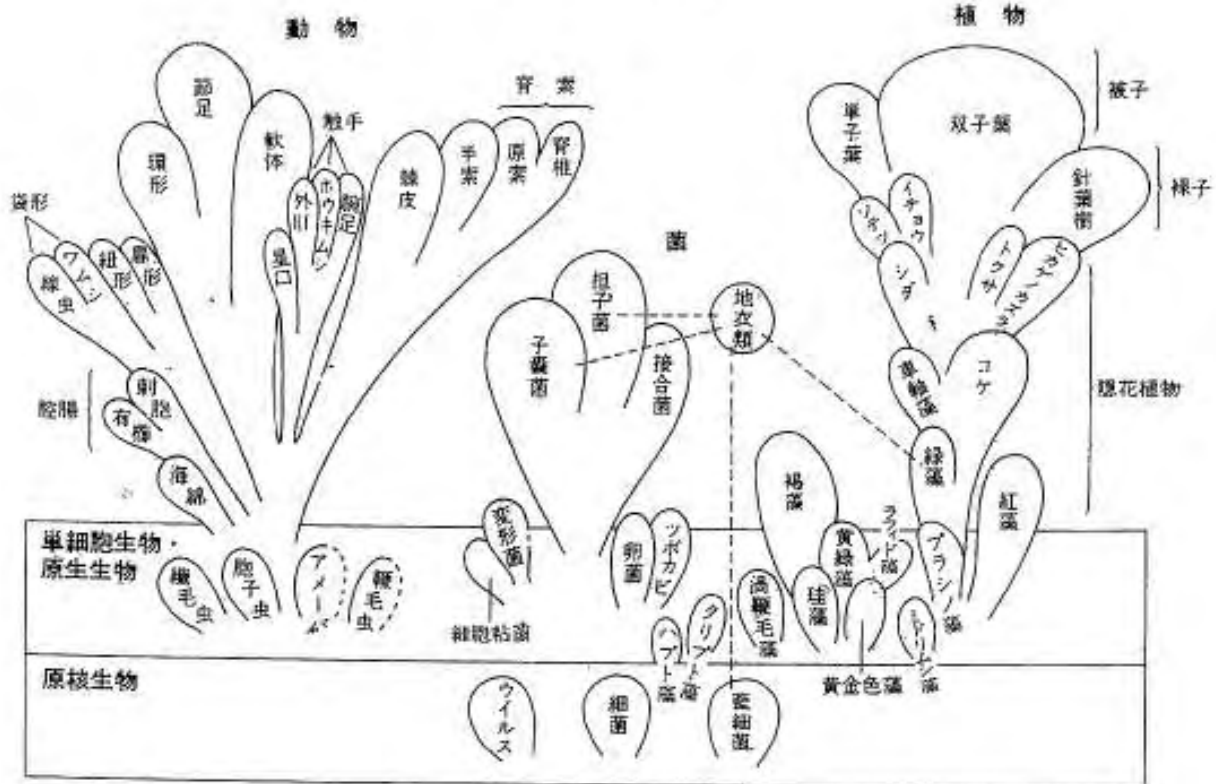
①

②

① 世界大百科事典 (平凡社)

② 広辞苑 (オ4版)

生物の系統



3

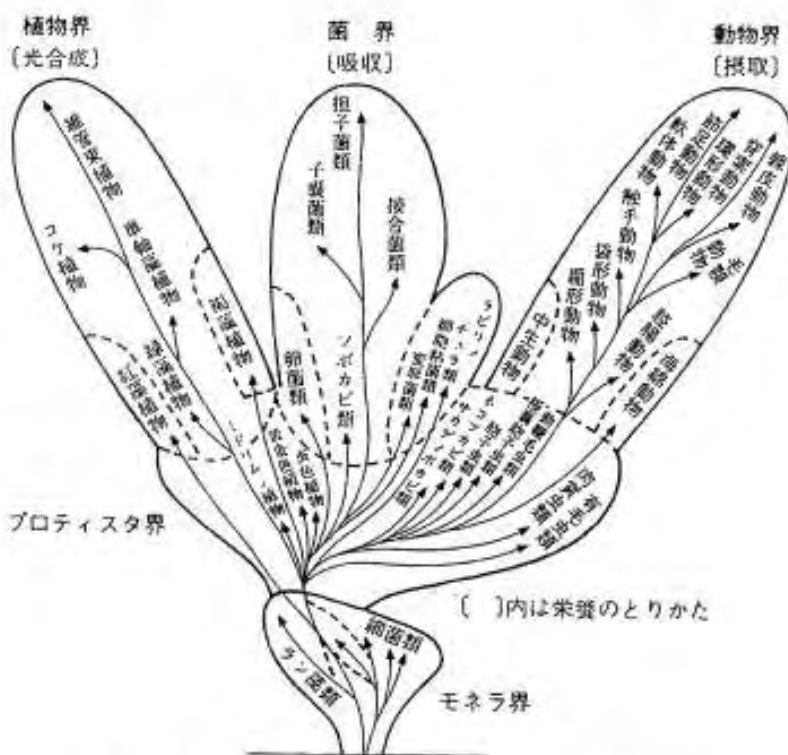


図2 生物界の系統図 (5界説) (ウイタノカー1972を改写)

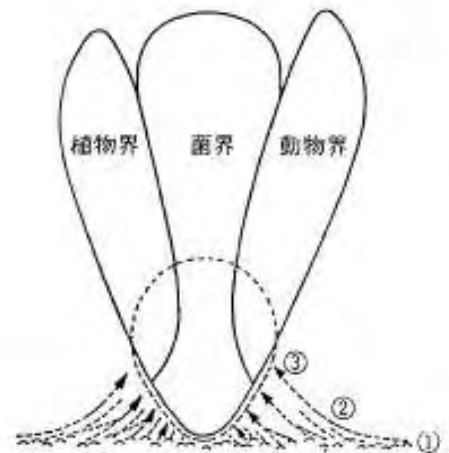


図3 生物図の構成

①～③は想像上のもの。
①35億年前の原始生物群。
②その後の進化(点線矢印)。
③10～15億年前の単細胞生物群(点線倒卵形内)。
実線で囲んだ部分は現在の生物群で、倒卵形と重なる部分は単細胞の生物群。
(寺川、1978)

- ③ 理科年表 1998 (国立天文台)
④ 検索入門 きのに図鑑 (保育社)

4

表 題「適度にハゲた田上山／続」

投稿日「020211」

名前「大津市 有田 重彦」

掲示板先々号で田上山のはげた由来を簡単に述べましたが、最近、関連資料が見つかりましたので続としてまとめてみました。

1. 田上山

残念ながら私は田上山に登ったことがないので、『近江の山』（木村至宏 シーグ社 1988）からこの山の記事を引用すると「田上山山岳地帯の主峯は太神山（599m）で、取り巻くように堂山（387）笠間岳（433）矢筈岳（562）猪背山（553）などの山々が並び、荒れたハゲ山の感がある」そうである。

石器時代以後この地に住む人々を育ててきた田上山の森林に、その良材を求めて伐採が行われたのは七世紀末のことで、万葉集巻一の「藤原宮の役民の作れる歌」に下記のような記述があり、この山の檜が瀬田川、宇治川、木津川を通して運ばれ、藤原京の造営に用いられたことが証明されている。田上山の森林が柚として設定され、藤原京、平城京の造営のほか大寺院の建立の用材として盛んに徴用され、はげ山になったわけである。

『・・・石走る淡海の国の 衣手の 田上山の 真木さく 檜の燭手（角材）を もののふの 八十氏河（宇治川）に 玉藻なす 浮かべ流せれ・・・泉の河（木津川）に 持ち越せる 真木の燭手を 百足らず 筏に作り・・・』

2. 近江の柚の運搬経路

大津市歴史博物館展示資料によると、田上山を含めた近江の柚は、次の水路で瀬田川から奈良各地へ運搬されたそうである。

- ①高島山⇒安曇川⇒阿戸水門（川口）⇒琵琶湖⇒勢多（瀬田）川
- ②甲賀山作所⇒柚川⇒三雲津⇒野洲川⇒夜須湖（川口）⇒琵琶湖⇒勢多川
- ③田上山作所⇒大戸川⇒勢多川
- ④大石山⇒勢多川

勢多川からは、宇治川⇒宇治津、巨椋池⇒、木津川⇒泉津（木津）⇒藤原京、平城京。

注1）津は港のこと

2）高島山は、安土城の築造に際しても柚の役を担ったそうである（読売新聞）

表 題「カマキリの寒中ふ化／続」

投稿日「020300」

名前「大津市 有田 重彦」

先号の掲示板で、昨秋できた卵のうが12月18日に突然ふ化してしまい、その飼育を始めた様子を1月9日時点まで報告しましたが、その後の経過は次のとおりです。

- 1/09（ふ化後22日）2 齢幼虫1匹と1 齢幼虫8匹が生存。
- 1/13（ふ化後26日）1匹脱皮して2 齢幼虫が2匹、5匹死んで残り4匹。
- 1/28（ふ化後41日）1匹脱皮、別の1匹は脱皮失敗で死ぬ。2 齢幼虫3匹となる。
- 2/03（ふ化後47日）2 齢幼虫1匹死ぬ。残りは2匹。
- 2/06（ふ化後50日）1匹脱皮して3 齢幼虫と2 齢幼虫各1匹。
- 3/16（ふ化後88日）現在、食欲は平常とうりであるが、一向に脱皮せず。

「背泳ぎと背歩き」の表題で、背泳ぎができる水生生物は、ホウネンエビと甲虫の中間のマツモムシ、陸上ではコガネムシ科ハナムグリの幼虫と書いてきましたが、昨年、TBSテレビ「世界・不思議発見」番組の中で、逆さ泳ぎの魚がクイズの問題として取り上げられていました。エジプト古代壁画の下部に逆さ向きの魚が普通の魚に混じって刻まれていたのですが、その名前が聞き取れなかったので、「ます」が専門の桑原学芸員に聞いたところ逆さナマスではとのことで調べたところは次のとおりでした。

「サカサナマス」逆鯰 *squeaker* (フー・フー・鳴くもの), *up side down catfish* (なます)

硬骨魚綱ナマス目サカサナマス科の淡水魚で10種類が存在。

サハラ砂漠以南のアフリカに棲息。雑食性（水藻や水中昆虫）。

代表種は、*up side down catfish* (*シドフスニグレンリス*) と呼ばれるもので、10センチ弱。体色は腹面が背面より黒で（逆さ向きで泳いだためこうなったのでしょうか？）普通は背腹逆で泳ぐ。逆位になると口が水面すれすれに位置するため、水面の餌が食べやすい（本来、水底の餌を食べていたのが、環境変化で水面の餌を食べるようになったためでしょうか？）。外敵から逃げる場合は正位もある。

テレビでは「ナイル河に住む小さな魚で口が下向きに付いていて、浮遊している餌を食べる時は背泳ぎをする」との説明で、鯰とはいってなかったのですが、引用の辞典には、ナイル河に住む種は次の二種となっています。

(1) ナイル河には、17センチになる「シ・ニグ」が棲息。

(2) ナイル河、チャド河には、40センチ余の「シ・スファル」が棲息。

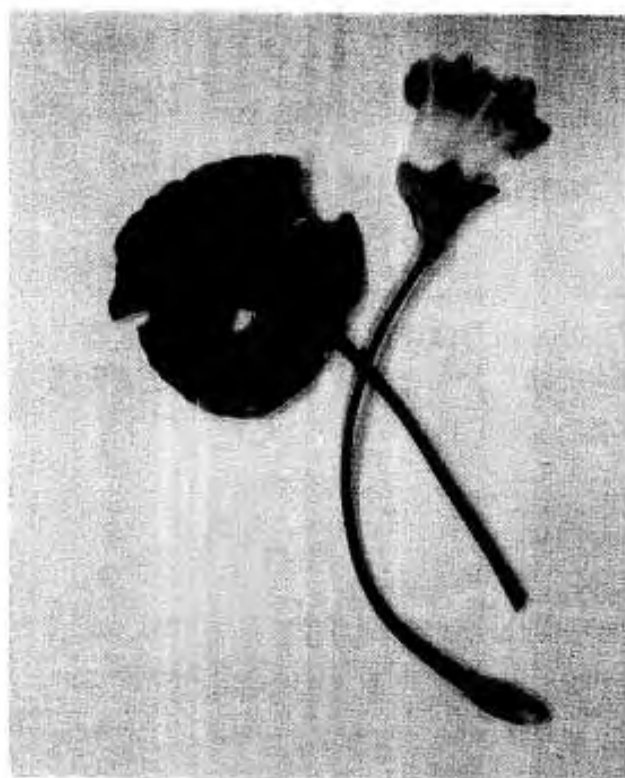
逆さで行動する生き物が、水生動物、昆虫類に続いて魚類にもいることが分かりましたが、動物類ではどうでしょうか。こうもりは、飛ぶとき以外は逆さでぶら下がり生活行動をするので（お産もこの状態ですが、赤ちゃんは落ちこまないよう、ちゃんと膜を張って受け止めるそうである）、同類と見てもよいのでしょうか。

本掲示板の先月号（通巻16号、2001.12）で、つわぶきの花びらは正常なもので13枚と報告しましたが、菊科のつわぶきの花は、中央部の管状花の集まりと周囲を取り囲む舌状花からなり、13枚の花びらとして数えたものはこの舌状花の数ということでした。したかって、つわぶきに関しては13枚の舌状花の数ということになります。舌状花の花びらとしては、1枚というところでしょうか。今度花が咲いたとき調べてみます。フィールドレポーターの方からご指摘を受けましたので訂正させて貰います。

表 題【春を彩る花めぐり】

投稿日【020409】お名前【草津市 久保 和友】

4月8日「月」曇 家族で、浅井町野瀬から、大吉寺前まで舗装路あと天吉寺川をさかのぼり、天神谷から頂上917、8米へハイキング登山をしました。枯れ葉で埋まる登山道の辺りに咲く花は、何種類もあつて見事でした。その中でも、添付の花は白、ピンクで、群れなして咲いていました。いろいろ調べましたが、花の名がわかりません、それに仁王門跡の手洗鉢「石造」水の中に「いもり」がいつばい棲息、手を洗うのも怖かった。なぜ、小さな手洗鉢に「いもり」観光化されていない、山寺跡、道標は地元「愛友登山会」の手によつて整備されていますが『秘境』です。



これは、イワウチワという花だそうです。比較的高い山の登山道のわきなどに、群生しているところがよくみられるそうです。

琵琶湖博物館
水族担当 桑原

イワウチワ

今年の春がやたら暖かいからではないと思うのだが、わが家の庭はいま盛大に、カラスノエンドウが繁茂して、これまで園長の悩みの種であり、癪の種でもあったスギナの影がうすい。

これまでカラスノエンドウはスギナに圧倒されて、スギナのない所にちょこっと生えていたのだが、今年は攻守ところを変え、カラス、のオンパレードだ。去年、定植の際、余ったヘチマの苗を植えたブロック沿いのところにも、びっしりカラス、がはびこっている。

今年はここにもう一度ヘチマを植えて、ヘチマの連作試験をしようと考えているので、そろそろ掘り返して少し肥料を入れてみようかと思うのだが、ヘチマとカラス、はどう反応するかな？ スズメノエンドウも見られるが、こちらはカラス、に遠慮してか例年なみだ。スギナが全く絶えたとは思えない、彼らはカラス、に地表権を奪われてはいるが、地下では、したたかに黒い枯れ枝のような根を張りめぐらし、その時をうかがっているのではなかろうか。

ところで、今年こんなにカラスノエンドウがはびこった原因はなんで？ 私の考えつくことと言えば去年、沢山の種が撒き散らされたから、としか考えられない。となると、来年はもっとひどいことになるのか？ そして、再来年は、さらにその翌年は……と想像すると、濃い紫の小花をつけたカラス、の敷きつめられた雑叢園が浮かび、ミニ蓮華畑を連想してしまった。

例年、スギナとドクダミで占められていた、コンクリートブロックと川溝の間の0.9×15メートルも今年はカラス、が占有して、スギナは申し訳ないどに見られるだけで、ドクダミの姿を見ない。スギナ、ドクダミ共にカラス、とは生育期が異なるからとも考えてみたが、他ではスギナもドクダミもいま盛んに伸びているからそれではなさそうだ。

毎年スギナには手をやき、なんとか絶滅させられないか考えあぐねているのだが、こんな形でスギナが絶えるのであれば有難い。だが、つぎにカラス、をどうやって絶やすかで、また新たな課題を園長が抱え込まねばならぬのであれば、おまえ等勝手に好きにやれ！と言わざるをえない。

因みに、わが家では農業を一切使わないので、近所の人が見かねて、こんなものがある、あんなものがある、これはスギナによく利くから使うたらと、農業のあれこれを薦めてはくださるが、私は使う気になれない。

先年、よく繁ったドクダミを見て、通りがかりの人が薬湯こするから貰えないかとのことで、どうぞどうぞ全部採ってもらっていいですよ、うちは農業はやってませんからと言ったら、それならドクダミ茶にしますと大量に採っていかれた。

いま、のうのうとわが世の春を謳歌しているわが叢園のカラスノエンドウ達に、ちっとは、彼のドクダミほどに世の為、人の為になったら！と期待するのはできない相談か。



カラスノエンドウ
野山で楽しむ春の草花
母と子の植物ガイド(さ・え・ら書房)より

表 題 [ちょっと良い本]

投 稿 日 [O20306]

名 前 [彦根市 加 固 啓英]

新聞広告を見る度に書店に頼んでおいた、溜まりに溜まった本に、忘れたところに底雪崩のようにドバッと直撃され、懐が凍りつく思いをすることがあります。

今回はなかなか良い本を入手しましたので紹介します。

1. 『好きになる 生物学』吉田邦久著 (株)講談社

私には、昔高校で「生物学」を習って以来の空白の「生物学の進歩」に追いつく為の補習に最適です。平易ですが結構高度で手抜き、素人騙しがあまり感じられません。

2. 『どんぐりの図鑑』伊藤ふくお著 トンボ出版 ¥2800.- (税別)

著者が元コマーシャル写真家の昆虫写真家だそうで、写真が非常に美しく、コナラ属マテバシイ属、シイ属、クリ属、ブナ属、までを含めてドングリとして扱っています。

クヌギ、アベマキ、カシワ、ナラガシワ、コナラ、ミズナラ、ウバメガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシ、ハナガガシ、ウラジログシ、オキナワウラジログシ、アカガシ、ツクバネガシ、シリブカガシ、マテバシイ、ツブラジイ、スダジイ、クリ、ブナ、イヌブナ、について、それぞれの一年間を追ひ、花・実・葉の成長と変化、発芽の様子、幹の木肌、が執拗に撮り続けられており、もしドングリに人権があったらプライバシーの侵害やストーカー行為として訴えられそうです。

ドングリの利用方法にはほとんど触れていませんが、木肌の鮮明な写真はフィールドでのドングリと樹木の照合・検索にも使えそうです。

《一度読むだけで、あまり手元に置く必要のない書籍は、近くの図書館に購入してもらうのも得策です。又、処分しようと思った本も図書館へ持って行くと必要なものは引き取り、不要なものは処分してくれます。》

◎掲示板への質問に対して

2001 年度も、2000 年度同様掲示板への質問がいくつかありました。2000 年度は、すぐに専門の学芸員に回答をもらい、質問に対応させる形で載せていたのですが、どうもそれではフィールドレポーター間での話題にならないように思えたので、2001 年度はあえて学芸員からの回答を載せませんでした。そのおかげかどうかはわかりませんが、2001 年度はいくつかの話題で盛り上がったように思います。

ただ、それらは必ずしも質問への回答ばかりではありませんでしたし、やはり専門に研究している学芸員からの回答があった方がよいだろうということで、2002 年度第 1 号で質問に対する回答集を掲載することになりました。

これからも、普段感じていることや身の回りの新しい発見、疑問質問等掲示板の方へどしどしと寄せてください。そして、一緒に楽しく議論を交わしましょう。

フィールドレポーター担当 桑原 雅之

学芸員さんからの回答

植物担当 布谷 知夫

「樹の切株を調べてみました」(2001年度 第5号 p.12 加固さんより)

簡単な書き方をしてしまうと、木は上が伐られてもその下はしばらくは生き続けています。動物とは違って植物は細胞の集りとして認識できる場合があります。栄養と水が送られてくる限りは細胞は生きていますし、形成層が傷つけられた場合には、カルスを作って傷をふさいでしまいます。おまけに樹木の場合には、形成層の前後の2～3列の細胞以外は、もともと死んでしまった細胞のカラの集りでしかありませんから、本当に形成層のあたりだけが大事なわけです。

ということで、伐られた樹木では、地下の蓄えを使ってしばらくは生きていますし、乾燥してしまわない限りは、生き続けると思います。そのうちに芽が動いて新しいシュートができ、やがて幹になっていきます。樹木というのは本当に面白いものだと思います。

なお、加固さんの絵の B ではカルスが下からわいてきたように描かれていますが、カルスは切られた細胞のところだけで作られます。また横の説明文では、定芽と書かれたものは不定芽がふさわしいでしょう。それと二本になっているのは、頂芽が失われたためかも知れませんが、一番普通に見られるのは、複数の不定芽が動いた場合です。ハクモクレンは知りませんが、コナラやクヌギなどの場合には、数十本の芽が一斉に出て、競争を行ないます。

私は大阪の池田市の出身ですが、近くの五月山という山には大きなアカマツがあって、斜めの切り傷がいっぱい付いていました。マツ枯れも進んでいるし、あのマツがまだあるかどうかは知りません。



納豆に関する疑問 (2001年度 第1号 p.15 加固さんより)

1 ナットウ菌は稲藁について何をしているのですか？また、好気性、嫌気性のどちらですか？

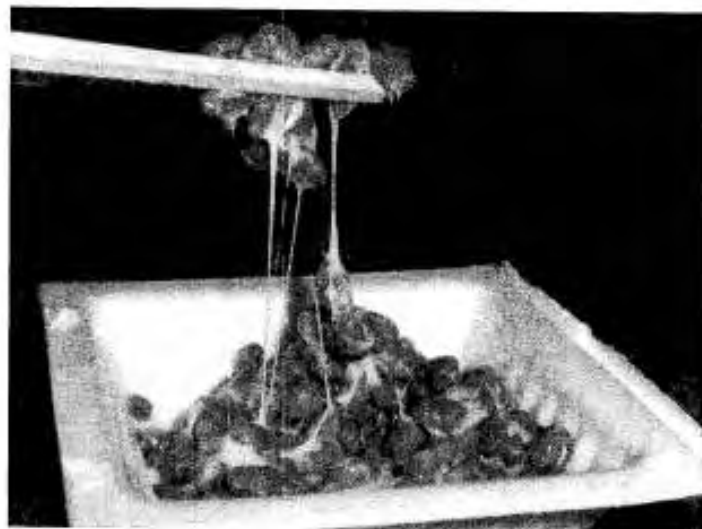
納豆菌は現在枯草菌 (*Bacillus subtilis*) に含まれています (p. 参照)。枯草菌の仲間は枯れた草を分解してエサにする細菌です。ですから、自然界にあるいろいろな枯れ草の上には枯草菌がついているものと考えられます。当然稲藁にもついています。

Bacillus 属の細菌の特徴は、好気性のグラム陽性菌で胞子を作ることです。ですから、酸素があった方がよい成長を示します。この仲間の胞子は熱に強く、100℃ぐらいの熱湯では死にません。微生物学の教科書に、培地などを滅菌 (殺菌) する時は 121℃以上の温度を、10分以上保つようにと書かれているのはこのためです。ちなみに、滅菌にはオートクレーブと呼ばれる自動圧力釜を使います。

2 納豆菌は窒素固定するのですか？

私の知る限り、*Bacillus* の仲間は窒素固定しません。ですから、あのねばねばの成分、ポリグルタミン酸は大豆の窒素を使っているものと思います

回答 微生物生態学担当
楠岡 泰



ヤマカガシについて (2001年度 第1号 p. 3 水相さんより)

いわゆるカラスヘビと呼ばれる黒化型のヘビには、ヤマカガシとシマヘビの2種類がよく見られます。シマヘビの黒化型の方は、本当に全身真っ黒になりますが、ヤマカガシの黒化型の方は、頭からのどにかけて黄色くなるのが特徴のようです。今度見かけられましたら、確かめてみてください。どちらも1m前後にまでなり、大きなものでは2mちかくまで成長することもあるようです。どちらも滋賀県内ほぼ全域に分布していますが、カラスヘビとしてはヤマカガシよりもシマヘビの方が多いとのこと。

シマヘビには毒はありませんが、ヤマカガシの方は猛毒を持っています。ただ、マムシなどに比べると毒牙も小さく、しかも口の奥の方にあります。大変おとなしいヘビでまず自分からかみついてくることはありませんから、むやみにおそれることはないでしょう。これらの理由から咬傷事故はあまり知られておらず、毒蛇という認識が一般には少ないようです。ただ、1984年に愛知県で中学生がヤマカガシに咬まれて亡くなってから、毒蛇として恐れられるようになりました。ただ、この例でも中学生がヤマカガシを捕まえて遊んでいたときの事故ということなので、特殊な例といえるのではないかと思います。通常は、捕まえてさわったぐらいでは咬むことはありません。とはいえ、ヤマカガシの毒はマムシなどと同じ出血毒で、体内にはいると血管などの組織を溶かしてゆき最後には多量の出血で死に至ることもあり、その強さはマムシ以上でハブにも匹敵するようです。まあ、むやみにおそれることはないものの、‘触らぬ神にたたりなし’という態度が一番よいのではないのでしょうか。

シマヘビとヤマカガシでは、若干すんでいる場所が異なるようです。どちらも平地から山間部まですんでいます。シマヘビの方は比較的人家に近いところヤマカガシの方は少し山手の方に生息しているようです。また、シマヘビがネズミやトカゲなどを主食にしているのに対し、ヤマカガシはカエルや小魚などを主に食べているため、ヤマカガシは比較的水辺に近いところで見られることが多いようです。

●ヘビのすずみ方

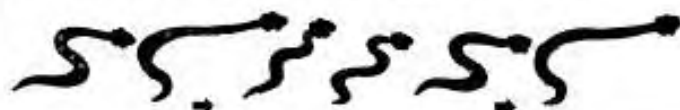
①からだを左右にくねらせてすすむ。(シマヘビ)



②からだをのばしたり、ちぢめたりしてすすむ。(クサリヘビ)



③からだの二か所をいつも砂地につけてすすむ。(サイドワインダー)



科学のアルバム
ヘビとトカゲ(あかね書房)より

植物同士が大戦争。応援の方法を教えてください。(2001年度 第2号 p.16 浅井さんより)

スズランとエビネについては、たしかにスズランはアレロパシーとよばれる化学兵器を使っているという話は聞いたことがあります。ただちょっと気になるのは、この場所の明るさです。一般的には、スズランは日がよく当たる明るい場所で元気に生えているようですし、エビネは一般的に森の中のちょっと陰になったような場所で暮らしているような気がします。ですから、もしその場所が日が当たる場所であれば、スズランが元気ではびこって、エビネは消えていくということになりそうです。またこれも一般論ですが、スズランというのは定着したところでは、まさに雑草でどんどん広がっていきます。そういういくつかの要因があわさっているのかもしれませんが。

同じような目でみると、シランは日向が好きで、ヤツデは日陰でもよくて、自分をもっと日陰を作ります。シランも広がりましたら、ずいぶん元気な植物ですが、どうしたんでしょうか。そこは日は当たっていますでしょうか。いずれにしても、シランをすこし避難させてやってはどうかでしょうか。

違った植物同士の関係は結構いろいろな原因がからんでいて、本当の原因をはっきりと決めることは難しい場合があります。まず目で見て分る原因を確認して、それで解決ができなかったら、次は見て分らないところに原因をもとめます。この場合の目に見える原因は、気象的な環境、おそらく日当たりではないかと思ったのですが、実際はどうかをまた教えて下さい。



スズラン
日本の野生植物(平凡社)より



エビネ
山溪カラー名鑑
日本の野草(山と溪谷社)より

背泳ぎと背歩き (2001年度 第3号 p.8 有田さんより)

私は子どもの頃からの「カタツムリ屋」ですが、ナメクジの足の裏を真面目に見たことがありません。でも、カタツムリの足の裏を見たことはありますし、そのことは子ども向けの図鑑などでも紹介されていますので、まずはそれから説明したいと思います。

まずは大型のカタツムリを準備します。滋賀県内の平野部だとクチベニマイマイかナミマイマイが普通で、殻の径が3~4 cm くらいです。とくにクチベニマイマイは、木に登ったり、壁を這ったり目立つところにいるうえ、殻の地色が真っ白でそれに黒い帯が入っているために、一番見つけやすい種類かもしれません。ナミマイマイは地色が黄土色で、体も褐色ですから、クチベニマイマイとは一目で区別できます。

透明な板にこれらのカタツムリを這わせて、足の裏を観察すると、濃淡の縞模様が足の後端から頭の方に向けているのが観察できると思います。ナメクジでも同様の縞模様が見えるものと思っ

ていましたが、見えにくい事情があるのかもしれませんが。
さてこの縞模様の動きが筋肉の波動的な収縮運動を表していることまでは想像できるのですが、実際、これが何なのか、私にもわかりませんので、参考書を調べてみました。『軟体動物学概説(下)』「運動」の項)

まず、このように進行方向に向かって起こる波動を「前進波」、その逆の波動を「退行波」と呼ぶとのことです。カタツムリの場合は前進波になります。

以下、前進波の解説を抜粋します。

「前進波では、足の裏が基盤に付着している部分は最大限伸長している所で、前方への移動は足の長軸方向に圧縮された部分で起こる。」

「前進波による前進は、足の裏の前方に移動している部分の滑り摩擦に打ち勝つ、後向きの十分な力を地面に対して加えることによって起こる。」

なんだかよく判りませんね。

私なりに解釈すれば、足の裏の筋肉は、前後方向に伸びた部分と縮んだ部分とが交互に並んでいて、伸びた部分が地面に固着し、縮んだ部分を地面から浮かせて、それを次々に前方へと移動させ、前の方に移動した縮んだ部分を地面に付けて、それを伸ばすことでその分だけ体が前進する、というのをくり返している、ということだと思います。そして縮んだ部分をどんどん前方に移動させるために、体の後ろから前へ縞模様が波打って見えるのだと思います。

担当者からは、「できるだけやさしく」と指示されていましたが、今回はやさしい回答にならなかったこと、力不足の反省とともにお詫びしたいと思います。

ところで、滋賀県には6種類以上のナメクジが記録されています。同じナメクジと言っても、いくつものグループに分かれていて、足の裏の動かし方も種類によって違っているかもしれません。

ナメクジ科

ナメクジ ふつうに見られる「甲羅」のないナメクジ

ヤマナメクジ 最大20cmにもなる大型種

オオコウラナメクジ科

オオコウラナメクジ

ヤマコウラナメクジ どちらも山奥に行かないと見つからない

コウラナメクジ科

チャコウラナメクジ 畑地や庭、さらには家の中にもよく出没する外来種

コウラナメクジ チャコウラが幅をきかせる前には県内に居たかもしれない外来種

ノナメクジ? 畑地などで時々見つかる外来種

イボイボナメクジ科(仮称)

イボイボナメクジ 他のカタツムリを食べる小型の肉食種、山地性

ちょっと脱線しましたが、このへんで。

鳥の嗅覚について (2001年度 第3号 p.2 加固さんより)

加固さんが以前ご質問された鳥の嗅覚について、お答えしたいと思います。

と言っても、私もうろ覚えのままいいかげんなことを言っではいけないので、ちょっといくつかの本を調べてみました。

鳥の場合はなんといっても視覚が一番大事な感覚器である場合が多く、ついで聴覚、その次が嗅覚（触覚、味覚はかなり近づかないと使えないでしょう）と言われていています。人間と同じですね。普通、哺乳類（特に夜行性の動物）は、嗅覚と聴覚に頼っていますから、人間の方が哺乳類の中では例外と言えます。

哺乳類の中でも人間が例外であるように、鳥の中でも例外は存在します。嗅覚が大事な役割を果たしている鳥もいます。たとえば、アメリカにいるヒメコンドルという鳥は、腐肉を主食としているのですが、匂いで餌のありかを探しています。その証拠に、他のコンドル類より鼻孔が大きく、複雑な構造をしていて、臭葉という匂いを感じる脳の部分も発達しているのです。

また、海洋で生活するミズナギドリやアホウドリなどの種類でも、くちばしの上に管状の鼻孔をもっており、臭葉も発達しています。本当に匂いで餌を見つけているのかどうかを調べるため、魚の匂いのする油を海にまいたところ、こうした鳥類が集まってきた、という結果もあります。

こうしたことから、多くの鳥では匂いを感じる能力はそれほど高くはないものの、一部の種類ではかなり嗅覚が発達していて、それを頼りに生活していることはたしかなようです。

鳥の感覚や面白い行動については、デービッド・アッテンボロー著（浜口哲一・高橋満彦訳）「鳥たちの私生活」（山と溪谷社）にいろいろな例が載っています。



鳥たちは自分たちの生活環境に応じて、それぞれ異なる能力を身につけている。その能力の強弱は、その鳥の生活環境によって異なる。

森の野鳥観察図鑑
鳥のおもしろ私生活(主婦と生活社)より

ヤドリギについて(2001年度 第3号 p.16 加藤さんより)

1) ヤドリギの塊りが丸いということは、等速で成長したということになると思います。ただ、光を受けることを考えると、直射光を期待しているかどうかは疑問です。落葉樹ではありますが、冬以外は葉っぱの中に隠れてくらしている植物ですから、周辺からの反射光などを使うことを最初から計画していたとすれば、球でも問題はないかも知れません。

樹木の樹形を考える場合に、上からの直射光よりも反射光や横からの光に頼っている場合があります。そういう場所では樹形が変わります。「しだれ」という形は、本来は横から来る光を受ける形であるといわれています。

2) ほとんど知りませんが、はっきりした寄生であって、有機物も取り込むと聞いたように思います。まったく根として機能しているようです。

3) これもまったく知りません。ヤドリギにヤドリギが寄生というのは、見たことはありません。調べてみれば、なにか分るかも知れませんが、ちょっと今は勘弁して下さい。普通の本等では分らないと思います。専門的に調べている人に聞く以外ないように思うので。



ヤドリギ
樹木図鑑(北陸館)より



稲枝駅西側より 雑件 (2001年度 第5号 p.9 加固さんより)

まず1. のメダカについてですが、なかなかやっかいな問題ですね。

先般改訂されたレッドリストの中で絶滅危惧種に指定されたことから、メダカが一躍注目され、探し回って捕まえ、人工的に殖やしてそこいらに放流するというのがブームのようになってしまっています。

ただ、よく考えてみてください。細々と生き残っているものを捕まえてしまうということは、そこに住んでいるメダカの絶滅に手を貸してしまうことにもなりかねないのではないのでしょうか。「殖やしてまた放流する」というのも、なぜそこにそれだけしか住めなくなってしまったのかということを考えないと、少なくなってしまったえさやすみかなどの資源を、多くの個体で取り合うことになり、最悪の場合放流したがために元からいたものも、放流したものも全部いなくなってしまうということにもなりかねません。

結局、本当にメダカを護りたいのであれば、メダカの住める環境を取り戻さなければ、本質的な解決にはならないということだと思います。また、メダカについては地域によって遺伝的にかなり違いのあることがわかっています。ただ、わかっているのは日本全国でどのような分布をしているかといったかなり広範囲における状況で、もっと狭い地域内での違いというのはよくわかっていません。わかっていないというのは、違いが無いというのとは違いますから、そういう意味でもむやみに放流するというのは考え物です。

メダカに限らず生き物というのは、私たちが思うよりも結構したたかなものですから、環境さえよくなれば今生き残っているものが元になってまた増えてくると思います。

2. の問題についてはむずかしいですね。愛知川や宇曾川が干上がってしまうのは、上流で農業用水を取水しているからでしょう。昔は、水田間で水を使い回していたので、今ほどの水量もいらなかったでしょうし、使い終わった水は川に戻されていたのではないのでしょうか。現在は圃場整備が進み、水田ごとに水の管理をしますから、水田の分だけ水が必要となりその分多くの水を取水しなければなりません。また、使い終わった水は用水路を通して琵琶湖に流されることが多いようですから、水田耕作が行われる初夏の頃から夏過ぎまでは、干上がってしまうということになるのだと思います。

ちなみに、用水路を上ってきているハゼは、その年生まれの特選の稚魚だと思います。5-7月に生まれた稚魚は琵琶湖内で成長し、7-9月頃湖岸付近で着底して川を上り始めます。また、パーマークがあるように見える魚というのは、ひょっとしたらビワマスの稚魚かもしれません。ビワマスの稚魚の中には、琵琶湖に下らずに川に残るものがありますし、マス類にしては比較的高温にも強いので、近くにわき水があったりすると夏を越してしまうものもいます。

3. のヘチマについては、申し訳ありませんがわかりません。昨年度のヘチマクラブでも懸案になっていたように思いますが、今年度のヘチマクラブの中で調べてみましょう。

ヘチマについて (2002年度 第6号 p.8 加固さんより)

ご提案のヘチマの皮の剥き方はおもしろいですね。なるほどまいやり方だと思います。

ご質問は、「①ヘチマの種子は実の中では十分な水分があるのに発芽しないのは、発芽抑制物質のようなものが働いているのでしょうか。②秋・冬の内に発芽してしまうことのないための歯止め機構があるのでしょうか。直前まで果汁に浸って濡れていた種子の表面を、水洗いして乾燥しただけで、再度水を与えれば発芽の条件は整うのでしょうか。また、③広く認められた発芽率測定の手順がありましたらお教え下さい。」でしたね。

まずおっしゃる通り、秋・冬の内に発芽しない歯止めがあります。でないと当の昔の暖かい秋か冬に発芽してしまっ、冬を越せず、絶滅してしまっていたでしょう。一般に1年生植物は春に種子から芽を出し、春から夏に花を咲かせ、夏から秋に実を結んで種子を残し、生活に不適な寒い冬は種子の状態ですごします。種子は子孫繁栄のための器官であると同時に、休眠をするための器官ともいえます。厳しい冬は「休眠状態」(生理活性が低下し、生育が停止した状態)で乗り切ろうというわけです。

ご質問の②歯止めの機構としては、低温(冬)を経験しないと、休眠が破られないことがあげられます。低温(0℃～5℃)を経験させると、①種子内で発芽を抑制しているアブシジン酸などの濃度が低くなり、発芽を促進するジベレリン濃度が高くなることが知られています。さらに低温処理(休眠解除)して温度や水分や光など発芽に好適な条件下においてやっても、発芽しない植物もたくさんあり、休眠打破のやりかたは一部のよく調べられた植物についてしか分かっていません。そのタイプは植物によっていろいろあり、いくつか例をあげると種子が、固くて水(マメ科の多く)や酸素(オナモミ属)を通さない種皮で覆われている場合、この場合は砂と一緒にむと濃硫酸に短時間つけるなどして、種皮を傷つけ水や酸素が入るようにしてやると発芽するようになります。種皮が堅くて発芽しない(アオビユ等)場合、種皮をはずしてやる。その他、種子が落ちてから後熟するものは熟するまで待てば、発芽するようになります等々。

ヘチマがどれに当たるかはご自分でいろいろ試してください。

③農林水産省の種苗法で定められている発芽率測定方法を紹介します。市販の種子はほとんどこの方法で測定されています。好適条件にして発芽させ、ほぼ出そろった日を「発芽締切日」として設定する。通常は10日～14日。木本はもっと長いものがある。蓋付きのガラスシャーレを発芽器として使って、水で湿らせたろ紙を敷いて種子を入れ、定温器内で発芽させ、「発芽締切日」に発芽種子数を数えて発芽率=発芽種子数/全置床数 を求める。1回にまく量は50個や100個で、反復して400粒以上の種子で試験すること、となっています。ちなみに、100個の試験で、発芽率50%の種子ならほとんどが60%～40%の間に、発芽率90%の種子なら96%～84%の間に入ってきます。当然あらかじめ、極端に小さなものや水に浮くような未熟な種子は除いて行って下さい。ガラスシャーレのかわりにイチゴのバック容器に脱脂綿を湿らせたものを発芽床とし、乾かないようにテープで目張りしたものでも代用できるでしょう。ただ、加熱したものは時間にもよりますが、通常は発芽しないと思います。また何かおもしろいことが分かったらお知らせ下さい。

納豆菌、乳酸菌の名前の表記はどれが正しいか？（ナットウキン、ナットウ菌、納豆菌）（ニュウサンキン、ニュウサン菌、乳酸菌）（2001年度 第6号 p.14 加固さんより）

生物の学名（ラテン語表記の国際的な名前）には動物、植物それぞれに命名規約があり、国際的な細かいきまりがあります。しかし、和名にはきまりがありません。よって、ナットウキンでもナットウ菌でも納豆菌でもかまわないと思います。

一般的に自然科学の世界では生物の標準和名はカタカナで表記することが多いようです。ですから、山桜→ヤマザクラ、黒鯛→クロダイのように表記します。このことから、納豆菌はナットウキンと表記するべきなのかもしれません。しかし、どの微生物の本を調べても納豆菌、乳酸菌という表記しかありませんでした。乳酸菌は1種の生物の名前ではなく、乳酸発酵する様々な細菌の総称であるため、漢字表記をするののかもしれません。また、微生物学には医学の影響が強いため、細菌の名前はカタカナ表記されないののかもしれません。

インターネットで検索したところ、ナットウキン 8 件、ナットウ菌 156 件、納豆菌 5050 件が見つかりました。

納豆菌の学名はもともと *Bacillus natto* ですが、最近は枯草菌 *Bacillus subtilis* の一系統に含まれるようになったみたいです。*Bacillus* 属の中には最近世間を騒がせた炭疽菌 *Bacillus anthrax* も含まれています。

乳酸菌は糖から乳酸を作る乳酸発酵を行う細菌の総称で、*Streptococcus*, *Pediococcus*, *Lactobacillus* 属などさまざまな細菌が含まれています。

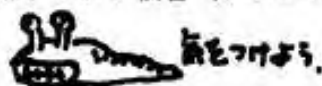


2001年度から行っているヘチマの調査も2年目を迎えました。

昨年は「とにかくヘチマのたわしを作ろう!」ということで皆さんにヘチマを育てていただきましたが、残念ながら半数近くの方がたわしを作るところまでたどり着けなかったようです。そこで今年もヘチマづくりにチャレンジするところから始めたいと思います。

1. 昨年失敗したのは、どこに問題があったか?

ひとつめの問題として、種をまいたがなかなか芽がでない、ということがありました。成長の遅れが花の遅れにつながり、肌寒くなる頃によく実がなったけれど、腐ってしまった。そういう方が多かったのではないのでしょうか。もう一つの問題は定植時のナメクジ被害（ダンゴムシ犯人説もあり）です。



2. 種蒔きから定植までのポイントは「ヘチマ栽培完全マニュアル」で

種蒔きから定植までの一連の行程は、マニュアルの中で榎本さんがまとめています。また、種蒔きについては、森さんの書いた「発芽の時期をそろえるには」に注目して下さい。

3. 「うちにはヘチマを植える庭なんてない」という方

プランターでも育てることができます。私も博物館の研究棟2階のテラスに置いたプランターで育てています。コツは60cmのプランターひとつに1本だけにする、土をたっぷり入れることです。真夏の水やりが問題で、一日3回やることもありました。プランターの下に大きなたらいを用意すると水を切らす心配がなくなります。家のベランダなら、風呂の残り湯が使えるかも知れませんね。農文協が出しているヘチマの絵本では、大型のふたつきバケツ（40-60リットル）を使った水栽培が紹介されています。場所をとらないことと、連作障害の心配がないという点が優れています。風情がちょっと・・・というのが問題点ですが。



ヘチマたわしの利用方法に関するアイデアを募集しています。滋賀県では「靴の中敷きに使われていた」とのこと。私も今実験中です。他にはどんな使い方があるでしょう？実用（洗う・それ以外）だけでなく、アート用の素材など、あなたのアイデアをレポートして下さい。秋頃に持ち寄って展示会などもやってみたいと思います。たわしが取れなかったが、チャレンジしたいという方、若干でしたら博物館にもストックがあります。

もちろん、ヘチマをきっかけにした「洗う」の追求と、ヘチマたわしで汚れが落ちる仕組みの解明も今年のテーマです。

国際湖沼会議で行ったヘチマのアンケート結果が、平野小学校のホームページに出ています。

(<http://www.otsu-edunet.ed.jp/~hiranole/hetimahp/hetimatop.htm>)

結果の部分はまだ工事中みたいですが、アンケートの内容や、当日の様子は見るができます。

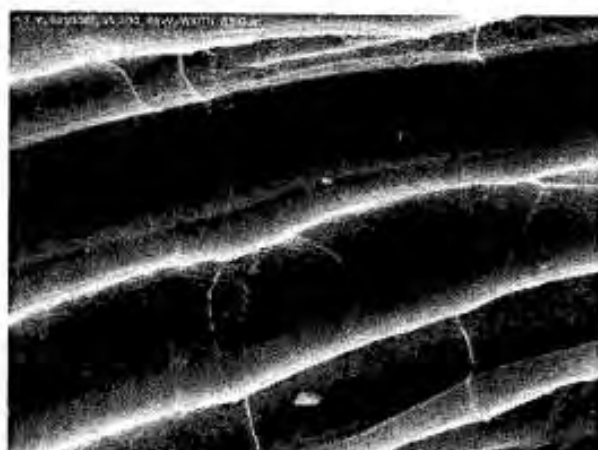
[ヘチマで汚れが落ちるナゾ]

博物館でコイの咽頭菌の研究をしている中島さんに、ヘチマの電子顕微鏡写真を撮ってもらいました。ヘチマで汚れが落ちる理由として「ミクロの穴が汚れを吸い取る」という説があるようなのですが、写真を見ると穴なんてありません。俗説破れたり！

ヘチマ栽培完全マニュアルでレポーターの高田さんが「ヘチマの繊維が（ナイロンスポンジに較べて）密着しやすく、汚れを掻き落とす効果が高いのでは？」と予想されていましたが、その考えが正しいことが部分的に証明できました。もうひとつの考えである「有効成分がにじみでる」説はどうやったら証明できるか検討中です。どなたか良いアイデアはありませんか？



100 倍



1500 倍

ヘチマたわしの電子顕微鏡写真

では、また次回。

フィールドレポータースタッフからの一言

何かと心忙しい年度末が終わり、新年度に入ったと思いきやゴールデンウィークが目前に迫っています。TVのコマーシャルの8メガでもないでしょうが、情報通信の速さに合わせるかのように春が早く来て、桜の開花も早く、そして慌しく散り去ってしまいました。

フィールドレポーターの皆さん、今年の桜の感覚はいかがだったでしょうか？。学校の春休み期間中に満開となった為でしょうか滋賀県内や、京都近郊では週央でさえも凄い人出だったようで、家族揃ってお弁当を携え日常の喧騒を離れて桜のお花見、などと意気込んで行って見たらどこも都会以上の喧騒だったりして・・・なんて事もあったようで。

さて、今年度第1回フィールドレポーター調査は「タンポポ」です。調査期間は4月6日から5月31日までに設定されていますが、タンポポも今年は3月には良く見かけましたし中には綿帽子になっているものも見られました。お住まいの近くや職場のお昼休み時間にもその近辺で早い目に調査されてみては如何でしょうか。

今年度も、スタッフ一同楽しみ乍ら諸々の作業を進めていきますが、食欲に学ぶ事と時間の調整が反比例して、楽しみ乍らが先行し肝心なところは、担当の桑原さんや芳賀さんを始め博物館の博学先生方におんぶに抱っここの状態が今後も続くと思いますが、日進月歩の精神でいずれスタッフ主導で運営する時が来るかも。(チョット言い過ぎ?)

そんなスタッフのやっている事に食指を動かされた方は一度交流室へいらっしゃい。

平成14年4月21日

スタッフ有志一同



タンポポ 4月10日今津町にて

☆ タンポポに関する良書をスタッフが見つけてきましたのでご紹介します。

「日本のタンポポとセイヨウタンポポ」 小川 潔著 どうぶつ社刊

主な内容は ※ 在来種と外来種

※ タンポポの生える場所

※ タンポポの季節 など参考になる事柄が豊富です。



2002 年度 第 2 号 通巻第 19 号 (6 月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

今年もまた梅雨の季節が近づいてきました。雨降りはいっとうしいものですが、これもまた自然の摂理で大切な季節です。梅雨の時期なかなかフィールドには出にくくなると思いますが、皆さん元気にレポーター活動をお楽しみください。

さて、今年度第 1 回調査「タンポポを調べよう」が終了しました。今年は季節のすすみが早く、調査がうまくいくかどうか心配でしたが、皆さんのご協力により多くの報告が集まりました。ありがとうございました。

また、調査の終盤になってしまいましたが、5 月 25 日(土)には山東町で「タンポポ調査会」を開催しました。観察場所は、近江長岡駅周辺からはたる祭りが開かれる天の川の土手、それに三島池の周りでした。近江長岡駅周辺から天の川付近にかけては、意外に在来種のタンポポが多く、開発が進んでいるように見えて割と古い土地柄が残されているのかと思われました。三島池の周りは、さすがに開発が進んで公園化されているためか、帰化種の方が多いようでした。そのあと、少し時間的に余裕があったため、日分田さんのご案内で山室湿原の観察を行いました。普段見ることのできない貴重な生き物や自然環境に、感激もひとしおでした。当日は、ちょっと日差しがきつかったですが、お天気もよくなかなか有意義な観察ができたと思います。次回、6 月末からは早速ため池調査が始まりますが、7 月中旬には「ため池観察会」を開催したいと思いますので、そのときには是非ご参加ください。



ところで、今号から「フィールドレポーターによる学芸員紹介シリーズ」という記事を書けることになりました。これは、フィールドレポーターの方が当館学芸員に取材を行い、掲示板の中で紹介をするというものです。琵琶湖博物館には、理系から文系まで様々な専門分野の研究をしている学芸員が 30 名ほどいます。その中からお好きな学芸員を選んでいただき、レポーターの方の目から見た学芸員像を紹介していただきます。この機会に、ぜひ学芸員と直接話をしてみてください。この 4 月から、当館エントランスから水族棟への通路の壁に、各学芸員の研究紹介のコーナーができました。これを見ていただいて人選をしていただくとよいのではないかと思います。気楽にトライしてみてください。ちなみに、今号では有田さんが八尋学芸員の紹介をしてくださっています。

フィールドレポーター 6・7・8 月の予定をお知らせします。

・6 月 22 日(土)	定例会:	於:琵琶湖博物館交流室	13:00 ~
・7 月 7 日(日)	定例会:	於:琵琶湖博物館交流室	11:00 ~
・7 月 中旬	ため池観察会	詳細未定	
・7 月 20 日(土)	定例会:	於:琵琶湖博物館交流室	14:00 ~
・8 月 3 日(土)	定例会:	於:琵琶湖博物館交流室	14:00 ~

*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

フィールドレポーター（以下F R）による学芸員紹介記事のトップバッターとして、滋賀県で昆虫と言えば文句なしの八尋さんをとということになりました。数年前の第3回F R「カマキリの卵のう調査」を担当してもらい、温厚で誠実な対応で大変お世話になったことは、ご承知の方も多いと思います。私はその後も卵のうの内部調査やカマキリの飼育観察でいろいろと指導してもらって感謝この上なしです。このご縁で何か判らない昆虫が見つかると思う八尋さんにとということになり、先日も羽の外周に黒白のフリルを付けた虫を見つけたので持っていくと、すぐにヨコヅナサシガメだと懇切ていねいに教えてもらう、ということになります。

八尋さんは、本籍は私と同じ福岡ですが生まれてから高校まで鹿児島で過ごし、雑木林でクワガタなどを捕まえる普通の昆虫少年だったそうですが、大学農学部有害虫学研究室に入ってからオサムシ・ゴミムシ類との出会いが始まったそうです（学芸員皆さんの主な研究の紹介がこの度、水族館への1F通路の壁にまとめて表示されています。皆さんも是非御覧下さい）。オサムシという名前など全く知らなかった私ですが、歩く宝石といわれる見事なオサムシを見せてもらって、この研究に取り組む動機がなるほどと分かったつもりでいたのですが、オサムシは飛ぶことを放棄した昆虫であるため、その土地との結びつきが強く、したがってその分布や系統を調べることは古い時代の地層の様子を探ることと同じような意味を持つので、オサムシ研究のおもしろさはここにあるとのこと、さすがは八尋さんだと感心した次第です。滋賀オサムシ研究会を主催して県内で1000地点余のオサムシ族の地理的分布を調べるなど精力的に琵琶湖の自然史解明に尽力されているわけです。



シガキオサムシ

ところで、私は学芸員という呼び名に無知で、F Rを始めて何となく判かったような気がしていたのですが、本シリーズが始まるのでこの際、ということで琵琶湖博物館の組織などについて八尋さんに聞いてみました。組織は今度、改定されたそうですが説明のため旧のものによりますと、組織は総務部と事業部（展示、資料、交流、情報を担当）、それと研究部からなり、学芸員は研究部に所属する研究員であり専門職になりますが、現実には事業部、総務部との兼務になっていて、いわゆる象牙の塔の研究ではないわけです。研究部は湖沼系、集水域系、応用地域系博物館学系に分かれていましたが、八尋さんは、琵琶湖の集水域系、簡単に言えば湖を除いた陸地について、専門のオサムシゴミムシを核にして県内の陸上昆虫類の種類や分布の調査、研究を担当されていたことになります。

新しい研究部は、環境史研究グループと生態系研究グループ、それに博物館学研究グループになったそうですが、八尋さんは博物館学研究グループに所属するとのこととびっくりしました。博物館も、蒐集保存するだけの古典的な博物館から、展示するだけの博物館そしてF R活動やはしかけ制度のように地域交流型、参加型等、積極的な博物館、そして更なる未来型の博物館へと生き残るためには、昆虫のように脱皮を繰り返して成長していかなければならないわけですが、八尋さんは陸上昆虫の研究と共に博物館の脱皮についての研究もということになります。オサムシのように美しく立派な成虫に脱皮することを期待する次第です。

タンポポと散歩

投稿日 02. 04. 15.

草津市 橋本

数日前までは桜の花が咲き誇っており、ピンクの大きな木で一杯だった草津川の堤防も、今日は普通の木に戻りあまり魅力の無い風景です。ただ菜の花が川の土手で満開、川を下って行くと北山田付近は大変綺麗でした。

さてタンポポの調査で、草津川の歩道を国道1号線から琵琶湖までの7キロメートルを調査した結果、タンポポの集団は約2キロメートルの範囲に群生し、その他の場所は皆無に等しい現状に驚いた次第です。

タンポポが咲いていた場所は桜の木が多く、お花見に使われる場所で新田橋から上へJR東海道線を越え、国道1号線までの約2キロメートルに集中していました。其のタンポポの種類はカンサイタンポポで帰化種は目につきませんでした。

琵琶湖湖岸まで行ったついでに、北山田港の方向へ行く途中、道路と水田の間にある水路に、亀が10メートル程の間で、次々と飛び込む姿を見ながら北山田港へ着くと黄色いタンポポの集団が見えました。其の集団は全て帰化種(セイヨウタンポポ)で約30メートルの群生でした。

ついでに北山田の村に入り、道路脇とか田んぼの近くに咲いているタンポポを調べた所、全て帰化種でした。

北山田の村は、古い土地柄なのに帰化種ばかりとは以外でした。

一句・・・春の雲夕日に羽ばたく比良連峰



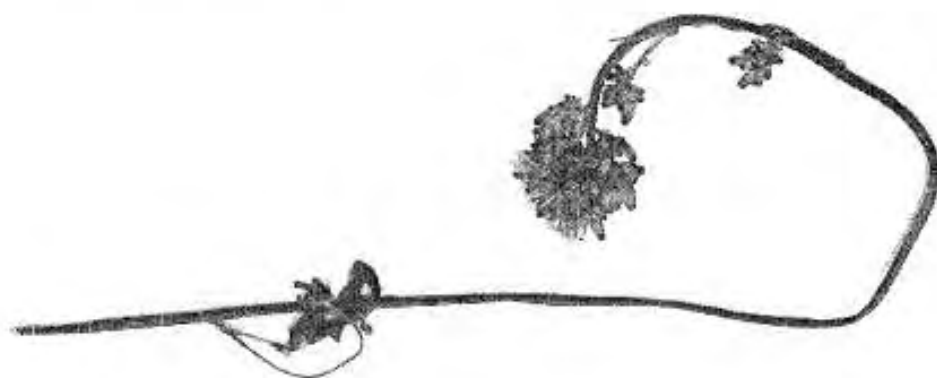
セイヨウタンポポ

旺文社 春の草花 松原 巖樹より

表 題【 タンポポの調査 】

投稿日【 4/29 】お名前【 今津市町村 早田幸子 】

屋敷鏡さで西洋タンポポの群生地をばたいたのに、俗稱
ニ〜ビー〜ビー 沢山生えているせいか、なと考えています
我が屋の隣に流れていませう川の土手には色々な
野草が茂っています。カニサイタンポポの群が
100メートルほどの所に、くさね毎に20センチほどの
間隔で咲いています。同じ土手で寝る所はセシタポポが
咲いています



川の土手の藁にたつた一本、すくつとたつて
先へんに黄色い小さな花、花より木葉にかわりくまいて
います。はじめて見ました。なを教えてください。

表 題【 風に吹かれてさわやか巡り

】

2002年(平成14年)4月12日】お名前【 草津市 市町村 久保和友

】

020412

前号、私の、浅井町野瀬からの登山路、天吉寺山頂の仁王門跡の手洗鉢石造、寸法縦40cm横1米深さ10cmの水槽に『いもり』5匹、これにはびつくりしました、親子、同族で棲息しても、水槽の容積は僅か、もし真夏で水槽の水が干し上つたら、てんぷら同然、いもり全滅、でも、この小さい手洗鉢で生きていた、5匹の真実、これは怖いと思います。それと開山上人のミイラされた洞窟の、上に咲いていたのが同封の、可憐な草花です。私が毎朝、散歩する、やがて消える天井川「草津川」の土堤に咲いている同じ花です、花の名前教えて下さい。江戸川乱歩の小説「芋虫」も怖い小説ですが、天吉寺山頂の仁王門跡に棲息する5匹の「いもり」も怖い秘境ですが、登り安い山です、この「いもり」の怖さ、教えて下さい



表 題【初めて会いました 森の貴婦人 ヤマシャクヤク】

投稿日【2002.05.08】お名前【草津市町村 野井】

5月3日、米原町上丹生、霊仙山登山道、谷山谷を歩きました。
例年より季節が早い今年、いつもより5月中旬の花が見られました。
イチリン草(冬草)、ニリン草が、登山道の脇に咲き始め、くぐり岩
ふまんのそばトリシズカの群落が、まだ同じような状態をうけていま
した。イチリン草が、林の中より、暗いあたりに咲いていふやに好む。
トリシズカは、歩き道のすぐそば、日当りの良い場所にあります。
よく比較されたりトリシズカは、鈴鹿山中でよくみかけますが、
こちらはやはり林の中、暗めの場所です。但し、谷山
谷ではみかけませんでした。
そして、初めて出会った花が ヤマシャクヤクです。やはり林の
中、暗めの場所で、ひっそりと、そしてツツ子しやかに、大まか
シグのかげで咲いていました。花は開きまじとなく、清々うっ

オシバの黄色が、印象的でした。華やかではないけれど、
清純な貴婦人、といったところでしょうか。

イチリンソウ



ヤマシャクヤク(?)

米原町上丹生 谷山谷 (2002. 5. 3.)

※尚、この山もさうである。トリカブトだらけである。葉は
ニリン草よりイチリン草に似ているのであり、ニリン草にも
おそろしく似ている。ニリン草と山菜類の類似にちな
いふが、いいと思ふ。イチリン草、トリカブト、共に有毒である。

表 題 【 花の“赤坂山”色とりどり 】

投 稿 日 【 0 2 0 5 1 0 】

名 前 【 安 曇 川 町 平 井 政 一 】

日頃あまり身の回りでは気付く話題が少ないので、連休を利用して訪ねた福井県境にある人気の“赤坂山”（マキノ町）で咲いていた花の話を少々。

赤坂山は、マキノスキー場の上方の山。標高が800m以上あり、スキー場から登るのでなく、林道を車で黒河峠まで行き、そこから頂上までの往復が比較的疲れずお勧めです。

赤坂山の魅力は、頂上からの奥琵琶湖の展望もさることながら、何といたってもその花の種類の多さにあるといわれています。

まず、訪れる多くの方のお目当ては、早春の可憐な花“カタクリ”の群生。黒河峠からだど花崗岩が風化した“明王のハゲ”の手前の林の中と赤坂山を越えた栗柄越付近の灌木帯に多く見られます。例年、連休の頃が満開となる山上の群生地も、今年は海津大崎などの桜の開花が早かったように、1週間くらいは早く満開を迎え、もう盛りを過ぎたようです。他には、花が終わったショウジョウバカマは、長く伸びた茎のみとなっていたが、トキワイカリソウ、トクワカソウ、チゴユリがあちこちで見られ、頂上の手前には、オオイワカガミがまだ花を付けていました。

また、この時期スミレの種類も多く、まだ小さめのオオバキスミレや葉の裏側が紫色であることから名がついたシハイスミレが全行程で見られるとともに、このシハイスミレの変種といわれるマキノスミレもあちこちに姿を現しています。マキノスミレの特徴は、一言でいえば葉が細長く、葉裏の紫色が淡いこと、それに葉が垂直に近く立っていることだといわれます。他にタチツボスミレやニョイスミレ（ツボスミレ）のほか、日本海側に多いスミレサイシンも一部花を残していました。

次に、樹の花では、新緑の中に白い大きな花びらのタムシバが目立つとともに、キンキマメザクラが淡紅色の小さな花を下向きに付け、早春の花々が辛うじて残っていました。アジサイのように大きな飾り花をつけたオオカメノキ（ムシカリ）があちこちで白い花を満開に咲かせ、ツツジでは、紅紫色のユキグニミツバツツジの花が終わりを告げつつあるのと対称的に、ウスギヨウラクがこれからツリガネ状のクリーム色の花をたわわにつけようとしています。

他にも、ジグザグの登り斜面ではアツミカンアオイが半ば地中に埋もれるような目立たない花を、また谷筋ではエンレイソウが褐色の花をつけていたり、白い花のミヤマカタバミ、ナガバノモミジイチゴや一風変わったツクバネソウの花なども見られました。

「赤坂山の自然ガイドブック」を片手に歩いている素人なので、見落としなども多いと思いますが、それでもこれだけ多くの花が見られ、頂上までの3km（所要約1時間30分）の道程は歩く人を退屈させません。お帰りで、峠に車を置いていない人は、そのままマキノ高原へ下って、この4月にスキー場の入口にオープンしたばかりのマキノ高原温泉「さらさ」へ立ち寄られてもよいと思います。

（高原温泉前からJRマキノ駅まではバスの便もあります。）



表 題【?年後にはカタクリとササユリが見られるかも?】

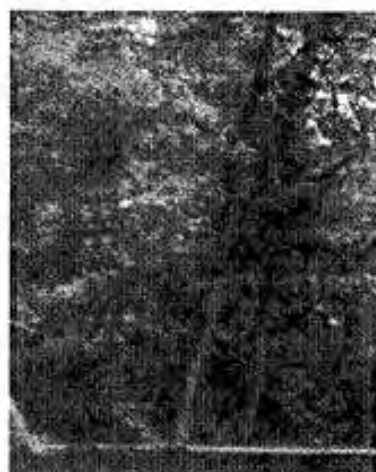
投稿日【2025/6】お名前【草津市町村 寿尊】

5/5 曇、大雨、高尾町篠川ハ、モリアオガエルの卵やタマゴに付着した
林道脇に車を止めたところ、さく、大きな木附子(キアジ)をよけみつけ
た。ふつうなら6-7月頃の大きさで、ほんのり赤もさしているが、しかも
小さい実生やミズナラの幼生に付いていた。川ハ流れて、之ん堤上や川
沿いの場所には、やはりいつもより早く、卵がよけ付いていた。
之ん堤脇から高尾道を登り上った雑木林で、まず目についたのが、
小さいシライトソウ1株。そして、そのふもと(約1坪~1坪半)に、ササユリ
の幼生とみられる株、カタクリの幼生と思われる株が、それぞれ
10株ほど点在してあり、また、ヤブツバキ等、常緑樹も混生
する雑木林で、下は、手夏のように、草の生え方もあり、また
ニセアサギのほおろ、木の下あたりには、ギンショウソウもふた本生えてい
ました。尚、この地域の奥には、シカの足跡、たしエもみられました。

カタクリとササユリにまちがいはなければ、この場所と思ふに数年後と
楽しみしたいと思ふ



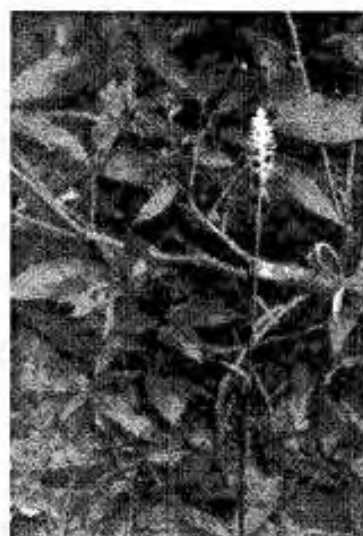
ミズナラの実生についた木附子



モリアオガエルの卵



カタクリとササユリの幼生(?)



シライトソウ

表 題【カタクリの親はどこへ？】

投稿日【2002.06.01】お名前【草津市町村 寿茸】

新緑のふせかえり 5月28日、鶴川峠からリトル比良縦走路をサレ
歩きをした。前に山頂の方でカタクリの幼生(と思われ子)葉の群落
をみつけたので、おしゃ. と思って歩きをした。整備された登山道で、木葉、
落葉樹林の中に残る片や琵琶湖、片や虎ノ頭の家路、不望め、鳥のさ
い道で、おしゃ. 秋にはキノコ採りに行ければ、と決心をした。
そして、草の定、シライト草、ササユリ(リボミ草)に混じり、何ヶ所か、
カタクリの幼生(らしき)、1枚葉の群落がみられた。そこで、フト、思っ
た。親がいない!! 花の咲くカタクリの葉、独特の、紫の葉のよう
入った葉の植物は見当たらないので、おしゃ. カタクリは詳しくありませんが
親(?)の姿は5-6年前に見たことあり。花のあと、何ヶ所か結実して、いつ
頃、実をばらばらかしら? 親の葉は、どうなるのかしら? 子葉あれば、親は
近くにないのかあかしい。おしゃ. 子葉と見えてい子葉の子葉でいしょうか?

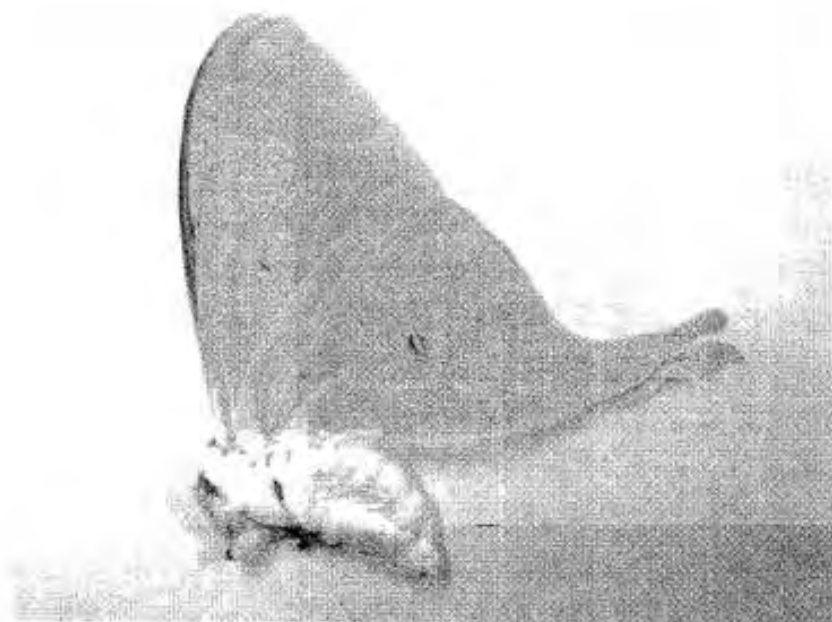


カタクリ(?) (中央)、サルトリイバラ (手前左)

表 題【朝の散歩で見つけたもの】

投稿日【2002.4.25】お名前【安土 市(町)村中 村】

安土城考古博物館の前で散歩中に見つけて1度へたなスグキを送らせてもらいました。今日又見つけました。スグキした時のとは色やからたの部分が少し違っていますか。一応、持ち帰ってきましたので、現物を見て下さい。かたよんでしょうか、ちようちよんでしょうか。采いはかの種類ではないかなと思って、いるんですけど、もし名前など判別は、教えてくださいな、いでしょうか。もしかしてマユにでもなるのかなあと思っています。



「背泳ぎと背歩き」の表題で、ハウネンエビ、ハナムグリに始まってマツモムシ、サカサナマズと、背面行動を行う生物を探してきました。もう終わりだろうということで最後に動物としてコウモリが飛ぶとき以外は逆さでぶら下がって生活行動をする同類かなと話を締めくくったのですが、考え直してみると、背面行動と逆さ行動は体の軸の回転方向が違うという誤りに気付きました。飛翔時以外のコウモリは、背面行動ではなく逆立ち行動であり、背泳ぎ背歩きとは違うわけですね。

困ったことだ思っているうちに、サカダチゴミムシダマシのことをテレビで「ちら」と目にしました。メモを取る間もなかったのですが、インターネットで調べたことなどまとめると次のようになりました。

アフリカ南西部の海岸に沿ったナミブ砂漠（その奥の内陸にはカラハリ砂漠がある）には、海岸に沿って流れるベンゲラ寒流の冷たい空気が、暑い砂漠に流れてきて濃い霧を発生するそうである。雨の少ない過酷な砂漠にとって貴重な水分であり、この霧で生きていけるよう、ユニークに進化した昆虫やハ虫類が砂の下に潜って生活しているそうである。

サカダチゴミムシダマシはその中の一つで、自分の体、甲羅に結露した水滴を逆立ちして口の方へ流し、水分を補給するわけである（写真参照）。逆立ちをしない普通のゴミムシダマシについては次のとおりである（日本大百科事典 小学館）。

ゴミムシダマシ（偽歩行虫）（*Neatuspicipes*）：昆虫綱甲虫目ゴミムシダマシ科に属する昆虫。害は少ないが貯蔵穀物類の害虫に数えられる体長15ミリ内外、黒褐色で長形。日本のほかシベリア、ヨーロッパ、北アメリカに分布。

ゴミムシダマシ科（darkling beetles）：世界中に広く分布するが、特に熱帯域に多く15,000種以上が知られ、日本には200種以上が記録されている。体長は2～35ミリ、形は極めて変化に富み、ほかの甲虫のどれにも似た形の種類があるといわれるほどである。日本には海外の砂漠や不毛の地にいるような種（サカダチゴミムシダマシを指すのであろう）はいないが、次のように多くのものがあるそうである。

枯れ木朽ち木には：マツリ、ヒラギムシダマシ（ひょうたん形）、材ムシダマシ、エリムシダマシ など

きのこに集まる：クワガタムシダマシ、ナニジムシダマシ、キノコムシダマシ、ツノムシダマシ など

こけなどを食べる：テトリムシダマシ

海浜や川原に多い：ササムシダマシ

海岸にいる：ヒメムシダマシ、ササムシダマシ、
ハバムシダマシ など

貯蔵穀類につく：コメノムシダマシ、コヌストモキ、
ガマイムシダマシ など

最後のガマイゴミムシダマシという名前をみると、戦後の食糧難時代に配給された外米を思い出します。現代用語ならば「ユニウマイゴミムシダマシ」というところでしょうか。



霧かたを水滴を集める甲虫

写真出所

<http://www.africa-j.com>

表 題【 初 ホタル 】

投稿日【020515 】お名前【野洲・市町村 まことちゃん】

4481... + 番号 5236-4072 京洲野洲原の井戸(木門)付近で
今年初めてのホタルを確認しました。前日夜は一匹も見当たらなかった
のですが、今夜は本(1)個の点滅を確認。うち、2匹が飛び
まわりの一匹が、木門の階段に腰かけていた私に挨拶に
して来たので、早く捕獲して帰宅し、計測したら15分ぐいす。
(木門に放してやりました。) ホタルでしょうか。

おとしより 5日 早く、 おとし
去年より 15日 早い 初夏の音信(光信?)です。
他の地域ではいかがでしょうか。

5月 15日

※※※※※ ※※※※※ ※※※※※ ※※※※※ ※※※※※ ※※※※※

表 題【 天吉寺山の怪 】

投稿日【020503 】お名前【 草津・市町村 久保 和友 】

前便、浅井町野瀬 天吉寺山917、8m頂上近く仁王門跡の手洗鉢に棲
息している「いもり」が気になって、江戸川乱歩の小説「芋虫」を読んだ
来年、桜が咲く頃、私はまたこの不気味な山へ登ってみようと思つてい
るが、あの「いもり」がそのまま生きていたらどうしよう、「新辞源」をひ
くと『いもり』井守 蛭 脊椎動物 形は トカゲ ヤモリに似ている
がウロコがない、池や川に住み体長10cm背面は黒褐色で腹部は赤色、
黒い雲形の模様があり、近頃外国人が観賞用に水槽で飼っている、薬用に
なり別名、アカハタと辞書にある、真夏はマムシが出る山だが、もし近く
登山される方があつたら確かめて下さい。何百年も生きてる「いもり」つ
て怖いですよ。

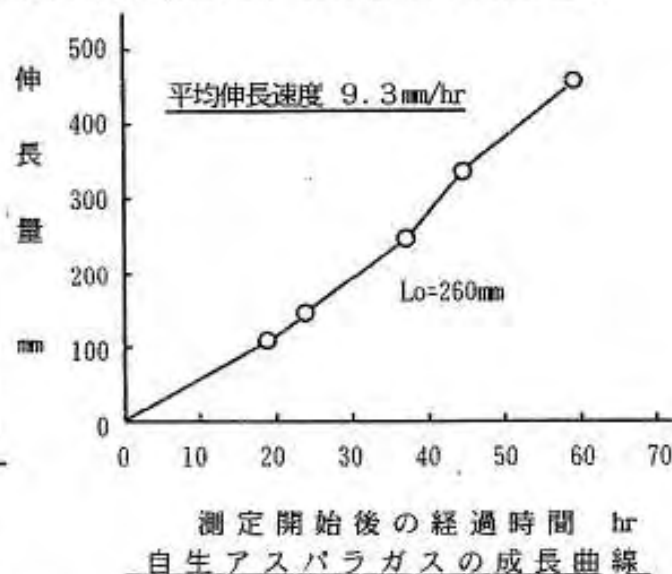
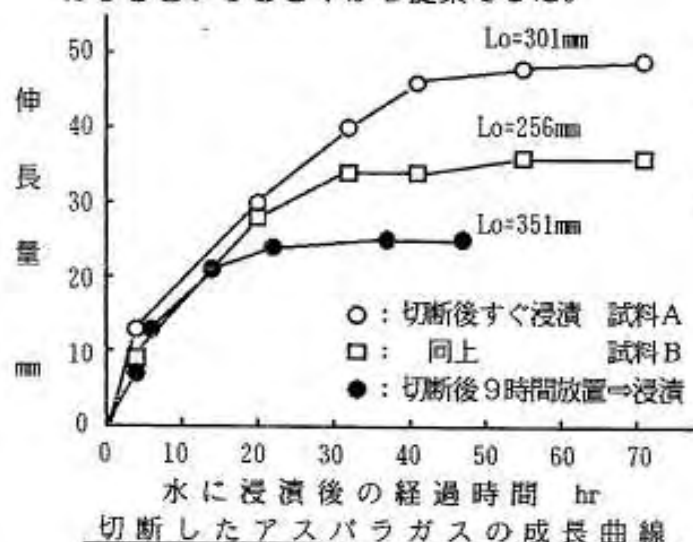
アスパラガスは、疲労回復に効くアスパラギン酸や高血圧予防効果のあるルチンを含む健康食品であり、わが家の庭隅に植えてあるのですが、もう旬の終ですが、あちこちからニョキニョキ伸び出していました。最盛時は食べ切れないので、水を入れたコップに挿しておくのですが、日がたつとどうも長くなっているようなので、切り取ったアスパラガスの身長？を時間の経過とともに計ってみたところ、下左図のような結果でした。

①切断後もアスパラガスは伸び続け、40時間前後でやっと成長が止まる。

②伸びた量は36mmと49mmで、地上約2cmで切断した初期長さの14%と16%でした。

畑に自生の状態で伸び（成長）早さを測定してみると下右図のような結果が得られ、平均で9.27mm/hrの伸びでした。切断して水に漬けた場合の約6倍の早さであり一晩で10cm程も伸びるわけで、あっという間に伸び切る現実を裏付けています。

スーパーなどで売られている商品は、水に漬けられてはいないので、乾燥状態で伸びを調べたら、しおれて2mm程縮んだだけでした。その後水に漬けると左図のように伸びはすぐ止まり伸び量も約半分でした。アスパラを水に漬けておけば、少しは伸びて少しは得になるというささやかな提案でした。



昨年の12月18日、季節はずれのふ化で誕生したオオカマキリの1齢幼虫を18℃の保温ケースで飼育を始め、今年の3月16日時点で2齢と3齢幼虫、各1匹にまで成長していることを報告しました（掲示板2002-第1号）。

その後も飼育は順調で、縫い針に刺した2～4mm³程度の肉片をほぼ3日ピッチでよく食べ、3月15日から17日の間に2匹とも脱皮して3齢幼虫（体長18mm）と4齢幼虫（体長23mm）になっていたのですが、4月7日、ガラス越しに当たる西を防ぐレースのカーテンを閉め忘れたため、保温ケース内の温度は多分50℃以上になったのでしょう、2匹とも熱中死してしまいました。子供を車の中に置きっぱなしで熱中死させた親の気持ちが理解できる心境で、享年110日というところでした。

卵のうは、越冬前にふ化する事が判ったので、今冬再挑戦をと思っています。

近ごろは犬と競い合って山野を走り回る「悪がきOB」と、町内の公園や並木の手入れをする年齢相応の「花咲爺的好々爺」とに人格モードを切り替える習慣が身につきました。

犬のトイレにされていた町内の空き地に、ミニチュア野草園のようなものを作り、ここを通りかかる人と話すことが多くなりましたが、当然知っていると思ったことが、以外に知られていない、または忘れられていることを知りました。

そこで、以下にあげますことについて琵琶湖博物館の学芸委員さんの学識に裏打ちされた説明を頂き、百数十人のフィールド レポーターが自信を持って正しい知識を周囲に伝えられれば（大袈裟に言えば滋賀県民の知的レベルの向上）博物館の存在価値も上がるのではないのでしょうか。（いろいろ御託を並べましたか本当は自分の思い込みに自信がないのです。）

1. 樹木は材の部分まで生きている（構造強度を分担すると言う意味ではなく、生命活動）と信じており、ほんの外側（？首の皮一枚）で命がつながっているとは思われていない。

2. 木や草のような緑色植物は空気中に立っているだけで、（触媒反応のように）そこを通過し接触する空気中の二酸化炭素が酸素になると信じている人も多い。

有機物として重さの計れる、「手に取れる物」としてしか炭素が固定出来ないこと。

人などの動物がそれを食べてエネルギーとしたり、薪や炭や焼却ゴミとして燃したり、生ゴミや汚水・尿の生物処理、自然界での生分解等で、又、二酸化炭素となり空気中に戻って行き、耐用年数の長い建築や耐久性の高い家具、（在庫をかかえていつまでも売れないトイレット ペーパーも）等が空気中の二酸化炭素低減の働きをしていること（出来れば、酸素が水と二酸化炭素のどちらに由来するのか、同位元素での追跡結果等も）の説明も頂きたいです。

3. 巨樹・古木と言われるものを、皆さんはあまりにも特別なものと考えすぎているようです。 名所といわれる所のこれらを見ますと、元の幹はほとんど朽ち果て、不定芽や、ひこばえ（蘖：漢字はやたらにむずかしい、傍芽とも言う）の何本かが茂っており、それらの外周を計って幹回りと称している場合が多いようです。 なるほど遺伝子的には古いかも知れませんが、針葉樹などはどれでも垂れ下がった枝から発根し、別の株になるのですからそう特別なものではなく、里山の薪炭用の雑木の切り株更新とあまり違いは無いように思うのですが。 一株の木か、数株に別れたかをそれほど問題にすべきなのでしょうか。 但し、健康に育っている巨木には圧倒され、見ていだけで、なにか力を与えられたような気持ちになります。

数百年、千数百年の長い目で見れば、周囲より高い樹木は選択的に落雷の被害を受け、幹が損傷するでしょうし、価値ある用材として、すなおに育った樹木から伐採され、手厚く保護されるご神木や寺社林や、ひねくれて用材としての価値が低く見向きもされなかったものが天寿を全うするのではないのでしょうか。

- * 追伸、巨木に「個人的恨み」は御座いません。 又、済みませんが、不定芽、ひこばえ、傍芽、の正確な区別や用法を知りません。 これも教えて下さい。

ヘチマクラブだより 2002 年度 2 号 水無月のヘチマ

梶本 さつき

今日から水無月。いよいよへちまの成長が面白い季節になりました。
昨年より、10 日ほど早く 4 月 18 日に種を蒔きましたが、成長は殆ど変わりません。
近々雨が降ったら定植するつもりです。昨年は、6 月 5 日に定植しています。

“ナメクジ退治”

種を蒔く時、オルトランという虫除けの薬剤を、バラバラとほんの少量畑の土に撒いて、穴あいたビニールシートを被せておきました。発芽は順調で、根切り虫の被害も免れましたが、ナメクジは、毎朝、大きめのピンセットで、はさんで取っています。取ったナメクジは石灰で駆除しています。あまり沢山いるので、気持ちが悪くなりますが、へちまを育てるためにはしかたがありません。

“胸算用”

今年は、25 本ほど苗で販売してみようと胸算用しています。もし売れたら、それだけへちまを育ててくださる人があるということになり普及につながります。

販売が成功するよう、苗育てに気を配っている水無月のへちまです。

ヘチマ情報あれこれ

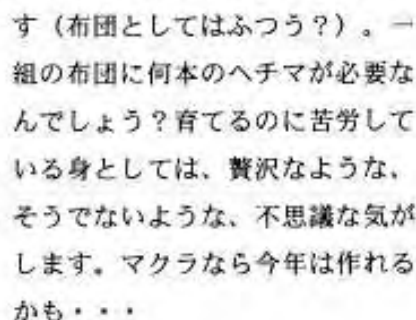
芳賀裕樹

梅雨も間近になり、そろそろへちまの定植の時期を迎えました。皆さんの苗の様子はいかがですか？博物館のへちまは、今年は畑で育てています。直播きで始



めましたので、定植はありません。5 月最後の日曜日にツルをはわせるためのアーチを作りました。アーチを作る 10 日ほど前に見たときには「まだまだ大丈夫」と思っていたのが、1 週間後には工房の北川さんから「そろそろ危ない」との連絡。1 週間で 10 センチ近く伸びて地をはい始めていました。いま本当のこの時期のへちまは目が離せません。あとは茎の太さを見て、肥料が足りないようなら少し足してやろうと考えています。去年も「ひよろひよろしてる

さて、守山の津田さんからはヘチマを使った布団の情報が届きました。値段も結構するようで



☆ (芳賀)

☆ (摺本)

☆ (芳賀)

・・・というわけで、本題からははずれますが、沖縄の「なべら」の語源、どなたか調べて見ませんか？

では、また次回。

フィールドレポータースタッフからの一言

5月の下旬から急に暑くなって、6月に入ると待ってましたとばかりに各地で最高気温30度と一気に真夏日を記録しました。夏のフィールド調査は何はともあれ忍耐と体力がモノをいうと思いませんか。

フィールドレポーター調査の「タンポポを調べよう」、はしかけの「田んぼの生きもの」調査ではフィールド100%の行動ですが暑い日に調査をした方へ実感、ご感想は如何？、しかし便利な時代も改めて実感しますね。相当ヘンピなところでもコンビニがあってわざわざ弁当やお茶など持参しなくても概ね欲しいものが適当に買えるのですから。

最近はお茶の種類も増えて、この前飲んだお茶が美味しかったんだけどどれだったか？とコンビニの陳列棚の前で些細な事でしばし迷ったり・・・そんな経験したことありませんか。いろいろあるお茶の中で今、海外でも人気のあるのが緑茶だそうです。緑茶は健康と美容に良く、これからの暑い季節に発生する食中毒菌 O-157 にも効果があると云われています。こんどのフィールド調査は緑茶を飲んで頑張りますか。

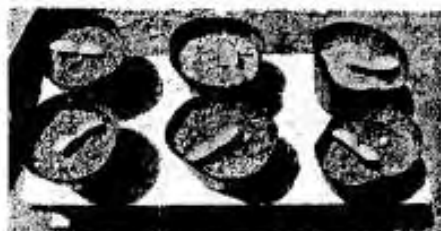
「ヘチマクラブ」が昨年に続いて今年も継続中ですがタネを植えられた方、昨年に比べて発育が遅いと聞いたこともあるのですが「ヘチマ栽培完全マニュアル」に照らして生育状態は如何でしょうか。大きなヘチマやヘチマ水が沢山採れますように。

さあ、平成15年度琵琶湖博物館特別展への参加調査に「ため池の外来生物」が決定したようです。その後も前号の頭書きに掲載されているように同じく「アオマツムシ」の調査も行われます。ここでフィールドレポーターの存在をヒートアップさせたいところです。

今号にも素敵な投稿を寄せて頂き有難うございました。「教えてください」に対する専門的な回答は、担当の桑原さんを通じて博物館の先生方をお願いして「学芸員さんからの回答」として前号でも掲載しましたが、いろいろな分野で皆さんがご存知のユニークな知識なども「教えてください」。そして見たまま、聞いたまま、感じたまま、思いついたままのあんなこと、こんなことも文章にして送ってください。

平成14年6月9日

担当は古谷でした



ヘチマ 種まきから12日目です



2002 年度 第 3 号 通巻第 20 号 (8 月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

毎日毎日暑いですね。「夏は暑いのが当たり前」、とはいうもののこう暑い日が毎日続くといい加減うんざりしてきます。いまため池調査の真っ最中ですが、皆さんくれぐれも暑さ・日射し対策を十分にしてください。

さて、ため池調査について最初にお断りをしておかなければなりません。先に送らせていただいた御案内の中に、調査終了の期日を入れ忘れていました。あとのアオマツムシ調査との絡みもありますので、8 月 31 日をもってため池調査の一応の終了とさせていただきたいと思います。もちろん、調査用紙はその後受け付けますので、お送りください。

そのため池調査ですが、真夏の暑い時期の調査なので難しいのでしょうか、あるいは皆さんたくさんの情報をため込んでおられるのでしょうか、開始からほぼ 1 ヶ月たちましたが、情報があまり集まっておりません。是非多くの方の情報をお待ちしております。

ところで、今年もまたへちまの季節がやってきました。皆さんのおうちのへちまはいかがでしょう。今年は、博物館の生活実験工房の横にある畑に何株か植えてみたところものすごく繁茂し、すでに数十本のへちまの実がぶら下がっています。やはり、畑で養分が豊富なこと、たいへん日あたりのよいことが影響しているのでしょうか。



皆さんのお手元にもすでに届いていると思いますが、今年も夏のへちま交流会を開催します。今年は、五個荘町にお住まいの坪田さんのご協力で、五個荘町で開催することになりました。詳細については、今号のへちまクラブの中で紹介しています。是非多くの皆さんのご参加を期待しています。

フィールドレポーター 8・9 月の予定をお知らせします。

・ 8 月 3 日(土)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	13:00 ～
・ 8 月 18 日(日)	夏のへちま交流会 2002!!		
		於：五個荘町宮荘公会堂	10:00 ～
・ 8 月 24 日(土)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	13:00 ～
・ 9 月 7 日(土)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	14:00 ～
・ 9 月 15 日(日)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	13:00 ～

*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

学芸員紹介シリーズ (2)

「象化石の高橋さん」

草津 中後 佐知子



専門学芸員
高橋啓一さん

企画展『絶滅と進化 動物化石が語る東アジア 500 万年』の解説手伝いをさせてもらった時の印象が強いお方です。中国との共同研究の人脈でもって、あの大量の化石が海を渡ってきたこと。また化石展示のレプリカを閉館後に作られていた姿や、発掘紹介ビデオで話し相手の女性をデートに誘う場面を流されるなど、くだけた面もある高橋さんに、今回「はしかけさん」の担当になられたこともあり、迫ってみました。

出身地は、転勤族のご両親と各地を転々とされ特定するのは難しい。生まれは、母上の郷里福岡で、1 年余りを過ごされたのを皮切りに舞鶴・京都・大阪の高槻・池田・埼玉……。 「大学卒業までの 13 年間を過ごされた埼玉が一番長いかなあ」とおっしゃる。

ご両親は、現在高槻のお住まいですし、仕事をされた新潟に 10 年、現在お住まいの栗東に 6 年目になられます。その内、栗東が故郷と言っていただけるようになるのではと思っています。

地学を志された動機は、少年時代に恐竜の研究者になりたいと思ったことはあったが、夢のようなもので、特に化石を集めて回るマニアでは無かった。化石に触るようになったのは大学に入ってから。自然科学一般に興味があり、特に進化に面白みを感じていた。生物・農学・地学のいずれかに進もうと考えていたが、生物は動物を殺すのがかわいそうだと考え地学を選んだ。しかし、就職してから実験用の動物を随分殺しました。と笑っておられた。

比較解剖学に興味を持たれて、日本歯科大学新潟歯学部口腔解剖学教室に就職されて、動物や人体解剖、歯の形態を生徒に教える傍ら、骨の化石を調べる基本になる生きものの骨・筋肉や神経・血管の勉強をして化石の研究に役立てられた。この 10 年間が基礎的研究の時期とのこと。

琵琶湖博物館準備室が出来から来ないかと誘われ、1990 年に基本構想の時期よりここに携わってこられた。オープンまでの 6 年間、また立ち上げてから博物館が軌道に乗るまでの 2・3 年は研究ができなかった。最近になってやっと研究にも時間がとれるようになったとのこと。ここは、いろんな事業を展開しているし、全国の博物館をリードする立場でもある。それをやっているとすると中途半端にはできなくて大変である。「研究ができなかったということについてどうですか」の質問に、研究のできない研究者は、家の建てられない大工と一緒に不満でありストレスはある。しかし、研究者が研究だけをして

完結ではなくて、知ったことを知らせるまでが研究者の仕事である。その方法としては論文を書く、学会で発表したり本を書くなどあるが、博物館で展示をしたり、来た方にお話しすることも方法のひとつである。

テーマを捉えて、このテーマも自分の思いだけでなく周りの人がこんなことを知りたいと思っていることを、自分の興味と一致させて研究し分かったことを知らせる。そして知識を広め面白いと思ってもらう。そこでまた疑問や質問を受けて研究する。その循環が研究の作業であり、研究者の仕事である。この博物館のやろうとしていることはその実践であり共感を持っていて、いいことだと思っている。ただ時間のバランスが問題であり難しい。研究に時間を割くと交流の時間が少なくなるし、そればかりをしていると研究できなくて、新しい事実を紹介できないと言うジレンマはある。しかし、してできないことではないと思っている。とおっしゃる。

ユニークな博物館の基本構想のメンバーの一人として、今後も琵琶湖博物館を楽しめるものにしていっていただけることでしょう。

象の化石をテーマに選ばれたのは、全国から多く出土し情報が得やすいため、現役の研究者は現在3人が活躍しておられるそうです。中国や台湾との共同研究もなさっており、中国へはよく行かれるそうで、8月からも台湾の研究者と一緒に回られるそうです。今回はインドネシアから帰られたところを地学研究室にお邪魔しましたが、「島の動物はどうやってできてくるのか」と、島国日本と同じ条件の国との共同研究でジャワに行っておられました。外国の研究者と友達になりながら象や最近の鹿の化石も見て回っておられるそうです。

「今までで一番楽しかったことは」とお尋ねすると、野尻湖の発掘、東京都の地下鉄工事現場・九州で掘った時なども面白かった。とおっしゃる。予想を立てて発掘していく時期が面白いようです。研究も面白いのだが、早くて2・3年、時には10年もかけて数ページの論文を仕上げる。という質が違う奥深い面白さだとのことでした。

今度また、琵琶湖の成り立ちとはほぼ同じ400万年かけて進化してきた象のお話を聞く機会を楽しみに、高橋さんの紹介を終わります。



下顎がシャベル状の「プラチベロドンゾウ」

ため池観察交流会

琵琶湖博物館フィールドレポーター担当

桑原雅之

皆さんため池調査の方は進んでおられますでしょうか。ため池に住む生き物の見つけ方や見分け方など、結構苦心しておられる方も多いのではないかと思います。

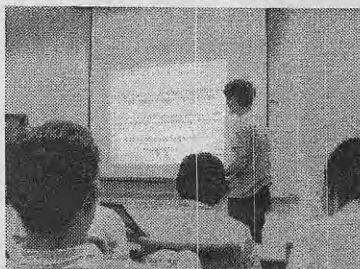
去る7月13日(土)に瀬田丘陵においてため池観察交流会を開催しました。例年だと、交流会は調査結果の発表会という形をとっているのですが、今回はため池



米倉さん、中井さんの説明を聞きながら観察を行いました。

観察のトレーニングもかねて、交流会を実施しました。当日は、早朝に激しい雷雨があり、ため池観察はとうてい無理だなという思いがあったのですが、参加された皆さんの熱意が通じたのか、集合時間の頃にはすっかり雨も上がり、ちょっと蒸し暑い日にはなりましたが、楽しく観察を行うことができました。

当日は、数台の車に分乗し京都大学生態学研究センターの米倉竜次さん、総合地球環境学研究所の神松幸弘さんの案内で、いくつかのため池を見て回りました。やはり多くのため池にはオオクチバス(ブラックバス)やブルーギルなどの外来魚が多く侵入していましたが、在来魚の残っているため池もあり、日本産魚類のしたたかさもかいま見えたようです。魚類の他にも、トンボなどの昆虫や、イシガメ、カエルなどたくさんの生き物を観察することができ、参加していただいた皆さんにも楽しんでいただけたと思います。



米倉さんから、ため池の外来魚についてお話をさせていただきました。

また、午後には京大生態研センターにおいて米倉竜次さんから、ため池に外来魚が入ってくると、在来魚はどうなるのかといったような内容のお話を聞かせていただきました。

結構ハード

な1日でしたが、楽しく有意義な1日であったと思います。

案内と講師をしていただいた、米倉竜次さん、神松幸弘さん本当にありがとうございました。



京大生態研センターにて

表 題【ためいけのサカナけんぎょう】

投稿日【 】お名前【おおつし市町村井谷風湖】

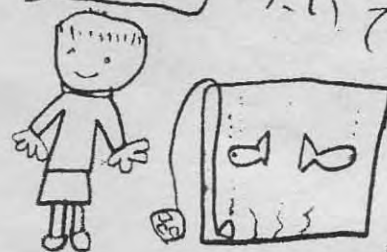
サカナけんぎょうおもしろかったです。さい後にたてものに入るときトイレに行てへやへ帰たらおじちゃんかひとりしかいませんでした。おかあさんのあとをおつてみたらちかうへやにみんながあつまっていました。さいしょにさかなのビデオがはじまりました。なんのしるいのさかなかわからなかつたけどすぐいっぱいタマゴをうんでいました。そのタマゴをたべていくブルーギルを見てそのタマゴをそだてているさかなをかわいそうなさかなだな。と思いました。



表 題【ため池の研究した】

投稿日【H.14 7月14日】お名前【大津市町村井谷あき歩】

昨日はどうもありがとうございました。ブルーギルやブラックバスを見て、私は「ブルーギルとブラックバスは同じだね」と思いましたが、ブルーギルとブラックバスはしほをみたら、水重米百じゃないにわがかりました。本当は私も色々な魚を研究してみたいです。



ため池調査－私の場合－

2002/8/1

大津市【ファイトー \ (^o^)/ 】

いや～ 暑いです。こんな暑い時期に「ため池調査」をしなくても…と思いながらも、日差しが強い方が魚を見つけやすいので、やはり調査は晴れた日に出かけてしまいます。

魚の観察でおもしろいのは、フナやコイは人を見るとスーッと遠ざかっていくのに、ブラックバスやブルーギルは人を恐れず、池の中をわがもの顔で泳いでいることです。お陰で、これは尾が半分白いからブラックバス、横じま模様はブルーギルと、魚に弱い私でも自信を持って見分けられるようになりました。

苦労したのは、地図を見ながら池を探し訪ねるときです。住宅地図で確認して行ったのに、池が見つからないこともありました。そこで次からは、“人に尋ねる作戦”に変更。池の近くまで行ったら、まず人を見つけるのです。そして、「池がある場所をご存じですか？」と聞きます。道を教えていただけるだけでも助かりますが、話しやすい人だと思ったら、池の名前や魚の有無なども聞かせてもらいました。

それにしても、バスやギルが多くの池で見られたことにびっくりしています。人が近づきやすい池は、外来魚がいる確率が高いのでしょうか？琵琶湖の逆水をためる池では、水といっしょに卵や稚魚が入りこむというのは本当ですか？

たくさんの報告が集まると、「現代ため池状況」がいろいろ明らかになるでしょうね。どんな結果が出るか楽しみです。

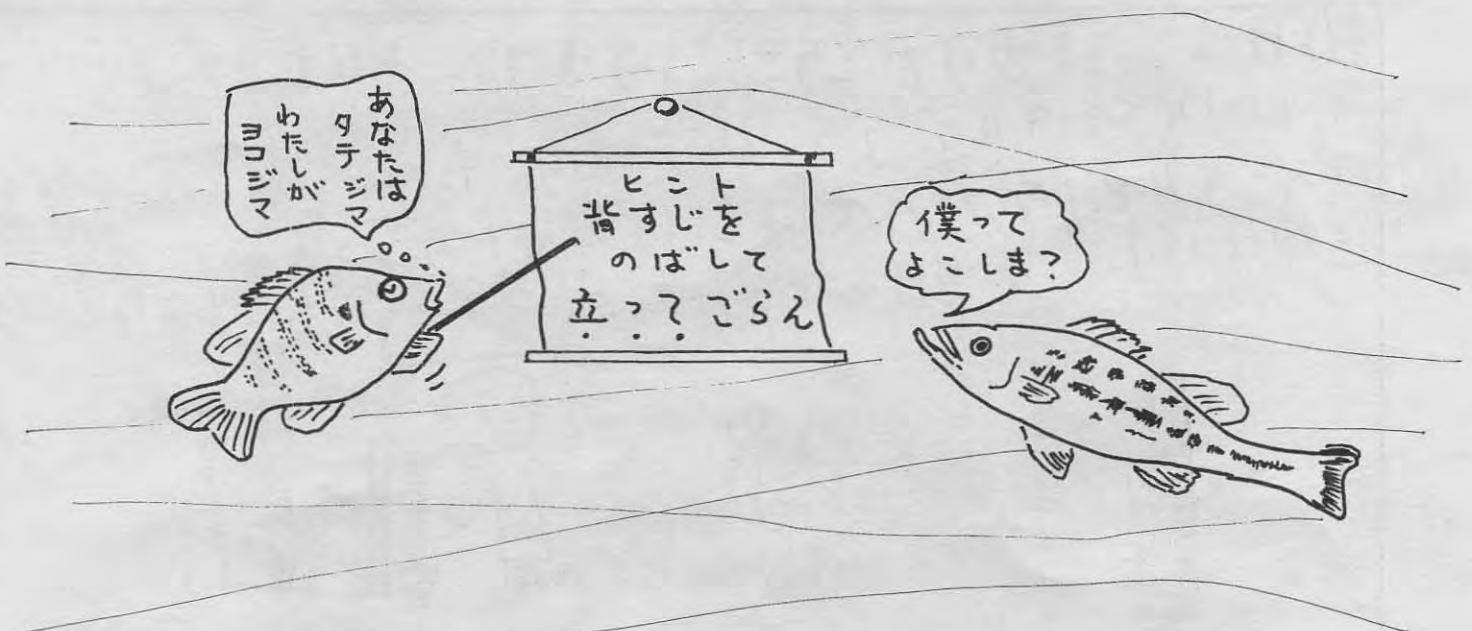


表 題【ため池を訪ねて】

投稿日【02. 7. 28】

名前【草津市 古谷 善彦】

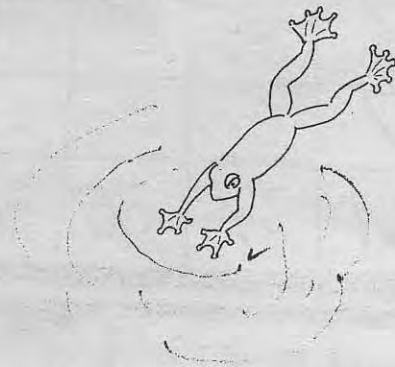
第一回の「タンポポ調査」は今津で、今回の「ため池調査」もその延長で今津方面の池を調査対象にしていたがその土地に不慣れな為、池を探すのが大変です。前から三谷集落の人に聞いていた三谷池を「ため池調査」の始まる以前の5月に見に行ってきました。

以来3回訪れ、三谷池からすぐの所に奥出池があると聞いて行っただけですが、未だその池に到達せず（何れも山の急な斜面に行き当たり）引き返しています。7月21日（日）の午前集落の人たちが大勢出て草刈り作業の休憩で雑談中、その人たちに聞いてみると「直ぐそこや」、「こっちの道からでも行けるで」、小道に置いてあった小型のトラックを指差して「歩いて行かんでも車で行ける、車退けたるか」などとあちこちから声を掛けて頂いたのですが、あいにく小浜沖へ釣行の途中で行く時間がなく、「又来ます」と云って改めて7月26日（金）に三谷池へ赴くと釣り人が居て奥出池の所在を聞いてみたところ「私は行った事ないが直ぐこの上と聞いているわ、行って来てみい」との事で炎天の中、細い山道にクモの張った糸を払いのけながら行くも急斜面にぶち当たり、右の道や左の道を約40分歩きこの日も池に到達できず下山（何でこんな山の中の池を探すの？と自問自答）。この釣り人に聞き取り調査をして次の目的池へ！。

この近くの酒波にある筈の「口留池」を目指し見つけた池には「もみじ池」の標識があり、随分前に間伐材を使用して遊歩道が造られたようで付近も整備されていますが、これが「口留池」？付近の案内板には「口留池」が無いので多分これが本来の「口留池」か（資料より面積が小さい？）、若しくは埋め立てられて無くなったのか。埋め立てられて無くなっている池もかなりあるようで、同じ地域の梅原と云うところでも無くなっている池があると聞きましたが、ホ場整備によるお役ゴメンの結果なののでしょうか。

三谷地区の人の話では山の上にある淡海池にもブラックバスがいると云っていましたが、本当ならそんな所にまで放流する目的の真意を伺いたいですね。

「ため池調査」の調査過程で目と耳で現実を確かめながら、意外と多くの知識が得られる絶好の機会でもあるような気がしています。



表題 林照寺川にホタルは何匹いるか

投稿日 (2002 6・10)

投稿者 新旭町 堀野善博

新旭町と岡区(集落の名前)が共催で6月1日にホタル観察会を開催しました。
午後7時に開会。ホタルの話、リコーダの演奏を聞いた後、近くを流れている林照寺川に『ホタルは何匹いるか』をテーマに開催した。

受付で参加者全員に『ホタルの予想数』を投函してもらった。

参加者82名の者が協力してホタルの数を数えるために次のような方法を行った。

1 川を『三区分』に分けて調べる。

林照寺川左岸の道路にある三箇所の街灯を目標にしてA・B・C区分で調べる。

2 班別に分かれて調べる。

入場者全員に渡す『番号』により五班に分かれて調べる。

各班は一分間隔に波状的に出発する。

班別にホタルの数を調べたら元の会場へ帰り、掲示してある一覧表に記入する。

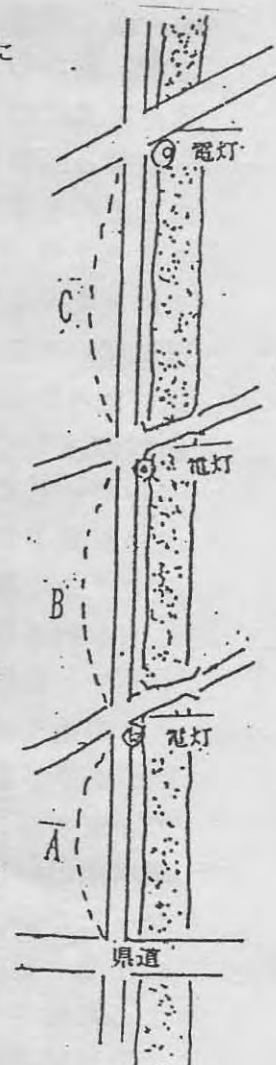
その結果は次の表のようになった。

1 同じ条件でホタルの数を調べたのに、大きな差ができた。

2 A・B・C三区間合計数が三班・五班が数が多く、同数のため『正解は34匹』とした。

3 川全体を見るとB区分がホタルの数が少ないことが分かった。

事前に予想したホタルの数は次のようになった。一桁から140代でと幅が広くこの中で『30代』が8名いたので、これらの方を『入賞者』とした。



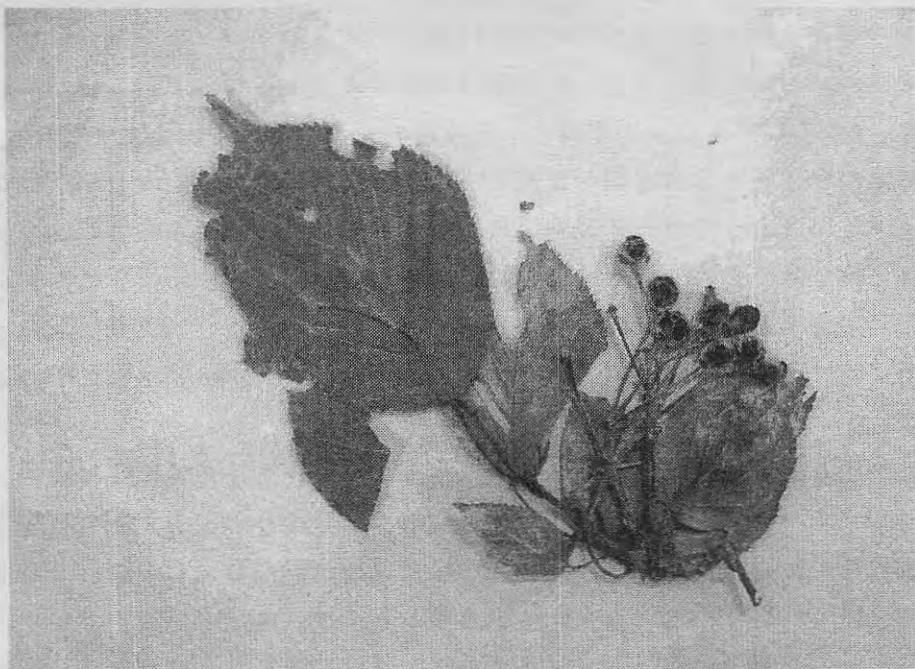
林照寺川のホタルの数 平14.6.1						
班 場所	1	2	3	4	5	合計
C	6	8	20	9	20	
B	3	6	8	8	3	
A	10	7	6	8	11	
合計	19	21	34	25	34	34

林照寺川にホタルは何匹いるか													
予想した数	9	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	120	140
予想した人数	6	6	11	8	3	8	2	1	3	0	6	1	4
入賞者数													

表 題【 沢山の実をつける桜の種類 (木の名前) を教えてください。 】

投稿日【 020610 】 お名前【 マキノ 市郎村 中川 徳司 】

連日晴天が続いていた 6月6日、県水産センター高島事業場の近くの知内川の堤防に植えられている桜の木の中の1本に桜の実が鈴なりです。丁度栽培されているサクランボのように実をつけています。この木は下枝が沢山出ているのですが幹は直径 20cm 程の若木です。桜の実 は日本のサクランボのように薄い赤色ですが 熟するとアメリカンチェリーのように紫暗色になります。実の直径は 1cm 位で小粒ですがとてもおいしそうです。早速 口に入れてみましたが 渋味あって全然 口にあいませんでした。私はこの木をソメイヨシノだと思っていたのですがこんなに沢山の実をつける木は初めて見ましたので 見本の実と葉を同封しますので桜の木の種類を教えてください。



* 自家製納豆をトロ箱水田の稲作から作り続けて3年目になります。 今年は更にエスカレートし、納豆用の大豆の一部を種子にして、大豆も自家栽培に入りました。 栽培に使用する水は風呂の残り湯を当てています。 わが家の愛犬は、鶏の骨以外の動物性の食品の人の食べ残しを水で塩抜きしたもの全てを食べつくし、ウンチとオシッコにかえる究極のディスポーザーです。 これらは土に埋められ、ほぼ分解するとプランター等の用土につかわれます。 風呂の残り湯の水と空気中の二酸化炭素で、セルロースや澱粉・糖分のような炭水化物（含水炭素）、更に加えて犬の尿から、今後は大豆の根粒菌による空気由来の窒素を固定したアンモニア性窒素も加わり、蛋白質の主原料の一部として自家製納豆に組み込まれているはずで。

* 今は稲藁、大豆とも収穫前で自家製原料がなく、市販の納豆の発泡スチロール容器で納豆作りに励んでいます。 以下に常識人（おたく・マニア・変人以外の人）のための稲作行程を省略した簡単な自家製納豆の作り方をお知らせします。

《 用意する物 》

- | | |
|----------|---|
| クーラーボックス | 釣りなどに使うもの。 |
| 市販の納豆の容器 | 納豆を食べた後に残る発泡スチロールの容器 |
| ペットボトル | クーラーボックスに上記の容器と共にクーラーボックスに納まるサイズ、納まる数（4本ほど） |

《作り方》

- 市販の納豆を食べるとき容器の蓋の内側にも納豆のネバネバを擦り付けて置きます。（必要は無いのかも知れませんが、私は醤油やカラシは別の容器に移してから混ぜています。） これで味の決め手のナットウ菌の元と容器が手配出来ました。
 - この容器のナットウ菌は容器が乾燥しても、特に栄養となるものを加えなくとも長期間生き続けているようです。休眠胞子のような形で待機しているのでしょうか。
 - 大豆250gのもの一袋で、市販サイズとして8パック程か得られます。
大豆は一晩水に浸けた後に、水が少なめの水煮にします。（大豆は水を吸うと、予想以上に膨れますので大きめの容器と多めの水が必要です。） 私は圧力鍋で40分程煮ています。
 - 大豆が煮えたら熱いうちに容器に移しクーラーボックスに収めます。この時孔のあいたオタマを使って水分がなるべく少なくなるようにします。 発酵（？）が進むと水分は更に増すようです。（これも必要無いかも知れませんが、この時割り箸で容器に付いているネバネバを大豆に絡めるようにかきまぜています。）
 - クーラーボックスの隙間を埋めるように、熱湯で満たしたペットボトルを並べて下さい。 尚、ペットボトルのプラスチックフィルムのラベルは、熱で収縮する性質があるので、あらかじめ取り除いておいて下さい。
後は一日一回ほどお湯を取り替えて、2～3日後には出来上がりです。
- * 熱いうちに容器に移すことは、納豆作りの奥義の極致ではないかと思えます。 沸騰に近い温度では大抵の雑菌も滅菌に近い状態となり、その間にもナットウ菌は鋭意増殖して天下をとるのではないのでしょうか。 味方の苦しい時こそ敵も苦しい時ですから。

表 題 [空に向かってヨーイ ドン!]

投 稿 日 [020613]

名 前 [彦根市 加 固 啓 英]

私の家は園芸植物はあまりなく、ジャングルに近い状態なのですが、気が付いたら蔓性植物がやたらにおおくなっていました。

《例》 アケビ 子供たちの食べた実の種子から。
ヤマノイモ 山から持ち帰ったムカゴから。
ツタ 山採り。
ヘクソカズラ 由来不明。
カラスウリ 山から実を持ち帰った為。
ニオイニンドウ 園芸種。

加えてヘチマ、ヒョウタン（オオヒョウタン）、カボチャ（ハローウィン巨大南瓜）を同時に蒔き、大きな鉢に各一株ずつ植え付け、高い竹垣状のものを急造して取っ手としました。 現在、頂上を目指しての競走中です。

これらの3種は全て「属」が異なるのですが、発芽してみると子葉は見分けが付きにくいほど良くなっていました。（種子はヒョウタンだけが白っぽく形にも違いがある。）

子葉は豆類などよりずっと長い間萎びずに緑色を保ち、初期の同化作用をかなり分担しているようです。

本葉では見分けることは出来そうです。

- * ヘチマだけが暗緑色に白っぽい葉脈、輪郭はかなりギザギザ。
- * ヒョウタとカボチャの本葉（若い本葉）は、輪郭はフキのような、ほぼ円形でヒョウタンはビロードのような手触り、カボチャはトゲトゲ・ザラザラです。

茎は三種三様ですが、

- * カボチャはずば抜けて太く、巨大なカボチャの重さに耐えられそうです。
- * ヘチマが最も細く、それでも（実と同様に）繊維が多い為十分に強いのではないのでしょうか。

現在の成長状況はヘチマがトップ、ヒョウタンがビリです。

表題「ヨコヅナサシガメ」

投稿日「020803」

名前「大津市 有田 重彦」

大相撲の名古屋場所も横綱貴乃花は残念ながら連続休場、次場所で進退を含め乞ご期待ということになってしまいました。

ところでさる四月末、日当たりのよいわが家の白い壁面で、写真に示すような2センチ弱の虫がひなたぼっこをしているのを見つけました。よく見るとカナブンを平べったくしたような黒い昆虫ですが、羽の外周を白黒の模様がついたフリル状のものが取り囲んでいます。例によってザ博物館の八尋さんを訪ねますと、サシガメでしょうとすぐ図鑑をパラパラ、ヨコヅナサシガメということがすくに分かりました。胴体の外周についている白黒のフリルは、まさに横綱の化粧回しのイメージで、命名のすばらしさ、ピッタリさに感じいった次第です。命名者はさぞかしご満悦だったろうといらぬ勘ぐりです。

動きは、のそのそとスローモーで小錦スタイルですが、張り手などなく、また飛び立つこともなくておとなしい性格でした。口吻は写真のように細長く、果汁なんかを吸うのだろうとバナナ、りんごを与えてみましたが、その上に留まっていることは多かったです。口を突き刺して食べているところは見られませんでした。結局、餌付けは失敗ということでしょうか、1週間で死んでしまいました。その後続いて2匹見つけましたが、1匹はやはり1週間ほどで死んでしまいました。下記の資料によると肉食なのでしょうが、生きた虫を捕らえて食べるという敏捷性は全く感じなかったもので……。餌付け失敗ということで、3匹目は無罪放免としましたが、翌日には行方不明になっていました。小学館の日本大百科全書からの抜粋記事は次のとおりです。

サシガメ「刺椿象、刺亀虫」assassinbugs

昆虫綱半翅目異翅亜目サシガメ科。体形は糸状のものからへん平なものまでいろいろ。腹部結合板が幅広く、腹部が帯状に広がるもの、体全体に棘状突起のあるもの、太くて筒状のもの、触角、脚、腹部に長毛を有するものなど、頭部は円筒状でしばしば長い。口吻は太く短い。前翅は全体的に膜質、2個の大きな翅室がある。

サシガメ科は30亜科、世界で3000種、熱帯地方に多い。日本には8亜科、約50種。地上植物体上で生活し昆虫等を捕食し、害虫の天敵として知られる種も多い。人の血を吸う吸血性のものもある。ヨコヅナサシガメは成虫で集団越冬する（わが家で3匹見つけたので、どこか近くで集団越冬していたのでしょうか）。

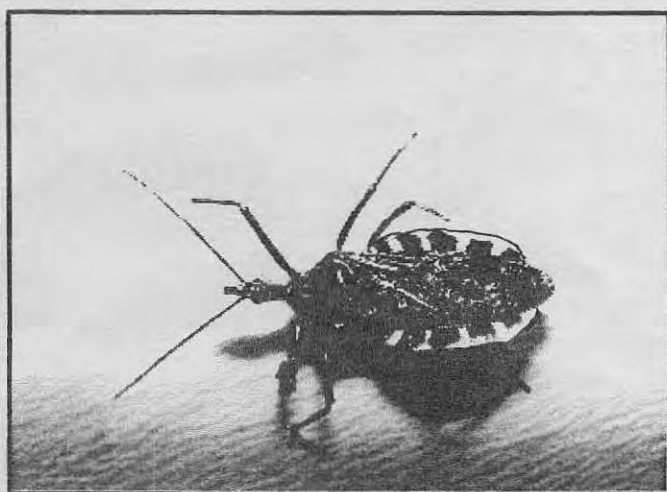
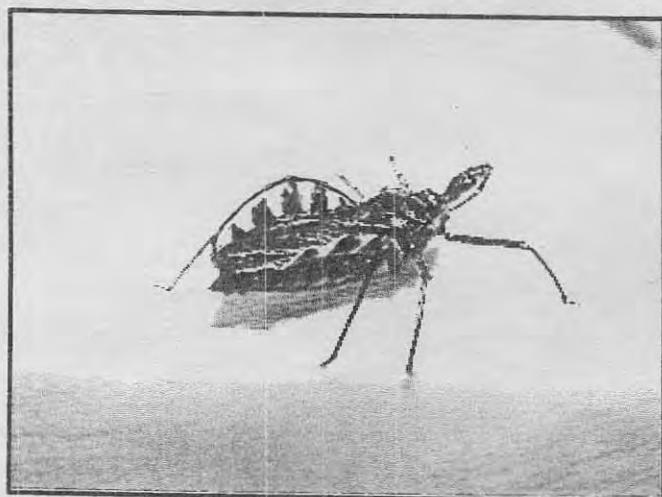


表 題【 カッコウ 】

投稿日【 02.06.28 】お名前【 大津 市町村 何事奇美子 】

今日もカッコウの声か聞こえる比叡山麓です。

毎年この時期に家の近くまで来て鳴くのですが、姿は見たことがありません。一羽だけのようです。鳴き始めはあまり上手ではありませんが、だんだんしっかりした声に聞こえて来ます。昨年と同じ鳥なのか、雛が育って鳴くの、たゞとすると一羽ではない筈。何故かと増えたりするのだろうか。等々、いろいろ想像しながら聞いています。



表 題【 スベリヒユ 】

投稿日【 02.06.28 】お名前【 大津 市町村 何事奇美子 】

昨年、高湯をものともせず、火団の中で元氣いっぱい、の雑草、スベリヒユに手をやいた私は、食べる方法を考えた方が良いでしょう？と掲示板に投稿しました。

今日ある冊子に、雑草に挑戦する方達の料理をして食べたところ、金魚「うまい」の歓声が上ったという記事を手にしました。先の方を4〜5cmに切り、塩を入れた熱湯で茹で、ソウメンといっしょに食べると、かすかな酸味とぬめり、つるつる感が、ソウメンにマッチして飽きが来ない味だ書いてありました。

私も是非一度試してみたいと思います。そのうち火団の一角にスベリヒユのコーナーができるのを夢見つゝ。

彦根市稲部町270-8

加 固 啓 英

Tel & Fax 0749-43-2576

表 題 [植物の標本として必要な用件は何ですか]

投 稿 日 [020617]

名 前 [彦根市 加固啓英]

5月6日(?) 在来種のタンポポ一株から二枚の葉を採取。 Aは普通の押し花、Bはサッと煮て、割り箸で紙の上に拵げたものです。 標本に緑色が保たれないかと思つての緑茶と紅茶からの発酵を停める発想です。

先ずは様子見のつもりでもあり、時間、作業場所、用具も無く、あまり丁寧な作業はしませんでした。 表裏に凹凸のある葉でも、押し花よりは作業は容易でした。 経時的に暗褐色のパリパリの崩れ易いものにはならないことを狙つています。

もしこれが実用価値に繋がる可能性があれば、もう少し本気でテストをしたいと思ひます。



表 題 [カタバミのシャクトリガの幼虫]

投 稿 日 [020613]

名 前 [彦根市 加固 啓英]

私の家の門扉の下に茂つたカタバミに3匹程の、ごく小さなシャクトリムシが住み着いています。 今日(7月4日) 稲枝東小学校の先生と児童たちが飼育の教材として提供することになっていたメダカを引き取りに見えたので、子供たちと一緒に用意して置いた数個のルーペで探したところ、子供たちの方が数段目が良いのか、すぐに5~6匹を見つけだし、これを話題に盛り上がりました。

このシャクトリムシは薄い黄緑色で釣りのテグスの様に細く、上端の葉の無いカタバミの葉柄にそっくりです。 おまけに芸の細かいことには、風に揺れている様に身を震わせるのです。

このシャクトリガ(本によってはシャクガ)の種名を調べようとおもいましたが、成虫の蛾を見ていないことと、鱗し目シャクトリガ科は世界に約8000種、日本には600種以上とのことで、検索を断念しました。

かくなる上はカタバミごと広口ビンの中で育てて成虫を見届けてやるつもりです。

しつこく食い下がるぞ! 乞う御期待!!

過日読んでいた本に、蚤に関する記述があり、懐かしいなと思うとともに頭の中に残っている変な記憶を思い出しました。

終戦の1945年に中学一年生となった私の青春は、終戦とともに始まったわけで、旧制の中学に入学して新制の高校を卒業するまでの六年間、同じ校舎で同じ悪友と、高校入試もなく存分にクラブ活動などで腹をすかしながら過ごしたものです。今から何十年前ですか日本のオリンピック水泳陣全滅のころ、六六四制にすれば中学高校生のメダリストがどんどん出て来るよと、人に会う度にしゃべっていたのですが、最近その良さが認識され、滋賀県で来年から中学併置高校が三校発足することになったのは嬉しい限りです。脱線しましたが、衛生状態が悪くて蚤との付き合いが普通だったのは、この六年間というよりその前半の三年、あるいは終戦前の一、二年を加えたものだったのでしょうか。

中学の二、三年の夏休みの一日、クラブ活動のため西鉄のチンチン電車で学校に行き、職員室で担当の先生に挨拶していたら、横に座っていた別の先生が大きな声でおうこんな大きな蚤がいたぞと、私のシャツから指でつまみ取り、左右の親指のつめの間でピチッと潰して「ワッハッハ」。当時は蚤がいても別に恥ずかしいことはなかったのですが、内気でおとなしかった美少年(?)は顔を赤らめるだけで、蚤がシャツの外についているのはチンチン電車のシートから貰ったばかりではないかとの抗議もできず、喜寿を迎えたこの年まで、心の傷として残っているのです。ちなみにこの先生のあだ名はブリチョン、英語の先生でBRITAINの発音から先輩がつけたものでしょう。当時の先生の大半には、容姿の印象などから、カラス、五右衛門、ナガヒョロ(東大出の数学担当でした)とかの親近感のあるあだ名がついていましたが、現在の学校も同じなののでしょうか。

さて、この因縁のある蚤についての知識は、残念ながらまったくないため、ちょっと調べてみました。

ノミは完全変態をする昆虫で(カマキリは、卵のうから飛び出したときからカマキリの格好をしていて脱皮だけ繰り返すので不完全変態)、羽は退化してなくなっているのだそうです。跳躍力は体長1~2ミリのくせに10~30センチも飛び上がるそうです。蚤がテーマのロシアのオペラ(ボリスゴドノフでしたか)があり、大げさに1~2メートルも飛んでいく様子をおもしろおかしく演技するわけですが、そこまでいなくても体長の100倍前後の跳躍になり、人間だったら優に40、50階建てのビルまで届くわけで、ビルのエレベーターなどは不要ということになります。我々がこのような能力を持っていたら、現在の生活スタイルや環境はどうなっているのか、想像すればするほど面白くなってきます。暑くて眠れない真夏の夜、皆さんも想像を楽しんで下さい。

この超ジャンプ力の秘密は、レジリンと呼ばれる弾性を持ったタンパク質にあり、ゴムよりも効率よくエネルギーを蓄えて一時に放出できるそうで、トンボやバッタの関節の靱帯にあるとされています。コメつきバッタもそうだろうと思いますが、トンボの場合は羽を早く動かすためでしょうか。羽を早く動かす生き物にはハチやホバリングの名手のハチドリなどがいますがどうなのでしょう。生物の大きさ単位あたりの早さをビデオなどで解析し、その特性を比較するのも面白いテーマのように思われます。

表 題【 ハ ケ マ 】

投稿日【0206.28】お名前【大 神 市町村 佐 貴 子 】

博物館のハケマは、立派なアーチを作り、喜んでくださるね。
私のハケマは、実のつかないキョーイフルーツの棚を拝借した同におわ
せです。それでも今年は5本生えて、仲間入りかできそうです。
中でも早く生えた1本は もう 約1m 80cm 伸びて 軸も しっかり
と育っています。大きい葉で ~~20cm~~ 20cm 以上です。巻き上げが キョーイの木を
掴んで上へ登っている様子は とても たくましく思えます。

頑張れ ハケマ！



表 題【 廃川後の草津川底の怪？ 】

投稿日【020714】お名前 久保 和友 市町村 草津市 】

草津川「旧天井川」の流れが下流6キロが6月から止つた、砂ばかりだ
つた川底、何が生えていると思います？みなさんも関心を持ちませんか？

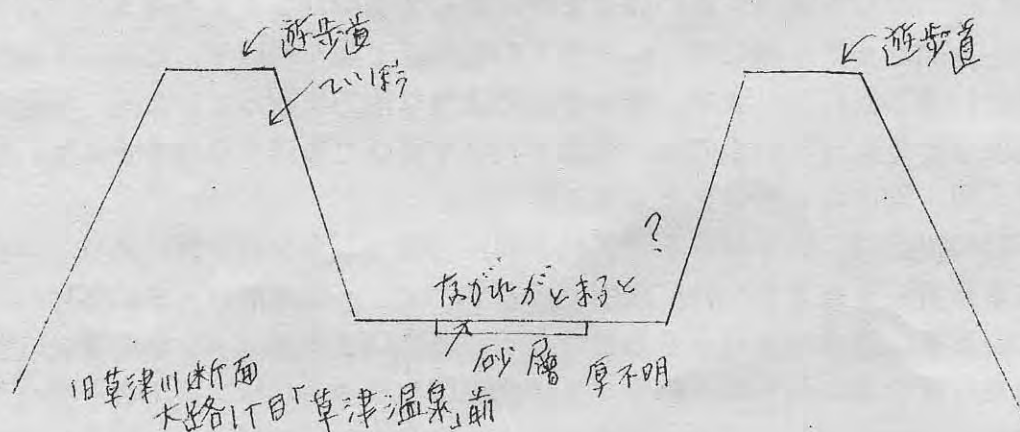


表 題 [質問です。]

投 稿 日 [020703]

名 前 [彦根市 加固啓英]

野良猫がわが家に上がり込み、消し忘れたテレビを見ています。番組は「時代劇」、好みはと見ると、ヤッパリ「マタタビ物」でした。

[質問 1]

猫がスズメ等を狙うとき、物陰でジッとフリーズして、体の露出する、より獲物に近い次の物陰へ移動する時は、地を這うように体高を出来るだけ低くし、子供の遊びの「ダルマサンガ・コロンド」よろしく狙う相手の注意力の隙を衝くような動きをします。

猫には獲物の位置からの自分を想像・客観視するような、思考能力があるのでしょうか。

それとも、たまたまそのような行動をとらせる「心の傾向」のようなものを遺伝的に受け継いだ系統のものが、餌を得るうえで有利だったために種に固定されたのでしょうか。

世界的に有名な犬には「スヌーピー」だの「名犬ラッシー」だの、古くは「名犬リンチンチン」だのと数多くいますが、パブロフの犬って知っていますか？本当ですか？

「ポチ」とか「(忠犬)八公」とかの固有名詞ですよ。

[質問 2]

この頃の菓子袋はやけに丈夫で、これを破ると「バリバリ」と大きな音がしますね。この音をたてて菓子を犬に与えると、次に同様な音を聞いたその犬は当然そこに菓子があり、あわよくば又もらえろと思ひ、駆け寄り、尻尾を振りよだれを垂らしますね。

これは大脳での推論であり、条件付けとは言い難いように思われ、頸椎より下での「反射」ではないように思われるのですが、これはパブロフの犬との間に明確な違いが有るのでしょうか。

[蛇足]

私の高校生のころ(～1956)の教科書の「パブロフの犬」はチューブを胃袋まで挿入され、胃液を観察されていましたが、このごろはチューブは見られませんね。

「ジェンナーが我が子に種痘を・・・」同様、文部省(モンブ ハブク)の数ある嘘のうちの一つだったのでしょか。

ヘチマクラブだより 2002 年度 3 号

(編集・芳賀)

近況と交流会のお知らせ



博物館のヘチマは、追肥を2回やったら育ちすぎて、棚（アーチ）の一部が重さに負けて崩壊してしまいました。40 を越す実がなり、50cm を越すサイズのものも多数あります。おそろべし畑（+肥料）の力。育ちが早いので、18 日の交流会まで食べ頃のが残っているかちょっと心配ではありますが・・・

というわけで、8 月 18 日の交流会のお知らせです。今年は博物館の外に出よう

と言う

ことで、五個荘町のレポーターの坪田さんをお願いしてセッティングをしていただきました。当日は琵琶湖博物館のフィールドレポーターと宮荘の文化推進委員会の共同開催になります。

場所は五個荘町の宮荘公会堂。時間は午前 10:00 から。午前中に 3 つの話題提供があり、その後、は食味会です。話題提供では、尾形さんが今年の工夫とその結果について、森さんが植木鉢で作るヘチマについて、坪田さんがタイや五個荘でのヘチマの利用についてお話を下さります。その後の食味会では、五個荘町に在住のタイ出身の方のレシピで料理を作ります。

昨年 of 平野小学校の調査でも明らかになったように、東南アジア



ではヘチマはよく食べられる食材。タイではどんな風に食べているのか、今からとても楽しみです。

博物館からもヘチマの実を持っていますが、食べ頃サイズの実が足りるかどうかが少し心配です。皆さんもできるだけ持ってきていただくようお願いします。なお、材料費について実費をいただきますので、その点をご了解下さい。

車でいらっしゃる方は、国道 8 号線で「宮荘」と看板の出た歩道橋のある交差点を曲がって下さい。交差点の北東角には上新電機がありますので、目印になります。駐車場が少し離れた場所（約 500 m）にありますのでご注意下さい。

ヘチマクラブの今年の方針について

六月の定例会でヘチマクラブの調査内容について色々な方から意見を伺いました。「楽しく」「シンプル」な内容がいいという提案を受けて検討した結果、今年の調査のメインテーマは『スーパー素材・ヘチマの利用法』ということで行きたいと思います。本などで調べるのもいいですし、近所の方に聞き取りをしても面白いと思います。また、皆さんがご家庭で自分のアイデアを実験してレポートして下さると、きっと楽しいものになると思います。実験のやり方がわからないときは、遠慮なく博物館にお問い合わせ下さい。皆さんのレポートと試作品を持ち寄って年末に交流会を開き、年度末には「ヘチマを活かす〇〇（数字が入ります）の利用法」（仮題）として冊子にまとめたと思います。昨年度末の「ヘチマ栽培完全マニュアル」とあわせれば色々な人に利用してもらえる資料になると思います。博物館の方は「ヘチマで洗うを科学する」（仮題）を作ることを目指します。全部そろえばヘチマ三部作の完成。これを目標に進めていきたいと思っています。

ヘチマ情報あれこれ

「もの喰う人々」で著名な辺見庸市の著作「反逆する風景」の中にヘチマが登場するのを見つけました。場所は東欧とアフリカ。前者は中央アジア産のヘチマたわしを東欧で売っている光景、後者はウガンダです。ウガンダは平野小学校の情報にはなかったので、分布域がひとつ増えることになりました。

では、また次回。

フィールドレポータースタッフからの一言

「暑いですね~」この季節、概ね会う人ごとに最初の言葉がここから始まるのは、春夏秋冬の季節の変化に恵まれた日本の夏にふさわしい日本人特有の挨拶なのではないでしょうか。しかし、こんな何でもない当たり前の言葉が、人の心を和らげる対話の重要なムーブメーカー語になっているような気がするこの頃です。

今年は例年に比べて早くから台風がやって来て豪雨、洪水に見舞われた地域があった反面、近畿の水がめは雨不足で減水が続く給水制限をしている地域もあったように聞きましたがその後解消したのでしょうか。

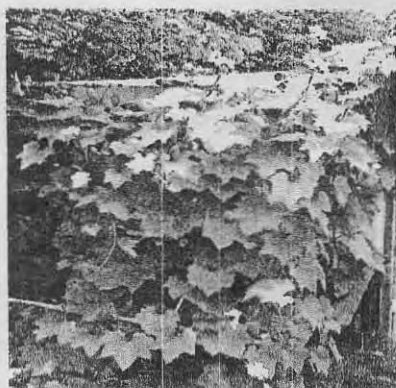
今年第2回のフィールドレポーター調査「ため池を調べよう」の調査期限は早くも中盤に差し掛かっていますが、今年は雨が少ない上に大変な暑さで「ため池」の貯水量も減っているように見受けられますが如何でしょうか。汗をふきふき「ため池」へ足を運んで見るのも意外と面白い発見が有るものです。「人に関する情報」では所謂、田舎の方へ足を運べば親切で素朴で話し好きな人が多くいろいろと昔話しが聞けたり又、釣り人からは思ったより快くインタビューに応じて貰えて「この話公表するのですか」とか「調査も大変ですね」などと、調査の理解もそこそこ得られての幅広い会話も楽しいものです。

これから調査に行くと言う方、暑い最中ですが前もって調査の資料をよく読んで自分なりのイメージを頭に描いて出掛けて見ると、案外暑さもまた楽しいかな・・・です。脱水症状を起こさないように飲み物は多めに持って行く事をお勧めします。

又、ブルーギルが広く繁殖している現状を目の当たりにすると、時間の経過と共に取り返しのつかない結果への懸念と、今こそ本来の在来種生態系に戻すことの手立てが、如何に重要かを実感される事と思います。



今津町 三谷池



へちま 7月初旬

フィールドレポーター調査のひとつ「へちまクラブ」が昨年に引き続き実施中で、へちまの花や実が今真っ盛りだと思いますが、昨年とは違った栽培方法を試されて居られる方もあるとか、五箇荘町で開催される今度の「へちま交流会」では変った結果や現象の報告を聞かせてください。そしてご当地の方々からも面白いお話しが聞けるといいですネ。※へちま交流会は8月18日です。

平成14年8月3日

担当は古谷でした



2002 年度 第 4 号 通巻第 21 号 (9 月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

暑い暑い夏がようやく過ぎ、いよいよ秋到来です。皆さんはどのような秋を満喫しておられますでしょうか。スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、そうそう食欲の秋なんてのもありました。何をするにもたいへん良い季節になりました。フィールドレポーターの活動も気持ちよく楽しんでいただけるものと思います。

さて、去る 8 月 18 日(日)に、五個荘町宮荘で「夏のへちま交流会 2002!!」を開催しました。当日は、宮荘の文化推進委員の皆さんをはじめとして、多くの方々のご協力とご参加を得て盛況のうちに開催することができました。尾形さんのへちまの栽培記録から、森さんのへちまの盆栽をはじめとした栽培方法のあれこれ、さらにはタイから帰化された後藤さんからタイでのへちまの利用法などのお話を聞くことができました。また、後藤さんにはへちまのタイ料理も教えていただきました。昨年の湖沼会議とあいまって「へちまクラブ」、さらには「フィールドレポーター」もいよいよ国際的になってきたのかなという感じがしました。参加された皆さん本当にありがとうございました。



9 月 10 日から、いよいよ今年度第 3 回のフィールドレポーター調査「アオマツムシは鳴いていませんか」が始まりました。アオマツムシの鳴き声は、ちょっと風情には欠けるのですが、秋の夜長に鳴いているアオマツムシを見つけてみるというのも楽しいと思います。多くの方のご参加をお待ちしています。

フィールドレポーター 10・11 月の予定をお知らせします。

・ 10 月 6 日(日)	定例会:	於: 琵琶湖博物館交流室	14:00 ~
・ 10 月 19 日(土)	定例会:	於: 琵琶湖博物館交流室	14:00 ~
・ 11 月 2 日(土)	定例会:	於: 琵琶湖博物館交流室	13:00 ~
・ 11 月 17 日(日)	定例会:	於: 琵琶湖博物館交流室	14:00 ~

*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

奥の深い“人” 布谷先生

守山市 高田 正一



初めて先生にお会いしたのは去年の 7 月頃、琵琶湖博物館主催の近江神宮周辺での巨木探訪に参加するため、京阪石坂線の電車に乗っていた時のことである。妻からあの人が今日の案内役の偉い先生であると教えられた。さすが・博物館の学芸員“オクガ・フカウ”非常に興味をそそる感あるタイプ！ 探訪が始まった。先生、声が小さい！ 説明を聞こうとすると、どうしても先生の側に居なくてははいけない・自然と親しみを感じてくる。これも先生の作戦（人集めの手段）か？

ご家族は池田市にお住まいで、先生は単身赴任で“守山市”が基地だそうです。学生時代・京大芦生演習林をベースに森林生態学（森と里の境の植物生態）を研究された後、大阪市立自然史博物館に 17 年勤められたそうです。その間、鶴見緑地で開催された“花博”を“トリシキ”られ、学生時代と異なり博物館学：人間工学の分野か・人に興味を抱かせる方法は？を研究されたとの事。（博物館学；レジャー室の隅に興味ある本があった。）琵琶湖博物館に移られてからは学生時代からの研究テーマ‘植物関係’は勿論のこと、博物館の企画・運営・経営関係についてもしっかりと勉強されておられるようです。又、持ち前のタフさを武器に全国を出張、種々の情報を得られておられるようです。今年の 5 月頃も、鹿児島日帰り出張の帰りとか。20 時頃“守山駅”で偶然お会いしました。

先日、化学畑を糧とした私が興味を持っている“木・草・花の話題”を基に‘初めて’先生に Q & A をお願いしました。その中からおもしろそうな話題を箇条書きにしてみました。“Answer”をお聞きして、以前にも増して先生の奥深さを感じさせられました。

1. 木・草・作物のちがいは？

木；花は必ず咲く・太る。

草；太らない。

作物；人の手が加わる。

シダ類は；難しい？　しかし、おもしろい！

2. 巨木とは？　：木の中心は空の細胞である。いくら巨木になっても枝と葉の数は増加しない。巨木は生態学的には非常にバランスが悪い木である。

3. 屋久島原生林(屋久杉)　：

屋久島の植物分布は独特で他にない。ぶなの林がない。屋久杉は本当は言われているほど古くはない。真の原生林でなく、人と完全に共存している林である。

4. 冬芽の観察(冬の森)　：

木は葉・花の時期は見た日にも美しく、研究する上では判りやすい。葉・花の時期の研究文献は多い。しかし、冬芽については研究者が行動しにくい時期でもあり、研究者も文献も少ない。冬芽は奥が深く非常におもしろい。冬の森林は雪のある地域と無い地域で分別して研究するのが常識である。

5. 京大芦生演習林(現在は？)　：

入林届けを美山町側事務所に提出すれば一般人でも入れる。朽木の生杉ルートからは“Free”(本当は駄目)美山町から 99 年契約で京大が借りた演習林の返還時期がせまっている。返さざるを得ないだろう。美山町は観光資源にするらしい。人が多量に入り、森林生態系が崩れるのは問題である。
尾根・谷コース共、少なくとも 3 ～ 4 日はかけて探索するとおもしろい。

6. 下之郷遺跡(植物は？)　：

遺跡から出てきた植物の解析は先生が中心になって研究している。遺跡の調査は実は建物・道具が先ではない。当時の自然(特に植物)環境の確定が先。

布谷先生、約 1 時間種々の話題について、Q & A にご協力頂きまして本当に有り難うございました。

今後、植物の基礎知識をご指導いただけることを期待して、先生の紹介を終わらせていただきます。

朝の散歩で見つけたもの (2002年度 第2号p.12,13 中村さんより)

博物館で陸生の昆虫を担当している学芸員で八尋と申します。中村さんが朝の散歩で見つけられた昆虫お持ちいただいた標本を確認したところ「オナガミズアオ *Actias gnoma* (Butler)」というガの仲間と同定いたしました。オオミズアオというオナガミズアオに非常によく似た種がいるのですが、オナガミズアオが前翅の翅頂(先端)が鋭くとがる、外横線は波状に屈曲せず直線的である、後翅の眼状紋は細長く外方にのびているのに対し、オオミズアオは翅頂(先端)が丸く、外横線は波状である、という特徴をもっていることで区別されます。ちょっと不安でしたので、滋賀県で蛾の研究をされている八幡高校の南尊演さんに持っていき確認してもらいましたが、オナガミズアオだと見て間違いのないということでした。

2種はともに夜の街灯によく飛んできますので、おそらく夜近くの街灯に飛んできたものが朝まで残っていて、それを中村さんがウォーキングで見つけたのでしょう。南さんによると平地では、オナガミズアオ、オオミズアオ両種が、山地ではオオミズアオが確認されるということです。どちらか区別するには形態を見るしかないようです。

へちまクラブだより

『月観る月はへちま月』

梶本 さつき

「月観る月はおおけれど 月観る月はこの月の月」といにしえ人は歌っていますが、「月観る月はへちま月」でもあります。

すでに、たわし用のへちまを収穫された方もおられることでしょう。用途の多いへちまです。自分流に工夫して、へちまを活用するのは楽しいものです。みなさんの、工夫を聞かせていただけるのを楽しみにしています。

へちまたわしの場合、収穫は11月頃まで続きますが、気長に皮が枯れるまで待つことが、無難な収穫方法だと思います。

さて、今月はへちま水の採取にもっとも適した月です。お月さまを愛でながら、美人水を採取したいものです。1本のつるから、3日（3晩）は採取できます。日中は、まだ気温が上がるので夜のみ採取しましょう。採取する前につるの先端をカットして、採取口を新しく清潔に保ちましょう。採取したへちま水は、できるだけ早く濾して、グリセリンと混合し、冷蔵庫で保存してください。美人水の作り方は「完全マニュアル」を参照してください。

鮎は、へちま水1L：氷砂糖1Kgを4・5時間煮詰めます。鮎色になったら、きな粉をしいたバットに移し冷します。

◎ 採取したへちま水は、美人水と同様に濾してから煮詰めてください。

へちまクラブは、へちまたわしの食器洗浄効果の科学的説明が本来の目的です。まず、へちまたわしを、食器洗いに使用し、感触を試してください。感想を、聞かせていただければ幸いです。

水に漬けるたわしの製法・・・

芳賀裕樹

先日交流会の折り、繊維ができていたので食べるのをあきらめていくつかへちまの実を捨てたのですが、それを生活実験工房の北川さんが水に漬けて下さり、ピンシャンの立派なたわしになりました。同じ時期に皮をむいて強制的に水洗いしたものに比べ、繊維が太くてシャッキリしています。そうか、水に漬けて腐らせた方がいいたわしができるのかと納得すると共に、昔の人のやり方には一理あるのだなぁと感心しました。酸っぱい強烈な臭いには閉口しましたが。

そこで8月20日頃に大きくなったものを30本ほど畑の横の水路に浸し、ブロックで重石をしておきました。20日を目安に取りに行く予定が、10日ほど遅れていったところ、7割が腐りすぎてダメになりました。泥に押しつけられていた場所の腐り具合がひどく、バラバラになっているものも多数ありました。一方で、端っこだけ押さえられていたものは見事なたわしになっています。マメにチェックしなかったのが失敗の原因ではありますが、泥に押しつけられていたものいけなかったのかもしれませんが。またひとつ勉強になりました。やはり素人（というより不精者？）は、カラカラになるまで待つのが無難なようです。

表 題 へちま交流会 in 宮莊

投稿日 2002.8.18.

お名前 草津市 青木伸子

五個莊町の宮莊で地元の文化振興会の皆さんとびわはくのフィールドレポーター（FR）さんとへちま交流会がありました。「水もあんまりやらんと、去年は100本以上できた」とお世話役の坪田さんら。連作、発芽率など試行錯誤のFR。それぞれのへちまへの思いが違って面白かったです。タイご出身の後藤さんはタイでは、へちまを使い分け、食用へちまと洗剤代替用へちまがあり、へちま化粧水もお母さん直伝で手作りし、なじみがある植物だと教えてくださった。食味会では、後藤さんがタイのナンプラーを使ったへちまスープも作って下さいました。その他、地元奥様中心でへちまの味噌いため、天ぶら、田楽、へちまチャンプル、中華へちまスープを料理しました。（レシピの必要な方声をかけて下さい）どれも、大変 GOOD!もっと、へちま利用法を見つけよう！タイの食用へちまに挑戦しよう！など早くも来年の話が飛び出した交流会でした。



宮莊の皆さんと
フィールドレポーターの皆さん



芳賀さんと右側は盆栽へちま
(FR/森さん作)



天ぶら



右・へちまチャンプルー

左・肉味噌いため

他にもオカリナ演奏や地元のハリヨの取り組み、FRさんのへちま栽培や利用法のアイデアの話など盛りだくさんの交流会でした。

表 題 へちま交流会のお礼

投稿日 2002.8.29.

お名前 びわ町 梶本 さつき

空の色も、雲も秋の気配です。

18 日五個荘町宮荘での、へちま交流会では、大変お世話になりました。琵琶湖博物館あってこそその交流会だったと思います。宮荘の皆さんのやさしさが感じられました。心あたまる会場設営に感謝の一言でございました。うれしく、たのしく勉強になった1日でした。

森様の、盆栽仕立てのへちま栽培には、感動の一言です。何でも、育てたように育つんだと感じた次第です。大変勉強になりました。

司会など、スタッフの皆様にも心から、お礼申し上げます。

後藤様のタイレシビは、さすがのおいしさでした。「めんそーれ」の家庭料理」とは、またお味が変わり勉強になりました。

我が家ではいま、食べ頃のへちまがたくさんなっています。チャンプルがもっとも好評です。チャンプルは一品で、様々な栄養素が含まれた手軽な家庭料理で、一押しです。

へちまの実がつきにくい話がでていましたが、やはり地力の問題ではないかと思います。

かつて、一般に栽培されていた頃は雨に含まれる窒素酸化物は、ほとんどなかったのではないのでしょうか。車の排気ガスなど、地上からまい上がったN酸化物は、雨と一緒にまたわたしたちの暮らしの中に帰ってきます。人に影響があるように、土も、疲れているはず。耕し、N・P・Kのほどよい土作りはへちま栽培にもあてはまるのかもしれませんがね。琵琶湖の窒素濃度が、ふえ続けるように、地上も窒素濃度が影響している思のです。

桑原先生、芳賀先生どうなのでしょう。

表 題【 甲賀町のため池の現況 】

投稿日【 020819 】 お名前【 甲賀市^町村 井野 勝行 】

本町は、昔から粘土質の古琵琶層の土地が多いため、田に水をずてはいていなければならず、大原ダムができるまで人々は、水を得るためにずいぶん苦勞おてきました。そのため、町内には今でも かんがい用を中心とした約 350 のため池があます。ただ、自然^度からこれを見ると、水源である森林に人工林が多いため、土壌が貧しく、十分分解されていず、枯枝葉等が雨水で流れてため池に入り、茶色をしている小池が目立ちます。大きめの池では、下の方がコンクリートの急傾斜で、抽水植物は上の水の入り口^しにのみわずかにあるという程度のところが多く、あまり生物多様性はのぞめません。それでも、オウゴン木やカイガラヤゴイサギに会ってうれしかったです。

表 題【 リサイクル (リユース) について 】

投稿日【 2022.8.6 】 お名前【 安土市^町村 青山 喜博 】

いくつかのグループに顔を出したり、登録もせよと依頼して、琵琶湖博物館から何通も文書をいただきました。全て取りこめていかに活かして集めています。
まとめて持参しますので、再利用してください。
みなさんも、いっしょにリカバリーしよう。

表題 近くのため池観察

投稿日 020827

名前 草津市 橋本

今年の暑さは格別で、ため池の観察に出掛ける勇気も無く、8月の最後の週に成って漸く腰をあげた次第です。草津市では一番大きいと思われる、通称・三ツ池に出掛けました。

草津と近江大橋を結ぶ道から約200m入ったところに①・②・③と並び、池の大きさは、100m平方の池が2つと、50m×100mの池が並んでいます。

①は農業用水用で、堤防、護岸、柵、等が整備されていましたが、②・③は普通のため池でした。

②と③は、浮葉植物が3割程度、抽水植物は池の周り一面生えていました。今日は火曜日なので釣り人は一人、へらフナを狙ってウキに集中していました。この時期どうですかと、訊ねると、野池では色々の物が釣れる様で、フナ、コイ、ブルーギル、それに亀も釣れるそうです。とくにブルーギルがよく釣れるらしいです。

当然、ザリガニ、タニシ、タニシより細長い貝など、岸べで見かけました。池の中には野鳥も多く、カモ、サギ、カイツブリ、など、泳いで居るのを見かけました。

池の周りを観察していると、小魚の群れに出会い、双眼鏡で追うって見ると、数百か数千の小魚が水面をピチピチ跳ねているのでじっと見ていると、潜水艦が浮上するように、黒い頭が現れ、大きな縞の鱗をしたライギョが現れ、そのふちに小魚が付いて回っていました。

ライギョの子供は、親に守られて大きくなるのでしょうか。ゆったりとしたライギョの行動は不気味でした。

一句……何処からが比叡か比良かと鬼ヤンマ

表題 ため池の観察

投稿日 020913

名前 草津市 橋本

ため池の調査も少ししか出来ず、心残りと思っていた矢先、Hさんに誘われ、マキノ町のため池調査に出掛けた次第です。

Hさんは当地の地図に詳しく、ため池のあるところを事前にチェックされていて、私はついていくだけでした。5箇所ほど回ったのですが、始めの2つを私がもらいました。

先ず始めについたのが、湖西線の近江中庄駅の近くの池、池には浮き草や、よしもあり、釣り人も一人いて、聞き込み調査を始めようかなと思い、たて看板を読むと内湖との事で調査の対象に入らず、折角の場所を断念したしだいです。

次ぎに着いたのが酒波寺のある町民公園で天皇が植樹に来られたところです。

その中にもみじ池があり、池にじくざく橋がありその景観は静かな古風な池です。多分紅葉の頃は最高の景色と思います。今日は生き物の調査ですので、池の周りと橋の上から調べてみました。先ず見付けたのが亀の子の遊泳、木の葉が動いてるからよく見てみると小亀がいて潜水にしようとした時30cm程のバスが3匹、其の近くを通過していきました。

池の透明度は1メートル程で、何処からかわарりのバスも、通過していきました。

メダカ、アメンボウ、フナ、コイも、いそうです。ブルーギルはまだ侵入していないようだった。ある説によると、山水が入り水温が低いのもブルーギルを阻止しているのかも知れません。

ここへ来て感じたことは、紅葉の頃にこのもみじ池は最高の穴場として推奨します。

一句・・・藻が割れて目玉ぎょろぎょろウシガエル。

表 題【 知りたかった虫の名は、アオマツムシ 】

投稿日【 02.09.09 】 名前【 浅井 市^町村 水相修躬 】

三年程前から見たこともない、秋の虫が夜、家の中へ入って来るので、何かと思い、図鑑で調べたが、わからなかった。9月6日の夜、その虫が大きな声でリーリーリー...と鳴いた。初めて声を聞いて、この虫は鳴くのか、とよけい知りたくなかった。そこへ、アオマツムシの調査が来て、この虫がアオマツムシだということになり、嬉しかった。フィールドリポーターをやっているように良かった。ありがとうございます。

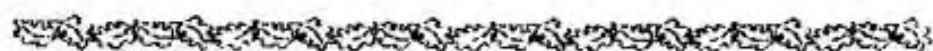


表 題【 アオマツムシで感じた事 】

投稿日【 2002.7.18 】 お名前【 安土 市^町村 中 才 】

テープを送って頂き、鳴き声を聞いたやり、毎年耳にしていた鳴き声だったので、びっくりしました。何の鳴き声かも知らず、毎年聞いていたんです。テープを聞いた夜から、寝に出てカイヤウ電灯を手に持ち、鳴き声のする所、めがけて光を当てて見ました。その姿は一度も見ることができませんでした。その声ばかりはかん高く鳴き続けようさいくら聞いてました。その朝、朝が涼しくなりかけたふと3日前から鳴き声ばかりこえはくはった様に感じるもので、その瞬間、意味があるのか、しょうか？早く興味を持って調べておいて良かったなと思つて居ます。人に聞いてもよく鳴いているの聞いた事あると言う人が多かったです。結構見つかるとはならないでしょうか？

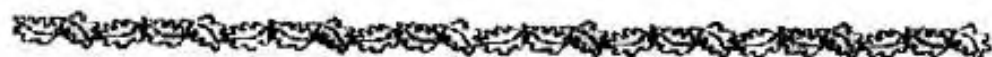
表 題【なつ休み何かいもはくぶつかんに行ったよ】

投稿日【9月10日】お名前【大つ 市町村いたにふみ】

月ようびのコンサートに行ったよ
びわめえんそうとアカペラを見たよ。
それから水すましのいねでBのりをしてはくぶつかん
に入ったよ。あし谷先生のお話を聞いたよ。
それから貝のけんきゆうも聞いたよ。ヒゲモジャの中井先生が
いたよ。中井先生はブルーギルのテレビにすました。
わっ!ちゅうせ?も見れた。入ってさかな屋さんめとなりに
イノシシがいてびっくりしました。
なつ休み中はくぶつかんだらけ!!



F79-中井



表題【洛北高野川で初めて見た鳥は】

投稿日【02. 9. 7】

名前【志賀町 尾形 勇】

つい先日雨上りの午後 車で 京より戻るべく走行中 道左側を流れる高野川の
高野橋を過ぎた辺りで 助手席の妻が、突然、口走った、 あれは! なんの鳥だろう!

「黒っぽい鳥だが くちばしが黄色い」を見つけたのだ。

ブレーキを踏み、徐行して見ると、二羽がいて 丁度 川中の木に止まる瞬間だった。

なるほど 黄色のくちばし、体が真っ黒の鳥だ、見たのは初めて、

急ぐため、よく観察も出来ず 残念なことをしました。

帰ってから、辞典を見て、よくわからないが カラスの仲間だろうか?と思ったり
して もう一度みたく 京に行く用事がないものか、と、柳の下にドジョウは
居らぬかも知れないのに、埒もない話です。

誰か、お解かりの方 教えてくだされば幸甚です。

表 題 [がまじんさんへ]

投稿日 [020830]

名前 [大津市 渡辺 康子]

ずーと以前にがまが育っている所をお知りになりたいと言う内容の掲示板を見ました。すぐにこの様にお知らせ出来ればよかったのですが、……。今でもお役に立つでしょうか。大津市堅田にがまを育てられている方がいますが、数本植えられています。

この写真は、堅田内湖の北側の道路近くの場所と、琵琶湖大橋西詰め最初の信号左折左側の田んぼの真中の空き地です。植物の形、葉や花、実などよく見るとその美しさに見とれてしまう時があります。この「がま」もその内の1つです。いいですね。



堅田内湖

フィールドレポーター掲示板投稿用紙

身のまわりで気づいたこと、他のレポーターの意見、質問等についてのお答え、新たな呼びかけなど、おしゃべりをする感じで投稿してください。

表 題【キッコイオグジェ 作りませんか？】

投稿日【14.09.13】お名前【草津市町村 村井 芳】

「薪」といえば、キッコイです。食べられるキッコイと毒キッコイとの区別は、難しいので、敬遠される方も多いと思います。サルノコシカケの仲間です。いろいろ遊んでみませんか？サルノコシカケの仲間には、湯割りやよい剣木、立枯れ、食用キッコイでもなくなった古木に、いろいろついていきます。形の悪いもの、おもしろいものをみつけたら、裏側を触り、しっとり冷たいかんじがしたらOK。生きている証拠です。バサバサやもう、裏が乾いたものは死んだ古いものなので、虫だらけです。ハサやナイフで、木からはずがしたら、ビニール袋等にフワリと包んで、廃棄レンジで4分!! ぶし大で約1分、後は、火さ

さにあわせ、ぶし大1/4約30秒プラスして下さい。採ってきて、そのうちでは、6ヶ月~1年経てば、虫に喰われボロボロになってしまいます。その後、気に入った疏木、岩石、木の枝、盆栽等、いろいろアイデアで使ってください。楽しい森のクラフトをどうぞ!!



- ・ 捨てた石
- ・ サルノコシカケ
- ・ 大工セーターで煮、20分くらい
- ・ 乾燥させたキノコ
- ・ 色々なアイデア
- ・ マンネンタケ

フィールドレポーター掲示板投稿用紙

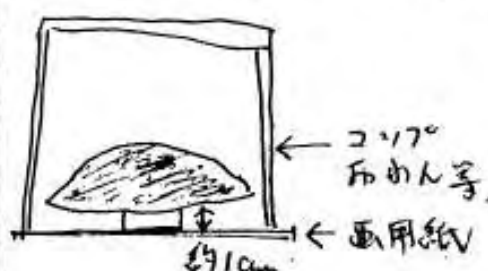
身のまわりで気づいたこと、他のレポーターの意見、質問等についてのお答え、新たな呼びかけなど、おしゃべりをする感じで投稿してください。

表 題【キコで遊ぼう【Ⅰ】】

投稿日【2002.9.17】お名前【草津市町村 寿芽】

キコは胞子を飛ばして、新天地を求め増えていることは、即存知だと思います。植物の種^(タネ)に相当する働きがあります。この胞子を採取して、絵画など、遊ぶこともできます。

下図のようにキコの板(軸)を全面から約1cmのこして、水平に切り布とします。画用紙等、絵にしたいものの上に布をコップなどでかぶせ1晩(5-6時間以上)布とします。



その後、キコをはずすと、下図のようなものができます。これを胞子紋といいます。



胞子紋

キコの胞子は、白、茶色、黒、等、種類によって色があり、肉眼でも胞子紋は○色、と詳しく記述されているので、カラー画用紙などで試してみてもいい。野生のキコだけでなく、スーパーで売っているアサシメジ(白)やシタケ(白)でも胞子紋はとれます。

コップなどでかぶせると、わずかに胞子が空気の流れて空気に触散するのを防ぎ、下に落下させるためです。

野生のキコがどんな色の胞子紋を持つのか、楽しんでみてくださいませんか？

表 題 【大吉寺跡の手水鉢の『いもり』確認】

投稿日 【020827】

名前 【野洲町 まことちゃん】

8月25日(日)晴 早く出かけるつもりが「居間を片付けてからにして!」と出鼻をくじかれてしまい、結局登山口駐車場出発は11時となった。この日から真夏日に逆戻りの天気のため、ダイエットには絶好のチャンスとなった(と云うのは負け惜しみで、夏は特に夜明けと同時に登山口出発が最良と思う)。いつものように愛犬との山行である。登山道に入ったと同時に虫の出迎えを受け、防虫ネットを被っての登山となった。勾配は決して楽ではない。1時間で仁王門跡に。これから先は草をかき分けながら進むとほどなく草の陰に妙なものが見えた。「おや、こんなところにU字溝が・・・。」と、杖で草を払ったら、な、なんと手水鉢だった。「そういえば以前『掲示板』に載っていたイモリは・・・。」と草をどけると大きなのが3匹。他は何もいなかった。ここで完全に道の見当がつかず目印のテープなども見えない。辺りの草をかき分けて、手水鉢の左わきに踏み跡らしきものを発見したが、草の丈は高くずっと先まで続くので、登山を断念した。仁王門跡でラジオでのど自慢を聞きながらお昼をゆっくり食べてから下山。下では地下の人達が路肩の草刈や溝のごみを掃除していた。人「どこまで行ってきたかね。」私「手水鉢の所までです。」人「今は一番夏草が伸びているからな。夏は誰も登らないし・・・」私「手水鉢のイモリは見てきましたよ。」人「研究テーマは何ですか。」私「いや、山に登っているだけです。」登山時期を間違えた私が学者風に見えたのだろうか。ハンドルを握りながら思い出し笑いをしてしまった。結果として目的が『登頂』から『イモリの確認』に変わったお陰で掲示板に投稿するネタができた一日でした。



6月発行の掲示板第2号に草津市久保さん投稿の【天吉寺山の怪】は地図で確認すると大吉寺のようですね。まことちゃんは3匹を確認されましたが、久保さんは何匹見られたのでしょうか興味のあるところですね。

広辞苑ではこんな事も書かれています。アカハラ、イモラ。両生類有尾目に属する日本固有の動物。

いもりのくろやき【井守の黒焼き】いわゆる「ほれぐすり」の1つ、いもりのオスとメスを焼いて粉末にしたもので想う相手に知らせずにふりかけたり、酒に入れて飲ませたりすると効き目があるという。いかがでしょうか?

※インターネットで検索するととっても面白い情報が得られるかも。(FR. 古谷 善彦)

表 題 「ケミドラムの哲人アマガエル」

投 稿 日 「020904」

名 前 「彦根市 加岡啓英」

* 私の好きな言葉 「三間流れれば水は澄む」 水を大切に思い、適切な使用と管理を心掛けるかぎり、水資源は人を裏切らないと思います。

私の嫌いな言葉 「水と安全は只と思うな」 これは欺瞞です。 目先の過度の利潤追求と、無能・無策の行政の結果が、只に限りなく近くあるべき「水と安全」を高価なものにしているのだと思います。 天の恵みを、廃水扱いし、保水性・透水性のある地表をアスファルト・セメントで覆いつくし、地下水にまで汚染物質を混入させる効率重視・安全性軽視の企業経営。

???? 柄にもなく硬いことを言い出しましたが、すぐに柔らかくなります。

日ごろよりトイレのフラッシュウォーターや洗車用、庭水に飲料水レベルの水質の水を消費していることに罪悪感を感じておりました。 US ジャパンや水道局の配管ミスのように工業用水を飲まされてはかないませんが、それよりは格段に上質の、雨水（別名天水）や風呂の残り湯を邪魔物扱いし、廃水→家庭雑排水として、U字溝・三面コンクリートの排水溝に捨ててよいのでしょうか。

* 日ごろ「口先男」で行動を伴うことが稀なのですが、プラスチックのドラム缶（通称ケミドラム）の天板を半分切り取り、これにポリバケツで風呂の残り湯（一回当が、約200 l）を蓄え、を草花（当然ヘチマも）や植木やメダカ等の魚の飼育に当てています。日本人の風呂の浴び方は、小人数の家族が、バスタブの外で体をあらいシャワーも使うので、残り湯に溶け込む石鹸は極わずかです。 残り湯からは塩素もかなり抜けていますので、この水で川魚を飼っても今までのところ支障を感じたことはありません。

浴室が一階なので、パイピングとヘッドでの移送は出来ませんが、その内、兩種の水も取り込み、コックとホースで水の使用が出来るようにするつもりです。

《ケミドラムの哲人》 桶から首をだして研究していたギリシャの哲学者（数哲学 幾何）者が、「私の円をみだすな」と言ってローマの兵士に殺された話がありましたね。

わが家のケミドラムにも、設置するとすぐに哲学者的風貌のアマガエルが3～4匹住み着きました。 わが家に常駐の爬虫類はカナヘビ、ヘビ（2種類）、ヤモリですが、これらは種類毎に、昼・夜に行動をわけています。 唯一の両生類のアマガエルはあまり時間帯にこだわらないようです。 昼も夜も見られ、乾燥を嫌うのか、風のある日は日中でもケミドラムの内壁の住人が6匹程にも増えています。

アマガエルの体色は非常に幅広く変化し、あたかも周囲の色に合わせているように見えます。（多分、周囲の色に対してではなく、気温や湿度に対応した変化なのでしょうが） 植木の葉の上では黄緑色、玄関の石に似せた灰緑色のタイルの上や灰色に黒と白の斑点のある水道栓の柱の上では、それぞれに似た色合いに、さらに体の地色に斑紋が現れたり消えたりするようです。 特徴のある体色をマクロレンズで写しておきました。

また、暗闇ではかなり黒ずんだ色になっているようなのですが、懐中電灯の黄色みかがった光では、どうも良くわかりません。 これも暗闇でフォーカス合わせに苦労しながらストロボとマクロレンズで写してあります。（未現像・果たして結果は??）

本掲示板先号でアフリカ南西部の過酷な砂漠に適応して生きる「サカダチゴミムシダマシ」のことを書きましたが、この砂漠の水不足に耐える知恵を持った植物「フェネストリア」の存在を1年ほど前、ちらとTVで見たことを思い出しました。

私の雑記帳には「水の蒸発を防ぐため砂中に埋まっている植物。光合成のため地表のレンズと透明体で光を内部に導く」とメモしています。植物の写真はTV画面に出なかったのですが、このユニークな植物は右図のような構造をしているのかなという疑問を、サカダチゴミムシダマシのついでに調べてみました。

フェネストリアという名前は、インターネットで一件だけ、リトープスという名前でインターネットと百科事典に次のような記事がありました。



1. インターネット (<http://members27.cool.ne.jp/~kaiteki-junbi/hpcool/>)
ツルナ科フェネストリア・ローパロフィラ、園芸名：群玉。よく日に当て、寒さにも合わせて締めて育てると、写真1.のように、短い棒のような葉が密集して育つが現地では地中に埋まり葉頭の光窓（少しでも凸面になっていればレンズと言える）だけを出している。過保護に育てると短い棒状の葉が長めの葉になる。

2. インターネット (<http://albinopri.cool.ne.jp/whatsucc.html>)
マツバギクの仲間 リトープス
高度に多肉化した二枚の葉を持ち、自生地では上部だけを地上に出し、透明な窓から光を取り込み光合成する。
植木鉢で栽培したものは、写真2.のように全体を出している（こうしないと現地以外では蒸れて育たない）姿が示されている。

3. 世界大百科事典 平凡社
ザクロソウ科の高度に多肉化したリトープス属 Lithops植物の総称。
外観は小石状で周りの礫砂と色が類似する種類が多い。南ア、ナミビアに分布する。
英名：living stone, stone face, flowering stone, mimicry (擬態) plant, stone plant
通常、茎はなく、下部で合着した一对の葉は球状に多肉化するが、先端は台形でその上に透明部や濃色部分があり、複雑な斑紋を呈し、種を識別する特徴となっている。
花は対になった葉の間から1個が頂生するが、色は黄色群と白花群に分かれる。

4. 日本大百科全書 小学館
ツルナ科リトープス属の総称をリトープスという。メセンブリアンテマムの仲間。
属名の由来：lithos (ギリシャ語の石) + ops (顔)
ナミビア乾燥地が原産、片麻岩大地の岩床割れ目や崩壊した礫砂に覆われた立地に埋もれて自生。
この礫砂にリトープス頂面の色彩と模様が酷似しており、動物の食害から身を守る、植物の擬態例である。
極度の乾燥に耐えるため、一对の葉を高度に多肉化し雨期の水を保存する。
外観は添付写真3.のように球形で、前項3. (写真なし)と同じものである。
最初の種は1811年 (和名は露美玉^{つゆびたま})、二番目の種は1908年にやっと発見され、曲玉^{まがたま}という名で、マニアの対象となり大変高価だった由である。

5. 日本大百科全書 小学館「メセンブリアンテマム」について
ツルナ科の多肉植物の総称で120属に分類され、その一つがリトープス属。
高度に多肉化した葉状円筒形または球形の葉を対生し、地表に接して群生または枝を直立させる多年生の多肉植物。写真4.に示されているように、写真2.のリトープ

スと同じであるが、これは自生状態のものと思われます。

以上の結果から「水の蒸発を防ぐため砂中に埋まっていて、地表のレンズと透明体で光を内部に導いて光合成を行う植物」は、写真1. の「フェネストリア・ローバロフィラ」だけでなく、写真2. 4の「リトープス」属の一つの種も該当するものであるらしいことが分かりました。なお、リトープス属の種名についてははっきりしていないようであり、また、リトープス属が、マツハギクの仲間、サクロソウ科、ツルナ科のいずれであるかもはっきりしていないようです。

地球の温暖化は今急速に進んでおり、それに伴う地球の乾燥化、砂漠化は大きな問題になるわけで、四半世紀後には人類の半分は水不足に直面するとまで言われています（例えば日経新聞0208）。フェネストリアやリトープスのように砂漠に生きる知恵を持った植物を更に探し出し、その特性を調べて改良していくことは、人類にとって非常に大事な事だと思います。先日見たTVでは、きゅうりの原種といわれる砂漠の瓜が、地下50メートルに達する根っこで水を吸い上げているとありましたが、このような根っこに、もっと実のなるものを接ぎ木したらとうたろう、この根を給水ポンプ、ハイオポンプとして利用できないかなどと空想をたくましくしています。



写真1. フェネストリア・ローバロフィラ
(一枚の葉が円柱状に多肉化する)



写真2. リトープス（一对の葉が多肉化
左右の境が切れ目となる）

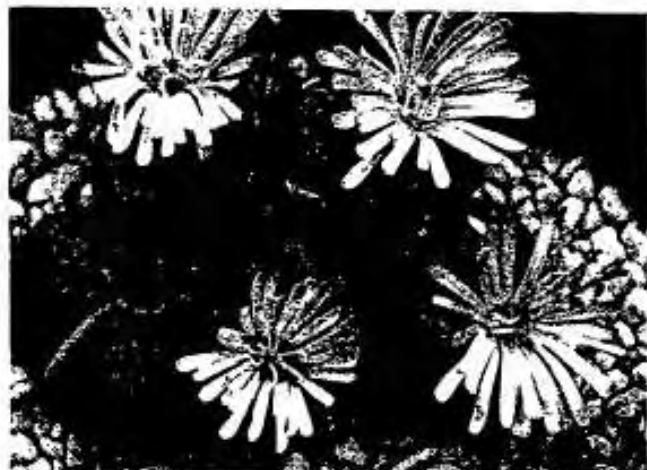


写真3. リトープス（写真2. 4とは異
なって一对の葉が玉状になる）

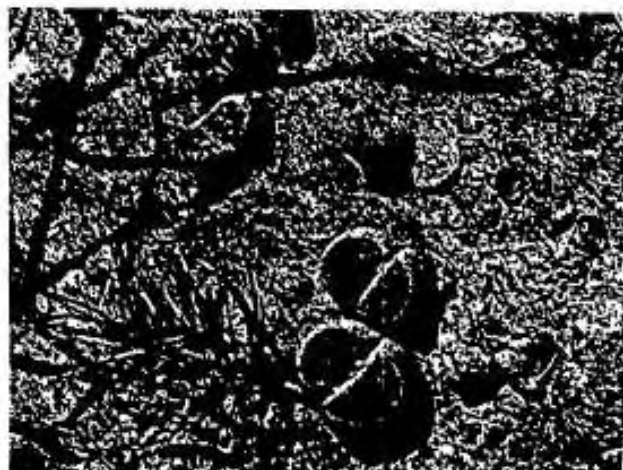


写真4. 自生状況のリトープス
(写真2. は栽培状況)

8月9日から13日までの間、中国の格安旅行をして来ました。中で最も興味のあったのは、東モンゴル自治区のフフホト（東経約112度・北緯約41度、ほぼ青森市とおなじ）から行くゲル一泊の草原の体験でしたが、（この表現が何割りの現代人に、通用するか知はりませんが）「洗濯板」か「ブリキの湯たんぼ」のような道のスリル満点のバス旅行（都市部以外では、車も車検もほとんど受けていず、ほとんどが無免許運転で、「道を譲ることは恥」とばかりにクラクション、急ハンドル、急ブレーキ、砂塵をあげてのチキンレースの連続！また連続！！道路わきの急斜面には転落した積載量超オーバーのトラックがここかしこ。）その先の宿泊地は、ゲルとは名ばかりの観光客目当てのチャチな物でしたが大草原はすばらしく、周囲360度すべてが地平線まで続く起伏のなだらかな草原、日本では紫色に霞んでしまいそうな遙かな地平線を双眼鏡で見ると鮮明で手に取るように見える「透明な空気」とでも言いたい、当たり前なのに不思議な感覚でした。

日本で見慣れたワレモコウ、ヨメナ、リンドウ、カワラナデシコ、等に良く似た草花がそこかしこで見られました。

東モンゴル内ではモンゴル人の女性のMさんにガイドをして頂きましたが、彼女は教育（特に女性の）にあまり熱心でないモンゴルで、長距離乗馬通学での初等教育から始まり、大学（林学）を卒業されているそうで、世界に通じる広い視野と同時に草原の生活や牧畜にかかわる細かなノウハウまでに精通しており、（鳥取大学？遠山征英先生の植林ボランティアにも加わったそうです。）面白い話を聞かせて頂きました。

その1 （この辺りの牛はホルスタインが多い）ホルスタインの牛乳は水分が多く、チーズの歩留まりが低く、その味や風味も劣る。→ チーズの品質よりも、販売量による収益重視に傾いている。 *在来のは味が良かった。*

その2 モンゴル人は、絶対に周囲の環境にゴミを捨てないが、漢民族は平気で捨てる。（実際、草原は清潔なのに、漢民族の宿泊するゲルの周囲はゴミだらけとなり、公共の場に、人目もはばからず捨てているの目にし、これを咎める人もいない。）

《これについての私なりの解釈》

草原に軸足を置き、牧畜を正業とするモンゴル人は、羊一頭一頭の管理をするライン労働者であると同時に、牧畜業の計画や効率、仕事の質と量を考えるスタッフであり、経営の責任者も兼ねている現実的総合的知識の持ち主に思われます。

末端の技能・技術から経営について、全体的に理解し、全てを自己管理してる者が自分の生活・生産の拠点を無意味に破壊する筈がないのです。

ここで「漢民族」を「我々日本人を含む、通貨重視社会→特に給与生活者」に置き換えると、「社会や仕事の全体が見えにくく、箇串的になりがちである。」「仕事の質と量、に対するべき給与が、かなり拘束時間の対価的な傾向が強く、『良い仕事』の評価があまりなされていない。」

これは怖いことだと思います。内容の薄い、誠意の無い仕事で長時間を潰し、法規制・罰則が無い限り出鱈目が容認される、社会が最低レベルに収斂される、言わばコンボイ方式に陥る恐れがあるのではないのでしょうか。

日本では見かけなくなったオート三輪が多数活躍しており、写真を撮ろうとうろついていると、不審者と見られたか、眉間にしわを寄せた屈強な漢民族の数人の男性に取り囲まれてしまいました。

我親中国的日本人 美哉三輪汽車

日本既不製作三輪汽車

我欲撮写真三輪汽車 (「本」は「車」の新しい字)

約45年も前の高校時代に習った漢文を思い出してノートに走り書きで、適当に単語の語順を並べ換え、文法もなにも出鱈目です。何とか通じたらしく、これを回し読みした途端に笑顔に変わり、自慢のマイ オート三輪を次々に紹介されてしまいました。

我親中国的日本人 欲採虫馬糞上

日本で使われている熟語は、全く別の意味になることが多く、誤解がこわいので「甲虫」「昆虫」「採集」は使えなかった。

これに味をしめて、同様の手段で馬糞に群がる甲虫を探してもらいましたが、時間帯によるのか全く見つかりませんでした。朝の草原ハイキング(約6 Km)中に見かけた馬糞にワンサと群がっていたのですが・・・結局、雄・雌とされるもの(本当の雄・雌かどうか定かでない)の形が全く異なるバッター番を、老酒に浸けにし、関空の正規の検疫を受けて持ち帰りました。

Mさんは8月10日に「3日前には夏の色だった草原が今日は秋の色に変わっている。」と言っていました。暦上は2日前が立秋で、我々には暦を見なければわからない変化を感覚で確実に感じているのです。

Mさんは眼鏡を掛けていますから、特に視力が良いとも思われません。しかし草原を走るバスの中から、次々に逃げ回るウサギやネズミ(ジリス、プレーリードッグに近縁か?)を見つけだし、知らせてくれるのです。私たちの目が確認出来るのはその内の二割程度でした。このウサギは「子育ては穴の中ですか(Rabbit 赤い目の日本飼育兎に近い仲間)、地表ですか(Hare 日本の野兎に近い仲間)」の質問に「穴の中ですか」と即答してくれました。日本での私の身近には、この違いのわかる人はほとんどいません。

モンゴル相撲大会と15,000m競馬(騎手は8歳から中学3年生ぐらいの子供達、20騎ほど)も見られました。競馬は大迫力!だがスケールが違います。隣家まで近くて6 Km、地平線まで横のない世界です。コースアウトした子供を乗せた馬は地平の彼方へ消えて行くのです。時間はたっぷりあるので、その内帰ってくるのでしょうか。

《これは大草原マジックなののでしょうか?》

地平線まで見通せ、隠れるところもないのに、人口密度は非常に低い筈なのに???

相撲大会や競馬が始まると、どこからともなく大観衆が湧いて出て、終わると地に吸い込まれるように消え去るのです。何も無い、ただ風が渡るだけの大草原全体が、気が付くと一面ゴマを撒いたようにウシ・ウマ・ヒツジ・ヤギ・やや少数のフタコブラクダで埋め尽くされるのです。そして少し注意をそらした間に元の何も無い草原に戻るのです。



表題 [釣り人 と とんび]

投稿日 [02.09.16] お名前 [志賀 町 尾形 勇]

いつものことながら、今日も 軽装で万歩計、散歩靴を履き、やおら腰をあげ、
玄関を一步出た所で、ちょっと思案・・・今日はどちらのコースに 行こうかなあー と

神社コースと 浜コースいずれも9000歩余りの等距離だが 昨日に変えて
浜コースへと決めた。10分あまり町なかを過ぎて、和邇川の堤防を湖に向かって
進んで行く。ここはこれまで フィールドレポーター調査で、“水辺の鳥の調査”で幾度も
サギ、カラス、カイツブリ、などを見つけ取材した 類りの和邇川だ。

また時には、タモをもって、孫と一緒に カワムツやウグイなど捕りに来た
川でもあり、湖岸までくると 結構大きな魚 ハスやニゴイなど悠々と泳いでいるのを
見ながら のんびり散歩できる、厭きのこないよいコースだ。

今日も湖岸まで200m位 まで来たとき、向かい側土手で 釣りをしていた青年が
突如！ 竿を ビーン と引き上げた、！ ヤッター！ と叫んだ
その先には 20cmくらいの 胴体がすこし太めの魚だ、ブラックバス？かも

青年は なれた手つきで魚をはずし、振り向きざまに 土手の上の道路に無造作に
放り上げた。その瞬間、目にもとまらぬ速さで、サーッ と急降下してきた “鳥”
“トンビ” だー、あッ、 という間に エサをくわえ 飛び去って行く、その早業
なんと、上手いもんだなー、

ところで トンビはいったい何処から来たのだろうか と見回す堤防沿いに
松ノ木や電柱などがある、どちらかの 高所からジーツー チャンスを窺っていたに
違いない。これまでに、このような機会を幾度か経験しおぼえこんだのだろう

人間と鳥の とりなす面白い シーン をかいま見られたのが印象に残り、
記事にして見ました。



敬老の日で秋を実感。

一日ごとに秋を実感できる頃となりました。三連休の中日は敬老の日で県内各地では、老人を敬う式典やアトラクションなどが盛大に行なわれていたようです。毎年の事ながら空調のない会場でうちわやセンスを使う人が少ないことで、この時期はまさに秋が感じられます。

総務省が 14 日発表した統計調査では日本の総人口は 1 億 2,747 万人のうち 65 歳以上は 2,362 万人（総人口の 18.5%）75 歳以上の人数が 1,003 万人（総人口の 7.9%）と初めて 1,000 万人を超え、云うに及ばず長寿国であるイタリア、ドイツ、フランスを上回る高水準で推移している事は衆知のとおりです。

敬老会々場へ送迎のお世話をしながら会場を垣間見て感じた事、延々と来賓の祝辞に続きやっと始まるアトラクションは地域の保育園、幼稚園、小学校、中学校の園児や児童生徒の出演ですがその子供たちの人数は保育園児や幼稚園児は舞台に全員上がれない多人数、そして小学生、中学生と激減していきませんが、園児の出演ではそれをビデオやカメラに収めるお父さんお母さんでいっぱい、使用していない二階の周りも三脚を立てて記録する父兄の真剣さに微笑ましい親子の愛情を実感した敬老会？の会場の一コマでもありました。

「ため池を調べよう」の調査が終了して第 3 回の調査「アオマツムシは鳴いていませんか」が始まりました。調査資料と共にアオマツムシの鳴き声テープが添付されていますが初めて鳴き声を聴いたと云う人も多いようですが秋にふさわしい鳴き声ですね。

すでに自宅付近で鳴き声を聴いた、鳴いている数は複数が多いと云う情報も頂いていますし、調査依頼用紙で説明されているように街路樹や生垣など人の暮らしとかかわりの深い昆虫ですから案外身近なところに居るでしょう。皆さんの所では如何でしょうか。

2002 年 9 月 23 日

担当は古谷でした

アオマツムシ調査アンケート用紙 記入についてのお知らせ

調査用紙の回答を複数枚提出される時は 2 枚目以降の調査用紙には

◎以下の質問にも自由にお答えください。（設問 18～21 に追加事項が無ければ）は記入する必要はありません。（桑原@琵琶湖博物館）

フィールドレポーター 掲 示 板



2002 年度 第 5 号 通巻第 22 号 (12 月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

いよいよ年も押しつまり、2002 年の午年も残すところわずかとなってしまいました。皆さんはどのような 1 年をお過ごしになりましたでしょうか。気持ちよく、また楽しくフィールドレポーター活動を行っていただけたでしょうか。私の方でいろいろと不手際もあり、ご迷惑をおかけした点多々あるかと思いますが、来年もどうかよろしくお願いします。

ところで、去る 11 月 3 日(日)兵庫県立人と自然の博物館に、近隣(東京は近隣?)の博物館施設 12 館から 22 グループのボランティアグループが集まり、それぞれのグループの活動の様子を紹介しあうボランティアメッセ「スーパードリームスタジオ」が開催されました。私は残念ながら参加することができなかったのですが、琵琶湖博物館からは「はしかけ」と「フィールドレポーター」の合同で参加しました。当日は、大変寒かったようですが、当館から参加されたフィールドレポーターの方、はしかけの方々からは、よそのボランティアグループの活動の様子を知ることができ、またよそのグループとの交流ができて大変有意義だったとお話をお聞きました。これからの、このような催しがあればできるだけ積極的に参加してゆけたらいいかなと思っておりま。ボランティアメッセに参加された皆さん、大変お疲れ様でした。



来年は、3 月 2 日(日)に琵琶湖博物館での研究発表会、7 月からは企画展への参加もあります。ますます楽しく有意義な年になると良いですね。(桑原)

フィールドレポーター 1・2 月の予定をお知らせします。

・ 1 月 11 日(上)	定例会:	於:琵琶湖博物館交流室	14:00 ~
・ 1 月 19 日(日)	定例会:	於:琵琶湖博物館交流室	13:00 ~
・ 2 月 1 日(土)	定例会:	於:琵琶湖博物館交流室	14:00 ~
・ 2 月 16 日(日)	定例会:	於:琵琶湖博物館交流室	14:00 ~

*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

「ようこそ琵琶湖へ」 グライガー・マーク・ジョセフさん (Gryger, M.J.)
(海洋生物学Ph.D.) 専門分野：生物多様性学

草津市 山崎 千晶



私がグライガーさんを、「フィールド・レポーター便り」に載せる琵琶湖博物館学芸員インタビューの対象に選んだ理由は、「たんぼの生き物調査」という日本的な研究に何故アメリカの方が？と思ったからです。それと、車に乗らずに滋賀県内のどこまでも、JR・電車やバスを乗り継いで調査活動されている事でした。

さて、こういった質問をすればよいのか判りませんので、とりあえず学芸員紹介パネルのコーナーをエックに行きました。ところがグライガーさんのパネルには英語の論文が掲示されており、私は完全にお手上げ、全く理解できません。日本語を話されるグライガーさんではありますが、英会話の出来ない私がおこがましくインタビューなどと考えたことに少し後悔して、まともなコミュニケーションが出来るのか？と不安を感じていました。

その日、たまたま質問コーナーを担当されていたグライガーさんに、取材を申し込みますと、自分の出勤日をカレンダーでチェックされ、「朝早いのは苦手なので…」と後日 11 時より交流室でインタビューさせていただける事になりました。ところが当日、私が守衛さんのところで交流室の鍵をと申し出ましたら、すでにグライガーさんが、約束の時間よりも早く交流室の鍵を確保されていて、私はすっかり慌ててしまって、心の準備も整わないまま、取材を始めることとなりました。

出身はアメリカのペンシルベニア州エリー市(五大湖の一つ・エリー湖のほとり)で、12歳の時にメリーランド州の方へ引っ越され、今でも1年に1回くらい帰省しておられるそうです。6歳の頃は恐竜に興味があり、12歳頃から無脊椎動物に関心に移されたそうです。その後、バージニア州立ウィリアム&メリー大学を卒業し、カリフォルニア大学のスクリップス海洋研究所(ここは有名なので行きたかったとのこと)で6年間生物学をおさめ、博士号(Ph.D.)を取得し、その間、海洋生物に寄生する甲殻類の系統分類学、発生学、比較形態学を専攻される。1984年から仕事探しを始められて、13年の間に各国の博物館や研究所や大学を巡られたそうで、今までで一番楽しかった所はオーストラリアのシドニーだったとのことでした。

日本には11年間おられ、琉球大学に4年間、(ここで沖縄の祭りや料理が好きになり、滋賀・沖縄県人会に入れてもらった時は嬉しかったと楽しそうに微笑んでおられました)。京都大学の瀬戸臨海実験所に一年半、広島大学の水産実験所に半年、その間に少しずつ日本語を覚えられたそうです。バス停の名前の漢字を読まれるのには驚いたと一緒に調査に行ったフィールドレポーターのひとりが感心していました。

現在は、瀬田川の横にある唐橋職員寮からJRとバスで琵琶湖博物館に通っておられます。車の免許は1988年から持っているが、交通量の多い大きな街では事故を起しそうで恐いので、車の運転はしないそうです。沖縄・広島ではスクーターを使っておられたそうです。ときおり不便を感じ、スクーターを買おうかと考えるが、たぶん田舎にでも

引っ越したら乗るでしょうと笑っておられました。

琵琶湖博物館には5年半在籍して、淡水動物(特に田んぼの生き物)や魚類の寄生虫調査などの共同研究をしておられます。特に、カイエビ等の甲殻類の系統分類学にたずさわって、今までしていた科目(海洋生物学)は琵琶湖が淡水なのでわずかになってしまったようです。カイエビは原始的甲殻類で、日本では70年間研究がなされていないので、新発見があれば論文を出せる、とても可能性のある分野とのこと。

研究している人の少ない分野では、新しいことが見つかる可能性が高く、たくさんの論文を書くことができます。また、それが世界レベルの仕事になるチャンスも大きいとのことでした。しかし、別の国のサンプルともっと比較検討したいのに、標本が少ないので難しいという問題もあるようです。滋賀県は相対的に交通機関が利用しやすいので、車に乗られないグライガーさんにとっては調査活動がしやすい所だそうです。

琵琶湖博物館のようなFR制度が、他の県にもあれば早く広い範囲の調査が可能なので、各県にもほしいと望んでおられました。他の県は3年間に一人で、主に東北の30ヶ所ぐらゐを調査されたが、新潟の12ヶ所ではエビは見つからなかったようです。

琵琶湖博物館にはあらゆる分野で優れた方が多いので、おおいに活用させてもらい研究を進めれば、共に世界的に有名になれるので頑張っていますとのこと。

グライガーさん(46歳シングル)の休日の過ごし方は、赴任当初は語学に自信がなく授業も出来なかったので時間があり、買い物や交通機関を最大限に利用しての散策を楽しんでおられたようです。ところが、最近は研究が多くなり、散策もままならぬようでした。毎日外食なので、安くて(600~1200円ぐらい)美味しい店を人から聞いて行っており、何カ所かで客やマスターと顔見知りになり楽しいですとのこと。長浜にグライガーさんのお馴染みのお店があり、「あれがそうです」と、せんだって他の学芸員の方にJRの車窓から教えて頂いたことを思い出していました。

日本の食べ物では、梅干しは苦手、牛肉は脂っぽく感じる、納豆は小さいパックの半分ぐらいなら食べることが出来る、刺身などはほとんど大丈夫とか。

日本語や漢字は、人と話しをしたり、書いてあるものの意味を少しずつ教えてもらったりして覚えていますということです。

インタビューを終えて、内容に間違いがあつてはいけないので、原稿が出来ましたらチェックしていただけるようお願いしましたら、私の原稿を覗き込みながら「グライガーさんは、毎朝子供を食べている!？」とか書いて無い?とおっしゃられたり、写真を撮らせて下さいとお願いしますと、はにかみながら髪を整えたりされて、ユーモアがあり大変楽しい方でした。



表 題「コウガイビル」

投稿日「021207」

名前【大津市 有田重彦】

11 月 26 日、曇りの日の朝、自宅の小屋のドアのアルミ製腰板の真中付近に、長さ 15 センチほどのミミズ状の茶褐色の生き物が、上向き、直線状でへばり着いていました。頭がT字状で（一瞬、しゅもく（撞木）さめの頭部形状に似ているなど感じましたが）目と口が無い奇妙な生き物です。早速下のような写真を撮り、ガラス瓶に入れてよく見ると、ミミズとは違って腹側（接地側）に縦筋模様があり、感じとしてはヒル（蛭）のようでした。もっとも、ヒルには強力な吸い口がありますが。

ビンに少量の水とともに入れると縮まってずんぐりとなり、直射日光に当てて暖めてやると伸びてスマートになります。この伸びた状態では、写真のように 15 センチ弱の長さになります。動きはミミズよりは遅く、カタツムリ、ナメクジよりは早い感じです。

この小屋の周辺は、セメントたたきの床面とコンクリートの壁面であり、雨天を除けば乾燥していて、ナメクジなどはいない環境です。1メートルほど離れて花壇（近い方に「はらん」が茂っています）があるので、そこからの遠征の途中だったのでしょうか、こんな生き物がいるとは驚きの一語です。

二日後、博物館に持って行って、楠岡さんに見てもらおうと即座に「コウガイビ（ヒ）ル」とのこと、大塚さんも同じ答えでした。カタツムリやナメクジを食べるが口は腹の方にあるらしいとのことでした。早速アルコール漬けにしてグライガーさんへのプレゼントになりました。

なお、辞書によると「こうがい」の意味は、（1）「髪かき」の変化 昔、髪をかきあげるのに使ったはし様のもの（2）日本髪の横にさす髪飾り具、だそうです。鎌倉時代のこうがいは耳掻き状になっているので前者からの命名でしょう。江戸時代には後者が出てきたようです。12 月 8 日の NHK 大河ドラマで「まつ」が自害用に持っていたのは、前者の中間部が1センチ幅強の板状で後者への過渡期の形と思われました。

百科辞典で調べた結果は次のとおりです。

コウガイビル【筭蛭】*Bipalium* 扁形動物門渦虫綱コウガイビル科 *Bipalidae* の動物の総称
陸上生活をするウズムシ類、東南アジアなど熱帯、亜熱帯の森林に多いが温帯にも一部分布する。
目は眼点として、頭部や頸部の縁に沿って並んでいるが肉眼では見えない。口は腹面の中央にある。
主に夜間に活動するが比較的高温多湿のときは昼間でも地上や石の下、温室内をゆっくり這う。
体に触れると数片に切れる（自切）（写真を撮るときやビンに入れるときに軽く触ったがこの自切現象はおきなかった）。

日本の普通種はクロイロコウガイビル *Bipalium fuscatum* で背面は無地の黒色、体長は 10 センチ前後。
採取したものはこの種と思われます。背中に黒線が縦走するミスジコウガイビルやクロスジコウガイビルは体長は小さくて5センチくらいである。

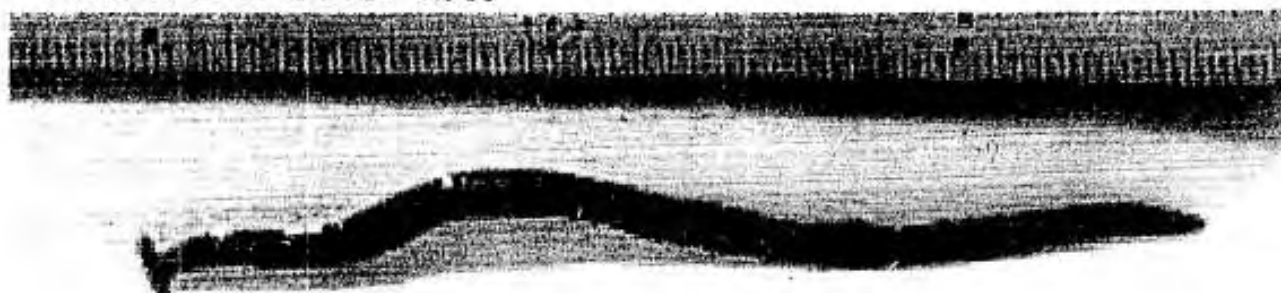


表 題 [外来魚の放流・再放流に反撃を]

投 稿 日 [021106]

名 前 [彦根市 加藤 啓英]

10月30日の朝日新聞の清水国明氏の「環境壊すほど害ない」「バス再放流なぜ反対」にもう黙ってはいられなくなりました。これより機会あるごとに合法的ではあるが、かなり変則的な手段で、私の出来る限りの反撃に移りたいとします。とにかく「釣り上げた魚は食べる物」であり「放流・再放流は許されない事である」事を常識として定着させたいのです。とは申しまして力不足は如何ともしがたく、理論闘争に持ち込みましたら弱いプロレスラーよろしくリングの外に逃げ出たく、知識とデータをお持ちの学芸員さんにタッチしての交代、その背中に隠れさせて頂きたいのです。

琵琶湖の固有種や希少種の絶滅を、手をこまねいていて見ているのはフィールド・レポーターの存在理由・存在価値が暴落します。そこで皆さんにも協力して頂き、時流に逆行する釣り雑誌やTV番組、等に事あるごとに「はがき攻勢」を掛けて頂きたいのです。

(同じ差出人ではあまり相手にされないでしょうが、百数十人のフィールド・レポーターの皆さんの協力が頂ければ、かなり世論を喚起出来るのではないのでしょうか。(先ずは「京都テレビ」と「びわ湖テレビ」の意識から変えようではありませんか。)

- * 朝日新聞の投稿欄の「声」には反論を投稿します。
- * 毎日テレビの「探偵、ナイトスクープ」には料理法を放映する方向に誘導します。
- * 子供向けを中心に、質問に答えてくれる科学番組や釣り番組には手まめに質問の形で投稿します。
- * 釣り雑誌、アウト・ドア雑誌も逐次手をつけます。とぼけた答えが帰ってきた場合は「はがき総反撃」で応じましょう。

??? 外来魚を問題視するのは私だけの独走でなく、皆様との共通理解だと信じていますが皆様の中にも異論は有るのでしょうか？

本年8月の掲示板通巻 20 号で、四月末に見つけたヨコヅナサシガメが「飛び立つこと無く、おとなしい性格だ」と書きましたが、さる十月末に広島の友人と登った比叡山の、坂本ケーブル延暦寺山頂駅ビルの屋上テラスで見つけた一匹のヨコヅナサシガメは、春の鮮やかだった黒白の横縞模様が薄茶色に汚れ、よれよれの感じになっていました。引退直前の横縞みたいだと比喻するのは、力士に対して大いに失礼ですが、この横縞虫にはぴったりの表現でしたが、動きは活発で、手を近づけるとあっという間に飛び去ってしまいました。春は脱皮したばかりで気温も低かったので飛ばなかったのでしょうか。またこれは集団で越冬するとのことなので、よれよれの状態は一冬二夏を過ごした結果かも知れません。

へちまクラブだより 10

芳賀裕樹

年の瀬も押し詰まってきました。風邪が流行っているようです。ノドにくる風邪には、へちま飴をどうぞ・・・なんてね。今年の皆さんのへちまのできはどうだったでしょうか。タワシを作って洗い物をしてみましたか？

そんなみなさんの状況を知るとともに、いままでの活動のまとめをするためにアンケート形式の調査票を作りました。他の調査と同じように集計するだけでなく、へちま（タワシ）に関するエピソード、思い出、未来についても皆さんの原稿でつづっていきたいと思います。自由記述欄が小さく、もっと沢山書きたいという方は別紙での投稿も歓迎します。へちまタワシの新しい利用方法について、写真などで送って下さるのも大歓迎。電子メールをお持ちの方は添付書類で写真を送っていただくこともできます。

調査票の返送の期切は1月15日です。みなさん御協力をお願いいたします。



表 題 「ヘチマ、今日このごろ」

投 稿 日 「021106」

名 前 「彦根市 加賀 啓英」

私の庭のでぶらぶらしているヘチマは、まあまあの大きさのもの3本、世を拗ねたようなひねくれたもの1本です。少し前に小指2本分ほどの太さで小指ほどの長さ（太さ3cm、長さ5～6cm程度）のもの2本をとり繊維だけにしましたが、初めは薄緑色が残りヤママユ蛾の繭に良く似ていました。これに発光ダイオードを組み込めれば面白い物が作れそうです。

以前の「掲示板」で私（名前は「加古」となっていたように思いますが、言った覚えがあります。）の話から「ヘチマを加熱すると容易に皮を剥ける」と紹介されておりましたが、補足しますと、「乾燥状態での加熱」ではなく「煮る」「お湯をかける」などです。お湯が冷めてからでも皮は剥けるようです。

我が家の犬に、小さめの「亀の子束子」程の大きさの切れ端を与えると、時間を掛けて食いちぎりますが、歯磨きの効果がありそうです。

このごろ店数が増えている「コメリ」のペットフード売り場に、直径10cm、長さ5cm程度のヘチマの輪切りが、ウサギやペットの齧歯類に与えるものとして一個167円で売られていました。

表 題 【 ヘチマの利用法 】

投稿日【02.11.10】お名前【山 東 市 町 村 大 橋 義 孝 】

先週、中日新聞にヘチマ枕なるものが紹介されていましたので報告します。

ecoowaki

ヘチマ枕



熱がこもらない

「ヘチマの里」と呼ばれる富山県大島町で無農薬栽培されたヘチマの枕。約十本分の繊維を一対角のチップ状にして詰めている。浴用たわしとしてなじみのあるヘチマの繊維は、通気性が

よく、熱がこもらないのが特長。ほどよい硬さで、使い心地はさわやか。乾きも早く、洗濯機で手軽に洗えるのがうれしい。Sサイズ（25×36cm、三千円）と、ミニサイズ（15×40cm、一千五百円）は中身がヘチマ100%。M・Lサイズはもみ殻やエステル綿を加えたタイプ。ヘチマ産業フリーダイヤル（0120）545487。

沢山の実をつける桜の種類(木の名前)を教えてください

(2002 年度 第3号 p.9 中川さんより)

さくらの葉と実を見せていただきましたが、本当のところは自信がありません。あえていうとオオシマザクラというサクラではないかと思います。葉の形が似ていること、腺点の位置が葉柄と鋸歯の下部の両方に見られること、大量の実がつくことなどです。ソメイヨシノというサクラの品種は、オオシマザクラとエドヒガンという二種類の桜の雑種で江戸時代に作られて、広がったとされています。

もしオオシマザクラであれば、春に花と葉とが同時に開きます。その点ではソメイヨシノとは異なるところです。オオシマザクラは時々混ざりこんで(?) 植えられていることがあります。来年の春の花に注目ください。

植物担当 布谷知夫

表 題 「巨大生物の実測に成功」

投 稿 日 「021115」

名 前 「彦根市 加賀 啓英」

子供用の図鑑にミンククジラ 8.5 m、シャチ 8.0 ~ 9.7 m とある。してみると、今回計測した 9.73 m のこの生物は、これらには負けていない。しかも我が家の庭にとぐろを巻いていたのです。

実は何の意味もないとは解っているのに、枯れたヘチマの蔓の全長(枝分かれの一番長い物に沿った長さ)を計ってみた結果です。

《自画自賛》 生きるため、子孫を残すため以外の行動は、知能の高さを示すとも言われます。「チト照れるな〜、そんなに褒められると」

鉢が小さかったので、この程度でしたがうまく育てていれば、まだまだ長くなったと思います。外見からの予測では 8.0 m 程度と思っていたのですが、+ 21.6 % の誤差でした。

大分前のこととなりますが、いくつかのアウトドア雑誌に「樹木の幹に聴診器を当てると、水を吸い上げる音が聞こえる。」とあり、「出来の悪いマンションのトイレではあるまいし、そんな馬鹿なことはない」ことを証明してやろうと思い聴診器を買い込みました。しかし無いもの・無いことの証明ほど難しいものはなく、以後使うことも無い、何の変哲もない二股のゴムチューブに ¥ 2000 も出費し、言いたいことも言えないでいます。

済みませんが、植物の吸水と揚水のメカニズムを教えてください。アメリカなどの巨木には 110 m を越えるものがあると聞きます。これはトリチェリーの真空 11 階建て分です。この大気圧を越えた 10 階分の水頭の重量を細胞膜が支えきれぬのも不思議に思えます。

表 題 [お知らせ]

投稿日 [2002.11.9.]

名前 [大津市 有田重彦]

1999 年の第 3 回フィールドレポーター調査として、11 月から翌年 3 月にかけて、冬の野外でカマキリの卵のう調査を行いました。多数の参加者を得て集めた卵のうの同定と採取環境の解析結果は、2000 年 3 月 19 日のフィールドレポーター交流会（於山東町）で、指導いただいた八尋学芸技師から発表してもらいました（資料としては同年の「フィールドレポーター便り」第三号）。

ところで、この調査結果が、八尋さんのご尽力で「滋賀県におけるカマキリの卵囊の分布」として、昆虫の専門誌である「昆虫と自然」12 月号に掲載されました。琵琶湖博物館のフィールドレポーター制度と、レポーターによる調査活動結果として、全国的に紹介していただいたことは、われわれ一同として大変光栄ことであり、また今後の活動の励みにもなることでもあります。一同で八尋さんに感謝の意を表明したいと思います。

なお、雑誌の別刷りがありますので、ご希望の方は博物館のフィールドレポーター担当の桑原までご連絡ください（TEL：077-568-4811，FAX：077-568-4850）。

表 題 「コウガイビル 追記」

投稿日 「021215」

名前 [大津市 有田重彦]

「コウガイビル」の表題で投稿した後、次のことが分かりましたので追記します。

コウガイビルの生態

インターネットで調べると驚くほど沢山の記事が検索できましたが、面白い生態は次のとおりです。

- 1) 移動はナメクジのように腹側をべったりつけて・・・ではなく、腹側の中心線部分だけをスケートの刃のように僅かに地面に接しているだけ。だから違った跡は細い線になる。
- 2) 移動中に末端、端っこで足元がなくなると、蜘蛛のように尻の先から粘液の糸を出してぶら下がって降下し（粘液降下と表現）、着地後は粘液を切るそうである。1メートルほどの落下移動ができるが、粘液がなくなると反転して頭を上を攀じ登って戻る。
- 3) 餌のカタツムリは、体で包み込むようにして食べるが、カタツムリの廻りは白い泡だらけで、体外消化の様子、棒でつついて見ると腹側の中央部に白い咽頭が見えたそうである。

（出所：<http://www.asahi-net.or.jp/~dv5m-wd/u/uta2.htm>）

コウガイの形

NHK のドラマ「利家とまつ」を再放送でよく確認した結果、まつの子の形見のコウガイは頭部だけが鎌倉時代の原形を残していてコウガイビルの頭部に似ています。軸・胴部のほうは平板状になっていて、萎縮したときの形を連想させます。

表題 [知内川のビワマスと小島]

投稿日 [02. 11. 21.]

名 前 [志賀町 尾形 勇]

ビワマスの産卵観察会(11月17日)に参加して

博物館の桑原さんから晩秋の野外観察会にふさわしいものの一つとして、ビワマスの産卵観察会をやりますとのご案内をいただいて、待ちに待ったその日がきました。心配した天気も精進のよい桑原さんの願いもかなったのでしょうか、朝から上天気になり、早朝からせつせと弁当造りをしてくれた家内の労も適い、こころ弾む思いで湖北マキノ町へと車を走らせました。コースは、往復はがきの返信にくわしく記載していただいたので安心でした。

少し早く着くように出ましたので、9時半には知内川に着きました。

案内地図通り堤防を河口の方に下って、100 mほど来たところの河川敷の方をなにげなく見下ろしましたところ、川中の州にスクッと立つ小型の“鳥”、その脚がスラリと細く長いのが目を惹く、実にスタイルのいい鳥だ。少し離れてもう一羽いる、つがいかもしれず、何と言う鳥だろう？ 大きさは鳩ぐらい、体は薄い灰色と褐色の混ざったようなまるで秋の枯れ木にも似せた色合いに覆われ、お腹あたりは白く見えている。

古歌に、

こころなき 身にもあわれは しられけり
しぎ立つさわの 秋のゆうぐれ (新古今/西行)

とあるも、ともかくのどかな湖北の河畔の美しい自然の背景にマッチした、まさに一幅の絵を見るようでした。

本番のビワマスの方は、水が澄んでいて、陽光も波に映え、注意深く探していて漸く流れの中に幾匹か発見できましたが、産卵状態は残念ながら見つけれませんでした。

あと、漁協で桑原さんが別の日に撮ったビデオを映写し、詳しく解説してくださいました。ビワマスの種族保存のいとなみが、なんとも厳しく競うものだなあーと、深く感じ入ったことでした。

また、忘れられない思い出は、漁協の方が作って下さった“マスの飯”。試食程度と言われたが、実は沢山頂き、始めての味わいでしたが、大変美味しく頂戴しました。

この日のためにお世話いただいた方皆様にお礼もうしあげます。



表 題 「清水国明氏の提訴に対し、反論出来る正しい知識を」

投 稿 日 「021116」

名 前 「彦根市 加岡 啓英」

タレントの清水国明氏が「レジャー利用適性化条例の外来魚のリリース禁止に反対し、大津地裁に提訴しています。その論旨がどうも納得出来ないので琵琶湖博物館の学芸員さん達に、これをたたき台にして正しい知識をお伝え頂けないでしょうか。

彼の言い分は

1. バスは釣るための魚で、バスフィッシングはリリースするのが世界共通のルールだ。
* ビッグマウス&スモールマウス・バスは水産資源の美味な食用魚だと思いますが、レストランのメニューや調理のレシピから見出せないでしょうか。又、水産資源としての記録はないでしょうか。
2. バスが卵や稚魚の時に在来魚に食べられることもあり、一方的に在来魚を食べるわけではない。
* 産卵・稚魚の成長の時期・速度、親が稚魚を守る習性の有無、量的均衡、等からみても、この理屈は正しいのでしょうか。
3. バスと在来魚が共生している湖もある。生態系を壊すほどのバスの被害はないはずだ。
* 本当にバスと在来魚がバランスのとれた生態系を保っている湖がありますか。有用魚は稚魚の放流を続けることによって、辛うじて漁獲量が保たれているのではないのでしょうか。
4. バスが全国に拡散したのは、アユの稚魚に混じって放流されたためではないか。
* アユの稚魚の採取時期やサイズから見て、バスの稚魚が混じる状況ですか。稚アユを採取する水系のバスは適法放流で繁殖・棲息しているものですか。
5. 環境行政の誤りの失敗の責任を全部バスに押し付けている。
* リリース禁止は施策の一つであり、洗剤の使用規制、駆除の為の税負担等、滋賀県民もこぞって協力し多大な負担を強いられていると思いますが、いかがでしょうか。

子供向けの出版物やTV番組の質問コーナーなどに機会を捕らえて、小まめに問いかけしていますが、私の名前はあまり他に類がないのですぐに「変なことを言う奴が一人いる」と思われますので、フィールドレポーターの皆様の援護射撃をお願い出来ないでしょうか。

又、「私の反論」に対する「その又反論」を迎え撃つ「理論闘争のための知識」が是非必要なのです。釣った魚の腹を料理したこともない者に、バスの食性云々をほざかせて置いてはならないと思います。

「さかなを食べると♪、頭が良くなる♪」の対偶は「頭がわるいのは♪、さかなを食べないからだ♪」で証明が成り立ちます。

表 題 「シグナル クレイフィッシュって何ですか」

投 稿 日 [021203]

名 前 [彦根市 加岡 啓英]

11月21日の夜6時過ぎに、読売TV (10 CH)で巨大サリガニの話題あり。

シグナル クレイフィッシュ と呼んでいましたが、幅広い鉄の形が北海道東部で食用とされている和名ウチダザリガニ (Pacifashtacus trowbridgii タンカイザリガニ P. leniusculusと同属) に良く似ているように思われるのですが、この英名が シグナル クレイフィッシュなのですか。

ウチダザリガニ Pacifashtacus trowbridgii

タンカイザリガニ P. leniusculus

の二種は「食用として輸入された」とされますが、属の異なる以下の二種は食用に適さない理由があるのでしょうか。

アメリカザリガニ Procambarus clarkii

サリガニ Cambaroides japonicus 在来種

近日中に必ずアメリカザリガニを、更にはタニシやイナゴも食べて見ようと思っています。(アメリカザリガニは一度だけ食べたことがあり、そう不味くはなかったように思います。)

表 題 【 レンジャクを見ました。 】

投稿日【020920】お名前【大津市町村 仰幸 貴美子】

今朝6時30分頃、雲一つないよく晴れた空に、多くの鳥が等間隔に並んで、東から西へと飛んでいました。先頭から末尾の鳥まで、100羽はあったと思います。鳥の数は150羽ぐらいだったでしょう。「アッ！レンジャクヤッ！」と誰かが言いました。全く絵に書いた情景にただただ見とれてしまいました。

レンジャクてどのような鳥なのでしょう？ どうしてあのように美しく並ぶことができるのでしょうか。教えてください。

表 題 「飽きもせず、懲りもせず、変なことをしています」

投 稿 日 「021203」

名 前 「彦根市 加田 啓英」

我が家には、花を見ると買いたくなり、花のある期間だけは豆に手入れをするのですが、その後は毎度ほったらかしにする妻と娘がいます。

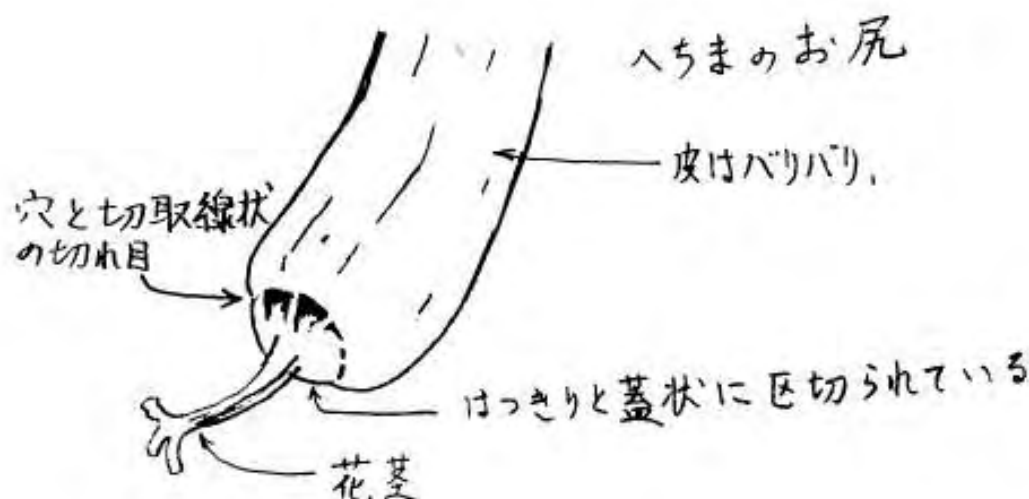
毎度のことですが、美しいだけの園芸植物には興味のない私が最低限の管理をする羽目になります。 その中で何年か水やりと施肥だけを続けた、多分「カニバサボテン」とか「シャコバサボテン」というのでしょうか、10月に株分けしたところ一株が七株に増えてしまいました。 妻の言い分ですと「この花は買った後、短期間だけ咲く種類」なのだそうです、すごい珍種ということになります。

玄関の下駄箱の上に置いてあるのですが、朝日が差し込み、夜は1:00~2:00まで電灯が点いているので、サボテンもサービス残業の過労でノイローゼ状態なのでしょう。

12月2日より暗期のコントロールを始めました。夕方16:00より翌朝10:00までは暗い所に移すつもりです。 どこまで実行出来るか自信がありませんが、目出度く開花しましたら後日報告します。

ヘチマの下端（花のとれた側）にミニサイズのマンホールの蓋のような、リング状の切り取り線のような窪みが出来ました。 これが噂の「種子の自然散布」の下準備ではないかと思い、暇は充分に有るので何カ月か下から見上げ続けて見届けたくも思いましたが世間の目もあるので思い止どまりました。 壊れた昆虫網で、「おしめ状」のものを作りヘチマに履かせました。 これまた結果は後日！ 請う御期待！

時季外れのタンポポを同封します。 外来の2種は多数見られましたが、在来種（多分カンサイタンポポとシロバナタンポポ）は北西からの風が避けられる所、特に光を反射する白っぽいブロック塀の南側などに「勝手な言葉を作ることが許されるなら『日照・温度のニッチ』的な場所」に少数が咲いているようです。



こんなに多くのものを得られるとは思っていなかったので、わたし一人がすごいお土産を買ってきた思いです。

企画、準備

自分達の日常の活動状態、成果を、自分たち以外の不特定な人々に観てもらい、理解し、興味をもってもらうためには、自分達の活動のなにを一番アピールしたいかを企画の時点で確立しておくことが必要だと痛感しました。

あとはそのテーマに沿ってパネルなり、展示物を整えればいいので、最初の指針が定まらなるとまずいことになります。その目でみると、琵琶湖博物館のテーマ「はしかけにはまる」は他にぬきんでていたと思いました。

展示品の中には、生育しなければならぬもの、環境を整えねばならぬものなどあり、展示時期に合わせた調整が必要でした。

準備、制作の時間的制約はある程度がまんしなければならないでしょうが、それを補うものとして、必要人員の確保は重要なことで、チームワークのとれた、いいグループが望まれます。人が多ければいいのではなく、楽しんでやれる人の数のことで、その仕事にのめり込む、いわゆるハマル人を仲間としてどれだけ抱え込めるかが、出来上がりをおおいに左右します。総じてはしかけ・フィールドレポーターの方々はどうなっても立派な素質を持っておられるようで、最初はそれほどでもない方が、次第に持ち前の生地を出してこられ、驚かされていました。それが端的に表れるのがどなたも凝り性になられることです。

この準備、制作の時間は、それぞれみなさんが日常の活動でなにを感じ、なにを観てきたかが正直に表れる、大変おもしろい時間でもあります。言ってみれば、この時間が日常の活動をパネルという平面に集約でき、もっとも楽しめて遣り甲斐のあるうれしい時間でもありました。追い込まれて、もっと時間を！と叫んではいましたが。

展示、会場

多様なブースが集まる中から、参加者は自分の好みを探り出しそれに深く入り込む人もあれば、さらっと見るだけの人もあり、知的雑貨市の感じがあります。その中で、遊びのオブラートに包んで、知的なお土産を差しあげる技が要求され、なにを提供できるかで、おのずから評価されていたのではいでしょうか。また、そのお土産もただ貰うだけでなく、それに自分も手を貸せることによる充足感が、行ってよかった、触れて楽しかったと、参加者に好感をもたれる一番の要因であるように感じました。

その例がミニミニ盆栽であり、木工細工であり、ギタイ・たいけんでした。

一番に目につくものを店頭に置くそれには、動く、音、光、香のできるものなどが効果的で、これは何！？と意表をつくものを置くようにして、見やすい高さの台なども用

意することです。

多くの展示ブースでは夜店の店先状態に、展示物を横一列に並べ、ブースの中にまで誘い込む努力はしてなかったようです。展示ブースに観客を引き込むにはエリ漁法だと近江の漁法に教えられていました。どちら側からの参加者も確実に中に誘いこめるレイアウトであるエリ漁法を考え出した近江の先人に改めて敬服していました。最初につつかえた所が勝負点で、そこから奥へ順番に流れを作るのは展示員の腕で、前面の一行に展示品を並べる夜店では、奥には入り難いし、奥のパネルに近寄れないので詳細を確かめられないので、せっかくの展示も効果半減のところもありました。

良い例

植栽(ミニチュア盆栽)を作り販売

机を□の字形に置き、中に展示・制作指導者が工程ごとに付き、メイン通路の一隅から、時計周りに作業工程が進む、参加者は、自分が描く完成品のイメージに合う材料を指導者からもらい、工程順に副材料を貰う、参加者は最初に貰った土をボウル状に丸め、自分の好みの植物をそれに挿し、次に水苔を載せる。湿りが必要な所には水が用意され、できた盆栽を指導者が誉めながら、すこし手直し。出来上がりを載せる台とポリ袋をもらい、最後の一隅で手を洗って、2～300円のお金を払う。なんのことはない、ネタを追って客が回る回転寿司でした。見事な出来栄えの作品を、メイン通路側に並べて展示、自分で作る楽しみをアピール。作っている人がまた観客にアピールしてくれるので、効果満点です。

自分でなにかを作れることが楽しいのであり、それを持って帰るのに代価を惜しまないものを提供出来るこの会の商法。材料は、山にいけば採集できる植物で、必要なのは、その企画と、労力であり、これぞボランティアの出番で、その効果的な見本をみる思いで、改めて人と自然の会がこれまで培ってきた年月の重みを見せられた思いでした。

展示者の力量を最も効果的に発揮できるのは、参加者が問いかけてきた時でしょう。逆にこちらから最初に単純な疑問、質問をなげかけて反応を見ながら、参加者が興味の対象をどのように捕らえているかを確かめ、その度合いに応じて関心を高め、次第に核心に誘いこむと効果があるようです。

そのおり、参加者に具体的な物を、順番に提示できるかどうかで参加者の反応は大きくわかれ、具体的なものを提示できれば、参加者と同じ物を観ているという共感が生まれます。そうなれば様々な会話が成り立ち次ぎの説明に入りやすく、参加者をひきつけられるようです。また、参加者からこちらの知らなかったことを教えられるのもこの時で、これはまことにありがたく嬉しいことです。この内容によっては、記録することも必要だろうと思いました。

折角持って行った、魚の会の本、カラーで琵琶湖の魚が載ってるのにそれを見せ

ることなく、閉じたまま積み上げ、表題だけで勝負していました。写真のもつインパクトを生かせてなく、あれはレッドカード！（私も終わってから気付きました）。逆に、投網はすごいインパクトあり、隣のお江戸のベーゴマなど目じゃなく、遠くからでも網の躍る様が目に入り注目されて、まさに網で獲物をからめ捕るの図でした。男は投網に、女は機織りにそれぞれ関心を集めて、効果ありました。

中世展の会期中であるのに、展示中の地機を借りられ、来場者にすごいアピールが出来たと喜んでいきます。

事前の打ち合わせでは、機、投網ともに時間を定めて、数回に分けて実技指導しようと考えていたのが、いざ始めると最初はぼつぼつの体験希望であったのが、昼前頃からは間延びの機音を、初体験の女性たちが代わる代わる奏じて、指導の二人は休む暇なし。力はあれど繊細な技を知らぬ男は交代要員となれず、まことに申し訳ない思いでした。

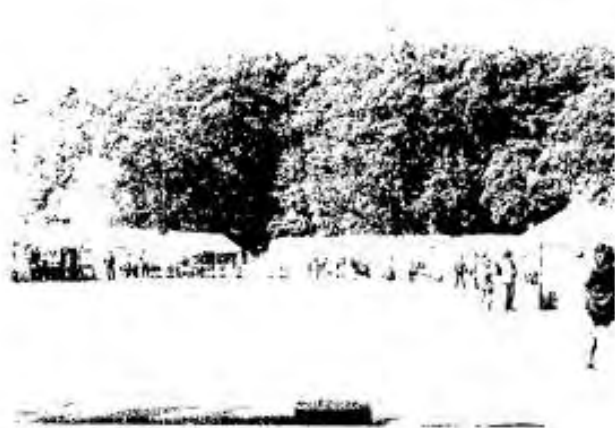
交歓、研修

人の顔がそれぞれ違うように、博物館・展示グループのいずれも各々の個性があり、できればその一つひとつの顔をもっとしっかり確かめたかったのに、十分な時間がとれず残念でした。

日本科学未来館は、活動対象をこれからの日本を背負う若い人にしぼっているようで、ボランティアも若い熱気で活力にあふれ、劇団までもっていることを知らされました。地球の外から日本を見るとより多くのことを感じるのだと、館長毛利さんの意気をみせられた思いです。

ボランティアに関わる人は、研修を受けることは知っていますが、お金を払ってでも…と聞いたのは新知見でした。それかあらぬか、みなさん自分の楽しみとして居られるかたばかりで、決して義務でなさってるのではなく、そのことをライフワークと心得ておられる様子がよくわかりました。

少しの不備はありましたが、人と自然の会のこのボランティアメッセにかける熱意と、これを主催できる蓄積とにあらためて頭のさがる思いでした。



兵庫博、ボランティア、メッセに参加して。

草津市 橋本

11月3日（日）三田市深田公園で開かれたボランティア、メッセにフィールドレポーターの一員として参加しました。

今回はフィールドレポーターの展示用パネルの作成から参加し、色々とアドバイスを受けながら、無事展示できた事を嬉しくおもいます。また一番心配したのは天候でしたが晴天に恵まれ、関係者始め参加した我々も大変喜んだ次第です。

さて当日は風が強く、テント内の風除けビニール張りから始まり、琵琶湖博物館の展示が始まりました。はしがけとフィールドレポーターのパネルを10枚と、中世探検隊の地機の実演及び体験コーナー（麻の木から織物まで）、フィールドレポーターの、へちまクラブよりへちま飴の試食や、種と栽培マニュアルを配布、田んぼの生き物より生きたエビの展示とアンケート調査、魚の会より投網の体験コーナー、以上を設置し終え、他県の展示を見学しましたが琵琶湖博物館の展示内容が一番優れていたとおもいます。パネルの数、活動の豊富さ、この展示により琵琶湖博物館の、はしがけとフィールドレポーターを充分アピール出来たとおもいます。

今回、公園での展示であった為、人を集めにはやはり実演、体験コーナーに人気が集中していたと思います。機織のコーナーでは、お母さんと子供が一諸になって体験している姿が数多く見られたし、興味ある子供は、熱心に説明を聞いて居たようです。また投網のコーナーでも実演する事で人が集まり、人と人とのふれあいが、交流の場を広げたとおもいます。今後もこのような催しに参加する事で、他県との情報交換が期待できると思います。

表 題〔三田市ボランティアメッセに参加して〕

投 稿 日〔021112〕

名 前〔びわ町 梶本さつき〕

☆ シロバナタンポポについて、わたしはまだ見たことがありません。

三田市でのボランティアメッセに参加でき、思い出深いアルバムの1ページができたことに感謝しています。

はしかけ、フィールドレポーターのスタッフのみなさんの、骨惜しみしない取り組み姿勢に感服いたしました。特にお二人の織り姫様は、見学者を引きつける魅力があって大変良かったと思います。

琵琶湖博物館のボランティア組織は、しっかり運営されている実感が改めて感じられました。(ボランティアといえば営利は目的でないはずなのに、他府県ではそれが見受けられるところもありました。)

はしかけ、フィールドレポーターのスタッフのみなさんのご努力のおかげで、寒風を忘れ、心あたたかい思い出の1日をおくらせていただきました。

有り難うございました。



フィールドレポータースタッフからの一言

今年の秋は非常に寒く何処の山々も紅葉が大変綺麗です。この間も東福寺へ紅葉を見に行ってきたが、人、人、人で紅葉に酔うよりも人の波に酔ってしまいました。滋賀県でこのあたりに紅葉の綺麗な所と思い日吉神社へ寄った所、正面入り口の紅葉が真っ赤に色づき、その美しさに見とれていました。

さて今年を振り返って見ますと一、二月は琵琶湖博物館の近くでは殆んど雪が降らず、生活する面では大変喜ばしい出来事でした。また三月に入っても暖かく、桜の花が十日も早く咲くという異状気象が続き、フィールドレポーターのテーマ（たんぼぼ調査）にも影響があった様に思います。一般の生活に置いては暖かいことは嬉しい事ですが、やはり四季が壊れることは悲しいことです。雪の降るときには、雪が降り、桜は四月に入って咲く事が日本の四季であり、近江の四季なのです。このような環境が変えられて行く事は大きな視野で見ると大変恐ろしい事だと思います。

最近、地球温暖化が話題になっています。北極の氷が大量に解け出したり、ある島では水位が増して沈没の危機に見舞われて居るそうです。その原因は先進国が大量の二酸化炭素やフロンを放出し、オゾン層を破壊する事で温暖化が促進されていると言われてます。我々も温暖化防止に少しでも協力したいですね。

我々の出来る事は、まず身近な所で自動車のアイドリング防止から始めましょう。

さてフィールドレポーターでは第1回（タンボボ調査）第2回（ため池を調べよう）、第3回（アオマツムシは鳴いていませんか）の調査が終り多数の調査表を送って頂き有難うございました。私個人としての感想は、アオマツムシが一番難しい調査でした。

テープの鳴き声を聞きながら、目の前で鳴いている姿を確認出来ない音がゆさ、皆さんは如何でしたか。しかしフィールドレポーターの森さんが、アオマツムシの実物写真を添付して下さいたため、アオマツムシを知る事ができ、大変勉強に成りました。

今年度の掲示板も今回で第5号となり、これまで多数の投稿有難う御座いました。掲示板は気楽な気持ちで、レポーター同士がお話する雰囲気、ちょっと難しいことは学芸員さんに質問、と言った感覚で皆さんの投稿をお待ちしています。

最後になりましたがフィールドレポーターの皆さん、良いお年をお迎えください。

2002年12月21日

担当は橋本でした

フィールドレポーター 掲 示 板



2002 年度 第 6 号 通巻第 23 号 (1 月)

ーシロバナタンポポ特集号ー

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

早いもので、平成 15 年の未年も 1 ヶ月を終えようとしています。1 年の計は元旦にありなどといいますが、皆さんは今年の目標は立てられましたでしょうか。今年もフィールドレポーターの活動を、楽しく進めてゆきたいと思いますので、どうかよろしくをお願いします。

ところで、今年度の第 1 回目のフィールドレポーター調査でタンポポの調査を行いました。その際シロバナタンポポについては、思ったよりも割とあちこちで見られるにもかかわらず、見たことのない人や気づいていない人がけっこうおられることなどが感じられました。また、ふつうタンポポは黄色いものというイメージがある中で、白い花を咲かせるタンポポというのは、ちょっと興味を引く対象ではないかということなどから、フィールドレポーター調査とは別にシロバナタンポポについて皆さんから投稿していただき、今号をシロバナタンポポ特集号として発行することになりました。今回の投稿の中にも、周りは白く真ん中が黄色いものがあることや、冬になっても花が咲いているものがあることなど、シロバナタンポポには興味深い事象がたくさんあることがわかります。これからも観察を続けていくと、さらにおもしろいことがわかってくるかもしれませんね。(桑原)



フィールドレポーター 2・3 月の予定をお知らせします。

・ 2 月 1 日(土)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	14:00 ～
・ 2 月 15 日(土)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	14:00 ～
・ 3 月 8 日(土)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	14:00 ～
・ 3 月 23 日(日)	定例会：	於：琵琶湖博物館交流室	13:00 ～

*予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

学芸員紹介シリーズ (5)

亀田佳代子さん 理学博士 (鳥類学)

被害者：亀田さん レポーター (兼 加害者)：加固啓英

彦根市 加固 啓英



12月26日、亀田さんにお話をうかがいに、約20cmの車の上の雪を払って琵琶湖博物館へ向かいました。(彦根市は吹雪、近江八幡以南は曇り～薄日)

レディーの元へ動物の糞を持ち込んだり、小鳥の死骸を届けたりするのはセクシャルハラスメント兼ストーカー行為の「併合罪」でしょうか。だが、シートンの書籍にはストーキングやフリーズの手口や定義を解説してありますので、許される場合もあるのでしょうか。

これまでに、亀田さんに調査して頂いた彦根市西南の荒神山の動物の糞より、ここに「はぐれ猿」が現れたこと、「テン」が棲んでいることがわかりました。これらのことは、「多賀の自然と文化の館 (あけぼの博物館)」にも連絡してあります。

* お話しを伺う趣旨を忘れ、私の興味が先行して話しが迷走しますがお許しください。

高校時代は藤沢におられたとのこと。藤沢といえば、鎌倉海岸で人の持つ食べ物を奪うトビがいるという話がありますが、亀田さんのお友達の中には、体育の時間にソックスをトビにさらわれた人もいたとのこと。そういえば、ササゴイがルアーフィッシングをするという話が話題になったことがありましたが、その技は群や子孫に伝承されているのか聞いてみました。亀田さんのお話では、「まねをすることはあるかもしれないが、伝承されているかどうかはわからない。」とのことでした。(※どなたかご存じの方が居られましたら教えて下さい。)

大学は、修士課程まで茨城県の筑波大学、博士課程は京都大学・生態学研究

センターに所属していたとのことで、最初から「鳥類学一直線」ではなく「生物全般の生態」に興味があり、『たまたま（本人の言）キャンパス内をフィールドとし、営巣するキジバトを調査し』学位論文とした、とのこと。

調査には、朝の5時ごろから樹上に上り巣の雛を手にとって調べたそうです。（素人考えですと、営巣開始から雛の巣立ちまでは出来る限り巣に近よらないように努めるのですが、流石は専門家、雛が孵ってからならば、短時間であれば手にとっても親鳥が巣を放棄することはまずないそうです。もちろんできるだけ注意をして扱うそうです。）

マレーシアの熱帯雨林で、一斉開花期の鳥による種子散布についても調査されたそうです。（これ又素人考えです。熱帯雨林では植物の種類はやたらに多く、同種間の平均距離はやたらに遠いことが知られていますが、これが成り立つには「野鳥の宅配便システム」も組み込まれていそうに思われます。）

滋賀県との縁は、当時大津湖岸（下坂本）にあった京都大学生態学研究センター（旧臨湖実験所）と学生時代のびわこバレーのスキー場でのアルバイト、スキーが好きなことだそうです。現在はカワウによる水陸間の物質循環やそれ

ぞれの生態系に与える影響について研究をされているそうで、＊現在、琵琶湖水系の外来魚を選択的に捕食する習性の新種、ピワコカワウを固定しているそうです。

（＊以降は嘘で～す。私のフィクションで～す。）

（私も犬の散歩の序でに鳥の観察を楽しんでいますので、色々と教えて頂き楽しい時間を過ごしました。帰りは晴、北上するにつれて曇り、彦根市に近づくと、又々横殴りの雪でした。）



鶉図(宮本武蔵)

表 題「わが家をめぐる昆虫」

投 稿 日「020911」

名 前「彦根市 加藤 啓英」

このところ、わが家は昆虫に包圍され、侵入され続けています。

- * サンプルA（9月1日）及びB（9月2日）、2夜連続で居間に甲虫が侵入。
- * サンプルC（9月9日）、玄関のコンクリートの床に「虫の息」状態のムシを発見。
これにレタス、薄切りの南瓜、かいわれ大根を与えたところ、予想に反してムサボリ食ったので、生き延びると思ったのですが、数時間後に安らかに息を引き取りました。
片方の触覚が切れており哀れな姿で、雌の為鳴き声も聞けなかったのですが、アオマツムシではないかと思います。これがアオマツムシなら私の最初のアンケートとなりますので、一応アンケート用紙を同封します。
- * 写真D（9月9日）、居間に侵入した雌コオロギを捕まえました。（始めは、いやに鈍臭いゴキブリだと思ったのですが。） 湿った土、腐植質、石（礫）、枯れ葉をいれたプラスチック容器に置いてあります。レタス、薄切りの南瓜、かいわれ大根を与えましたが良く食べます。室内の網戸の内側でしたから雄（配偶者）には巡り合っていないとは思いますが、一応産卵出来る状態にして飼育します。
- ** サンプルA、B、Cと写真Dとを同封しますので、済みませんが検索・確認をお願いします。

休耕田（稲を作っていた、壊れたトロ箱）にセリを植えて置いたところ、美しい配色のキアゲハの幼虫が4頭、まさに蚕食と言いたい食いっぷりです。

- 質問 1. 9月10日現在、キアゲハの幼虫は、約6 cm ですが、これは季節的には遅すぎないですか。
- 質問 2. アゲハとキアゲハの幼虫ではかなり形が異なり、頭でっかちのアゲハ（現物を見知っているのはアゲハとキアゲハだけ、他は図鑑による。）・クロアゲハ・ナガサキアゲハは良く似ていますが、これは系統の遠近を反映しているのでしょうか。
- 質問 3. 今やポリオの心配は無くなったと思いますが、ゴキブリは未だ相当に恐れるべき昆虫なのでしょうか。
- 質問 4. ケムシと言うと誰でも刺されることを連想するようですが、イラガのケムシ等の強烈な痛痒さの記憶が焼き付いているのは私も同じです。私は、食草が不足しないように野生種のスミレのツマグロヒョウモンの幼虫を園芸品種のニオイスミレに移したり、キアゲハの幼虫を、セリの葉の食い残りの多い場所へ移したりを素手でしていますが、刺される様子はありません。
刺される恐れのあるケムシの見分け方や種別を教えてください。

質問 5. 庭いじりをしていると、カナブンをそのまま縮小したような物凄く小さな甲虫を見かけます。小さな甲虫は大きな甲虫を縮小しただけにも思われ、よく実感出来ないフラクタル理論によりますと、一部を拡大して行けばドンドン相似図形が現れるそうですが、最小単位の細胞のサイズは種によってそれほど大きな差はないはずです。つまり量的に縮小すると数的には矛盾が生じるはずで、「煉瓦の家」をそっくり縮小した「犬小屋」を作るには「縮小サイズの煉瓦」が必要だと言うわけです。体の作りはなんとかあるとしても、感覚細胞の数が減ったら何かと不都合ではないでしょうか。

たとえば極端に画素数の少ないデジタル カメラのようになってしまわないのでしょうか。

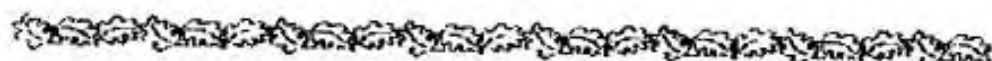


表 題 アナグマについて良い駆除の方法があれば教えてください。】

投稿日【2002-10-25】お名前【 東京都 江 昭 】

当地はご承知の様に霊山の麓の山村でイノシシ、シカ、サル等による農作物の被害があり、これにも困っているのですが最近アナグマが増殖し、作物を栽培している畑に穴をあけひっ繰り返したり、苗床を荒らしたり、夏はトマトの収穫まえにやられます。トマト等は周囲に網で囲い土との際に石などを置いて重石をしていますが大変な作業です。

(注)イノシシ・・・薯蓣、竹の子等

シカ・・・野菜、稲の新葉

サル・・・南瓜、薯、白菜、玉葱、柿、トマト、トウモロコシ等なんでも被害あり。

(注)アナグマ・・・イタチ科のは乳類、頭、胴長、尾20センチ位

背は褐色、腹は黒い、タヌキに似ているが足が短い。

シロバナタンポポについて

いつもお世話になりありがとうございます。

仕事で外回りのついでに、あちこち見て歩いていますが、まだ見たことがありません。愛知川以北、愛東町～西浅井町のエリアですが、探しかたが足りないのでしょうか。

前回の98年調査で白っぽいタンポポを報告しましたが、当時のとりまとめ結果を見るとシロバナタンポポとなっていたようです。今回も、その場所と近辺を探したのですが、叢生が変わっていました。

シロバナタンポポ

今から10年くらい前、家の近くにある水田の畦にシロバナタンポポが一株ありました。

花も葉も軸もひと極大きく、立派な株でした。シロバナタンポポが仲間を増やすように増えていかないものかと、当時は観ていたのを思い出します。

タンポポのすぐ横が人の歩く道でしたので、踏まれることはまずなかったように思います。ただ咲いていたその頃は、草を刈ると言えは、鎌でした。近年は草刈機です。

以後、私はシロバナタンポポを見ることがありません。

伊東 貴美子 さん

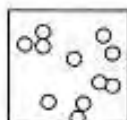
表 題 【 私の出会ったシロバナタンポポ 】

投稿日 【20021126】

名 前 【 中主町 K . Y 】

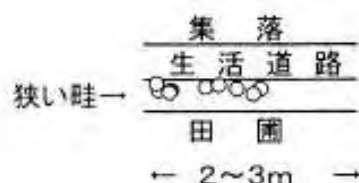
いつ	どこで	どこに	分布状態	開花の進み具合	花のようす	他のタンポポとの競合や混在
2002年 4月下旬	5236-5032 中主町 比留田	田圃が広がる農道脇に。	農道に沿って 数株(2~4) づつ寄り添って 次の花までは 数m離れて。	ほぼ咲き終わり、 どうにかシロバナ とわかるものや、 ワタ毛、さらには 旅立ちのものま で。	まっ白 気まぐれな風に 取り残されたワタ 毛が、泣きべそを かいているようで す。	他のタンポポとの競合や混在 近くにキバナは、 見あたりません。

2002年 4月下旬	5236-5032 中主町 比留田	農道から 田圃に降り るスロープ に。	2mx2mに十数 株開花。2・3株 づつ寄り添って	開花のとき お日様の恵みに、 しずかに答えて いました。	まっ白 それぞれの花の 花数(はなびら) に、多い少ないが あるように思いま した。	近くにキバナは、 見あたりません。
---------------	-------------------------	------------------------------	---------------------------------	---	---	----------------------



2002年 4月下旬	5236-5022 中主町 比留田	車道に沿 った、農家 の前庭に。 (作物のな い広場)	一株づつ、付か ず離れず、ポツ ポツと。	開花のとき。	ほんの少し黄色 っぽいうちに、思 いました。	キバナ(帰化種) 5・6株ぐらい シロバナ2株 何れも、競って 可憐に。
---------------	-------------------------	---	----------------------------	--------	------------------------------	--

2002年 4月下旬	5236-5001 中主町 八夫	集落と隣り 合わせの 田圃の狭 い畦に。	狭い畦に、3・4 株混みあって、 隣の花まで数十 センチ離れて。 小さな窓から 3・4人の子供 達が、身を乗り 出して、手を 振っているよう	ほぼ咲き終わり、 どうにかシロバナ とわかるものや、 ワタ毛や旅立ち のものまで。 日陰に一株、花を つけていた。	まっ白 親離れ子離れが 上手でないのか、 家族の絆が強い のか、ワタ毛が お母さん株の膝 に、まとわり付く ように。 まっ白	記憶が定かで ありません。
---------------	------------------------	-------------------------------	--	---	--	------------------



* ハナに目を奪われたのか、総ほうは思い出せません。
* 以前のようなすは、どれもわかりません。

表 題【 シロバナタンポポ 】

投稿日【 14年12月1日 】 お名前【 マキノ 市町村 】
021201 中川徳司

今年(14年)4月に高島町から安曇川町の比良山系沿いの県道に沿って調べましたが
高島町伊黒、武曾横山、安曇川町土手、佐賀、仁和寺、陵、左場、南古賀、中野、長尾まで
白いタンポポと黄色いタンポポ(在来種、外来種)が混在していました。
又安曇川町四津川の湖岸にもシロバナタンポポの群生がありました。
新旭町の湖岸にも混在が見られましたが、今津町、マキノ町は資料を紛失したので
はつきり覚えていません。

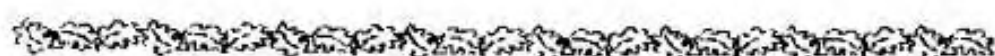


表 題【 シロバナタンポポについて 】

投稿日【 02.12.05 】 お名前【 草津 市町村 】
小林光子

昭和30年代(甲賀郡甲南町在住)タンポポといえばシロバナタンポポばかりでした。茎も葉も花も大ぶりでした。しっかりと生えて年折って遊ぶのに適していたように思います。農道沿いの土手や道端にしっかりと根を張っていたものです。

昭和45年に草津市に移り住みました。¹⁹⁸⁰年代後半迄、国道1号線の中間帯の雑草の中や、1号線沿いの空地にシロバナタンポポは咲いていました。その頃迄シロ一色の花だったのです。

この頃、シロの中に黄色の混じった細い花じょう(?)のシロバナタンポポはありです。真っ白なシロバナは見かけなくなりました。茎も葉もキャパでキバチと一緒です。あの大きくて太くて立派なシロバナタンポポは6年程前迄ある新草津川予定地用の空地には咲いていたのですか。今は川や道路となって消えてしまいました。キバナタンポポはこの寒さの中でも咲き続けています。

表 題【 シロバナタンポポについて 】

投稿日【 021201 】 お名前【 西野重 市町村 大津市 】

今年春に沢山のシロバナタンポポを見ていた場所が最近、
又、シロバナタンポポが咲いているのを見つけました。

甲西町夏見、甲賀町田原野等々です。他にセイウタンポポ
は咲いていましたが、カンサイタンポポ等の日本産のタンポポは
みられませんでした。

表 題【 シロバナタンポポについて 】

投稿日【 021202 】 お名前【 西野重 市町村 大津市 】

私は昭和25年産んで大津市堂谷に生まれました。小さい頃は
附近はタンポポといえはほとんど黄色いタンポポでした。でも
たまにシロバナタンポポもありました。とてもめずらしいものでした。

又、その頃のシロバナタンポポは花の中心までしゅわりと白でした。
でも、最近甲賀郡方面で見ているシロバナタンポポは中心が
ほんのりと黄色味があります。以前と違う種類なのでは
しょうか。

しろばなたんぽぽについて

もう季節はづれだろうと思っていたら、けさ通勤途上の道の脇に咲いていました。送る今になるとしおれてますが、今朝は咲いていました。一株だけ。

(いつもは気にもしてないからわかんなかったけどよく見ますね。よその県にいったときでも。以前黄色いタンポポがいっぱいだったのに、なぜかしろばなたんぽぽばかりになってあれっ？ってかんで。でも記録して観察したわけではないので、県外のことはまたの機会にします。)

とにかく、今朝咲いていたのを送ります。

5235-47-17 メッシュ番号

草津市東草津砂原町です。10月22日朝

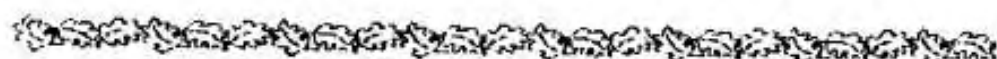


表 題 【 シロバナタンポポについて

】

投稿日 【 021031 】 お名前 【 森小夜子 市町村

八日市市

】

前回報告済みかもしれませんが・・・

1970～72年頃、近江八幡市内で白いタンポポを見つけ驚いたところ、近江八幡市舟木町の友達は「タンポポで白い花や！」と行ったことを覚えています。

当時、犬上郡多賀町では白花は見なかったと思います。

今年、報告は出来ませんでしたが、八日市市内を調査中、黄色はまだロゼット状でこれから咲こうかという頃には、すでに綿毛が出来て背が伸びていました（空き地および車の通れる広い農道の法面）。黄色よりも早く開花するようです。

八日市に住み始めた20年前は、在来しか目にしませんでした、そのうちセイヨウが目につき始め、ごく最近（2～3年？）シロバナも目にするようになりました。

我が家の宅地および100にほど離れた家庭菜園はセイヨウばかりです。白はまだありません。

表 題【 シロバナタンポポ 〓

投稿日【 2002.10.27 】 お名前【 栗東 市町村 川北 浩史 〓

8年前 下戸山にこしてきて 初めて実物を見て感ぜきしました。下戸山で見ただけの数株
でした。それぞれジャリ道のはしの土が出た部分に一株 といった感じでして、2回移植
を試み 2回目成功。今年で 3回目の花が庭で さき出し、桜の木の下で来年も
花がさくのを楽しみにしています。でし今年(去年も)は、下戸山では我が家以外では見かけません
でされは 株を増やしたい、と思っていすが、どうしたら増やせるのでしょうか？

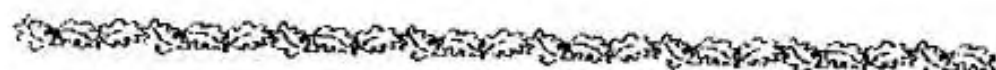


表 題【 シロバナタンポポ 〓

投稿日【 02/1028 】 お名前【 安土 市町村 中 村 〓

秋には見る事ができない 白バナタンポポですか。夕〜夕自頃、JRの
線路つたいに、丸々と肥えたシロバナタンポポを目にします。一度サ
ラカにするといって、根っこを 汲み 採ってあげようのを見た事が
あり とうするんですかと問うてみると料理教室で サラカを
食へるとの事でした。トレフシクを作り葉を食へるとの事で
アツカ強いので大量には食へら ぬやいと思います。京都のほうでは
農薬のかかつていないタンポポは貴重品扱いで、あつたら採って来
と頼まれたと言う話も聞きました。根は干してタンポポコーギーなど
にできるそうです。寒い冬が過ぎると春先にいつせいに芽吹くタンポ
ポは命がけがあるんですね。

シロバナタンポポについて

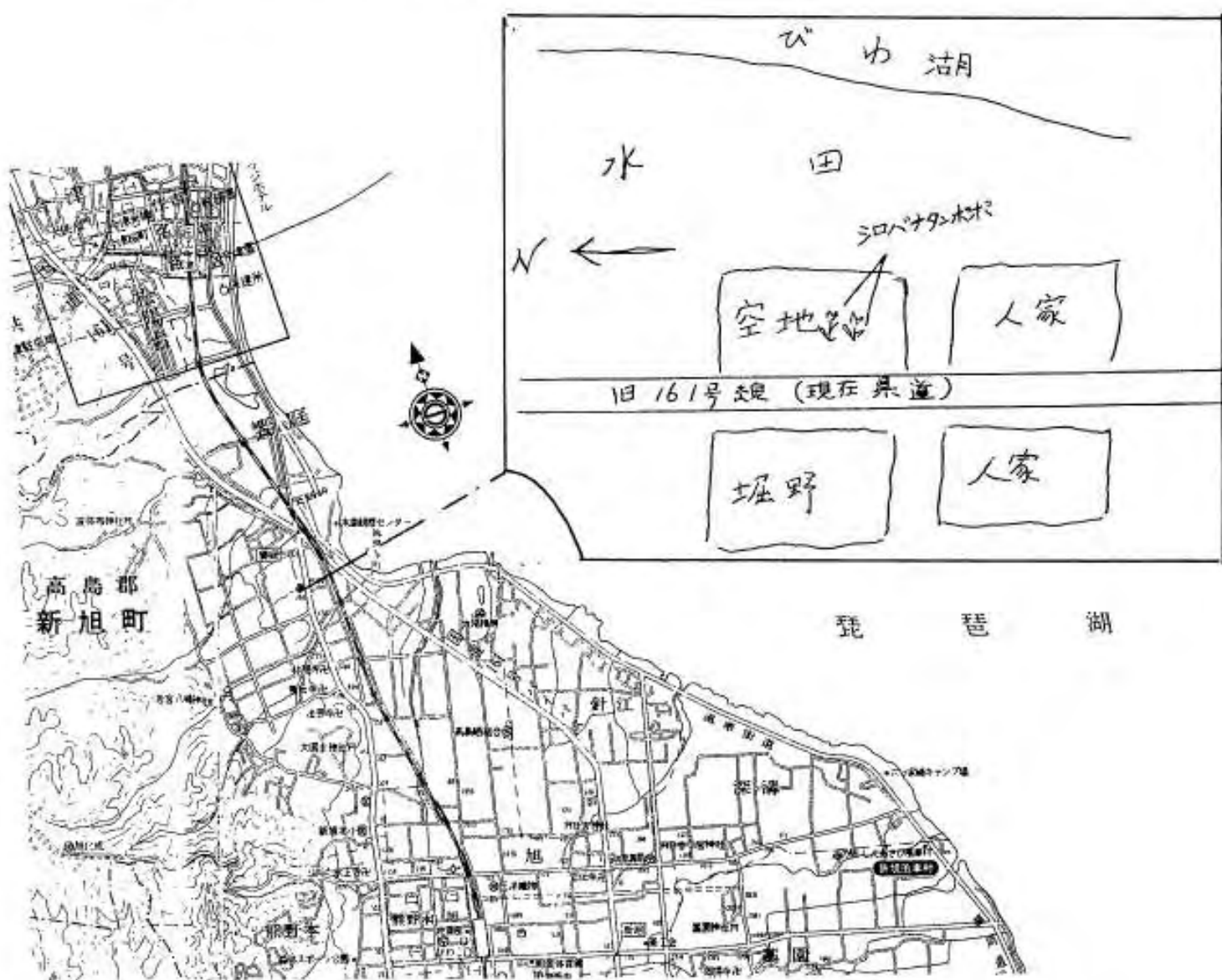
新旭町 堀野 善博

シロバナタンポポが湖南・湖東方面に多いが湖北には殆んど報告がないとのこと。

湖西地域、新旭町の小生宅の前で、今年の四月中旬にシロバナタンポポを観察しました。

2～3年前から毎年同じ場所で、他のタンポポの中で2株だけ開花していました。

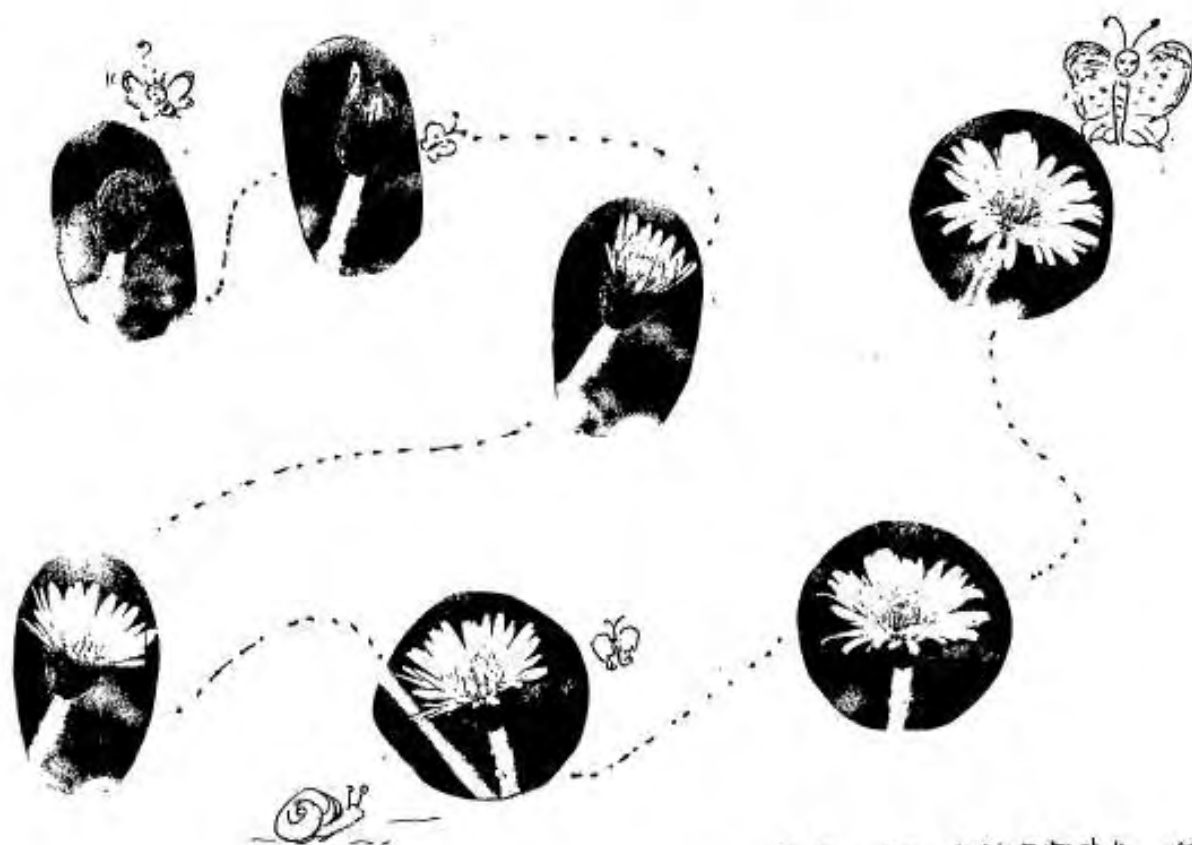
平成15年も多分同じ場所で開花すると思うので、もっと詳しく観察し、写真撮影したいと考えています。



シロバナタンポポは帰化種と混じって咲いていても見劣りしないだけの丈の大きさがあったことや、早く綿毛になっていたことなどが思い出されます。
他には何も思い出せないため、以前採集した守山市下之郷町の道端へ行って見たところ、シロバナが又咲いていました。そこは採集後草刈りされてしまい、すぐに見えなくなった所ですが、田植えが始まるのでは方がないなと思っていました。それがこの時期に又咲いていたのでびっくりしました。

次に帰化種に混じって咲いていたシロバナはどうなったか、以前見た守山五丁目の目田川沿いと三宅町の道路沿いへ行きました。そこはシロバナも帰化種も見られず、秋の野草が生い茂っていました。その道路からちょっと離れた駐車場の柵沿いで、以前帰化種だけ咲いていた所ですが、丈の高い野草がなく、今も帰化種がぽつりぽつりと咲いていました。

そこで草刈りされたりして日当たりのいい所では、この時期でもタンポポが咲くのかと思いましたが、以前在来種（ヒロハ、カンサイ）を採集した所へ行って見ましたが会えませんでした。たった一ヶ所だけではわかりませんが、シロバナは帰化種に似て条件さえよければ、この時期にも咲き出すのでしょうか。それとこの地味は早々と刈られたので再び咲いたのでしょうか。



写真は「タンポポ観察事典」偕成社より

シロバナタンポポについてのたくさんの情報、有難うございました。ちょっと整理すると、いつから滋賀県にあったのか、いつ広がったのか、キバナっぽいシロバナタンポポはなにか、というような問題があるようです。

1)いつから滋賀県にあったのか

近江八幡市では1970年ころにシロバナが多かった(森さん)や、甲南町で昭和30年代にシロバナが多かった(小林さん)、小さいころに大津市にシロバナがあった(西野さん)という情報には驚きました。一般的には、1970年ころに滋賀県の湖東平野部で点在していた、というように考えていました。私が大阪府下で始めて見たのも、そのころです。シロバナは九州あたりから広がったようで、九州ではシロバナしかない地域があると聞いています。自然に広がっていったというよりも、滋賀県では人が運んだのではないかと思うのですが、帰化種が広がるよりも前に、植えられた(?)シロバナが周囲に広がって、シロバナばかりの地域がすでにできていたのではないかと思います。

2)いつ広がったのか

普通に見られる程度に広がったのは、やはりそれほど昔のことではなく、1970年以後のことではないでしょうか。1973年の堀田満さんの調査と、1993年の琵琶湖博物館準備室の調査の間にはシロバナタンポポの情報はありません。1993年には県内でかなり広く見られるようになっていましたので、この20年間にゆっくりと県内に広がっていったということだろうと思います。ただシロバナタンポポの場合には、結構珍しい種類として、人が移植をすることがあるようです。短期間に広い地域に広がっていったことには、そういう理由があるかもしれません。点からゆっくりと広がっていくよりも、遠く離れた場所に人が新しい点を作るほうがずっと早く広がりますから。

3)キイロっぽいシロバナタンポポについて

シロバナタンポポについてはよくわからないことがいくつかあります。というよりもタンポポという植物自体が、進化の途上にあって、大きく変化をしている最中だという人もいるぐらいです。

シロバナタンポポでわかっていることは、在来種の雑種であって、すべてのシロバナタンポポはクローンであり、植物としての性質は帰化種に近い、ということです。シロバナタンポポも帰化種と同じで、花粉をもらわずに種子を作る(単為生殖)ことをします。ところがクローン起源であれば性質は同じはずであるのに、確かに真っ白なシロバナと中心部がややキイロっぽいシロバナがあるようです。こうなるとシロバナタンポポがさらに交雑しているのではないかと考えざるを得なくなってしまいます。

実は在来種と帰化種とはまったく別のものであると考えられていたのですが、ほんの数年前に雑種を作っていることがわかりました。雑種はほぼ帰化種に近い形をしているので、「タンポポ調査」そのものの性質は変わらないようですが、都市部ではほとんどが雑種になっているといわれるようになってきています。こうなるとシロバナタンポポも雑種を作っている(ほかのタンポポの花粉をもらって、種子を作っている?)と考えたほうがいいのかもかもしれません。このあたりは、このあたりは専門家の研究の結果を知りたいところです。

4)冬のシロバナタンポポ

報告にも数件ありましたが、10月(土肥さん)、11月(高田さん)、がシロバナを見ておられます。私も11月ごろに見ており、またフィールドレポーターの方からの質問もありました。咲いているんですね。こうなると何でも雑種のせいにしてしまわないと仕方がないですね。一度タンポポ研究の専門家に聞いてみようと思っています。

フィールドレーポータースタッフからの一言

正月太りも解消出来ず、風邪気味の毎日です。近頃インフルエンザが猛威をふるっています、外出から帰ったら、うがい&手洗いとバランスの良い食事で、免疫力を高めましょう。

本年も引き続きイベントが多く、三月に行われるシンポジウム「使える琵琶湖博物館をめざして」の参加に向けて、スタッフ一同でいろいろと準備や、年期末迄に各種調査のまとめをしなくてはならない時期となりました。日程的に内容が盛りだくさんなのにどこから手を付ければよいのやら、もっとスタッフの人数が増えればなあと思っています。

1月19日には、伊吹山文化資料館へ見学の下見会が行われ、地元の人達のボランティア活動が大変盛んなようだったのが良かったです、本番で交流出来るといいですね。

来期もたんぼぼや、アオマツムシの調査が行われる事になるかもしれません。どんな調査をしようか募集中です、身のまわりで興味をしめされた内容があればお寄せ下さい。皆様のご協力により、滋賀県のたくさんの調査記録が後世に残される事になります、益々忙しくなりそうですが・・・、スタッフならではの楽しみも増えるわけです。

今のところ懇親会の予定もたっていませんが、決まりましたらお知らせします。これからも博物館の催しにどんどん参加して下さい。



フィールドレポーター

掲 示 板



2002 年度第 7 号通巻 24 号(3 月)

フィールドレポーター担当、桑原@琵琶湖博物館です。

平成 14 年度もいよいよ終わろうとしています。1 年間フィールドレポーターの活動に参加していただき、大変ありがとうございました。楽しんでいただけましたでしょうか。今年度は、先日琵琶湖博物館で開催された研究発表会「使える琵琶湖博物館を目指して」や、三田の兵庫県立人と自然の博物館で開催された「ボランティアメッセ」など、多くのイベントに参加してきました。また、五箇荘町で町内の多くの皆さんと共同して開催した「へちま交流会」など、自主的なイベントや活動なども多数開催してきました。これによって、琵琶湖博物館フィールドレポーターの活動も、対外的に広がって行けたものと思っています。このことは、スタッフの皆さんを中心にフィールドレポーターに参加していただいている皆さんのご協力のたまものと、感謝しています。

ところで、現在フィールドレポーターに参加していただいている皆さんは、136 名に上ります。先日少し早いですが、年度末アンケートをお願いしました。ぼちぼちとお返事が戻ってきております。それを見させていただき、いろんな考えをお持ちの方がおられるのだなということを痛感しています。これからも、さらに多くのいろんな方々に参加していただいて、フィールドレポーターの活動の幅を広げてゆきたいと思いますので、よろしくお願いします。

さて、今号の掲示板では、1 月 18 日(土)にスタッフの皆さんで実施した伊吹山資料館見学会下見会の内容について紹介しています。8 月には、伊吹山資料館のボランティアの皆さんとの交流会を予定しておりますで、その予習として読んでいただけると良いのではないかと思います。

来年度もどうぞよろしくお願いいたします。

(桑原)

////////////////////////////////////
フィールドレポーター4月の予定をお知らせします。

- ・4 月 5 日(土) プロジェクトチーム発足会 於:琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・4 月 12 日(土) 定例会 於:琵琶湖博物館交流室 14:00～
- ・4 月 20 日(日) 定例会(交流会準備) 於:琵琶湖博物館交流室 13:00～
- ・4 月 27 日(日) 交流会 於:琵琶湖博物館交流室 13:00～

* 予定は変更になる場合がありますのでご了承ください。

「“古墳と城跡”はいつも私の研究のベース」 用田政晴さん(考古学)

志賀町 尾形 勇



用田さんに我々フィールドレポーターが初めて面識得たのは去る一月十八日に氏のお世話で伊吹山文化資料館と守護大名京極氏ゆかりの館跡と、その菩提寺を下見見学した時からでした。今回の申し出も快く受けていただき、三月十一日(火)打合

せ通り館内の研究室で、ご専門の考古学についてお話を伺いました。

インタビューである私として“考古学”とやら大変むづかしい専門語にハタと困り果て、何をどう質問申し上げて行けば良いのやら迷ってしまい、まよ、何でも古代の事に関するものを聞けばよいのだと早飲みこみで、開ロー番

「人の死、古代どのような葬り方をしてきたのか、またそれとあの巨大な古墳との関連はどう繋がっていると観ればよいのでしょうか」との愚かな質問

氏は、私の言い分を察しられて.....人の死とは少し観点は離れてしまいますがとの前置きで次のように話して頂いた。

(聞き方の私が後で整理して見てお話の内容は下記の三つのカテゴリーから成り立っているようでした)以下順序立てて、行きますと

先ず、一番目＝考古学というものについて、二番目＝古墳とは何か、三番目＝ご自身の研究課題とその歩み。

紙数の関係で全部を載せられませんが、大筋の所は下記の様でした。

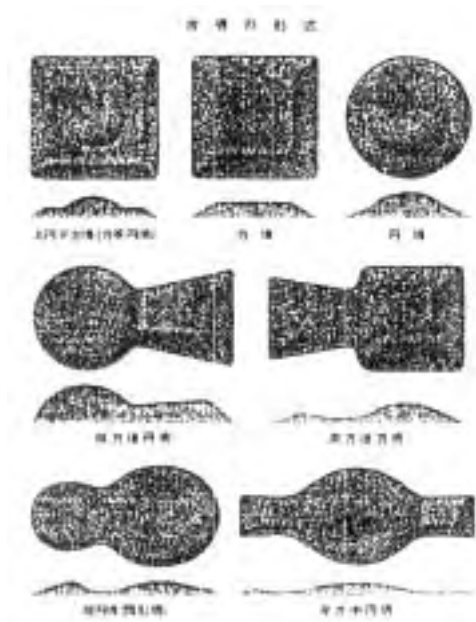
一番目＝考古学とは、歴史学であり、その方法論的区分の一つである。

歴史学は ①考古学(もの=物でもって語る歴史:時代が古ければ古いほど得意)

②文献史学...(文字によって語る歴史)

③民俗学.....(風俗、習慣 時に民具が語る歴史)

二番目＝古墳とは、国家というものが成立する前夜に、集団関係・社会関係



を極度に象徴化したもので、時代を画するほどの意義がそこに含まれている重要な歴史資料である。

1. 日本列島(北海道と沖縄を除く)の諸集団が、強大な中枢勢力(王権?)のもとに結集した一つの現象で、前方後円墳を頂点に前方後方墳、円墳、方墳、が基本である(まれに、双円墳、双方中円墳もある)。
2. 中央(中枢勢力)の格付けにより墳形が決まり、勢力の大きさによる規模との二重原理がそこにある。

三番目:用田さんの研究課題とその

経過

1. 古墳と城跡の二点は今なお研究のベースである。

大学の卒論は“前期古墳の副葬品配置”

修論は“前方後円墳の成立”をまとめ、

一方で中世の山城を中心とする研究もベースの一つである。

何故なら、古墳も城跡も、野山を歩くだけでそれと判るからだそうです。発掘しなくてもいい遺跡、わかる遺跡で、その研究テーマはまだまだあるそうです。

2. これまでに琵琶湖博物館に関連して、調査・研究されたことは、

イ. 丸子船をはじめとする船と湖上交通史

ロ. 湖の水位の変遷と湖底遺跡を行ってこられた。

他にも

ハ. 西アジアの発掘と日本との比較文化研究、弥生土器の

編年、古代寺院と瓦、製鉄、製塩、などにも興味があり、

また、東アジア地域の遺跡調査にも出かけて行き、これまで、中国、台湾、韓国、ベトナム、カンボジア、インド、の都城、城跡、寺院を訪ね歩かれている。



以上が氏のお話しのあらましですが、御仁はこの近江における古代からの人類文化の変遷を広角度から調査・研究されて来られた貫重且つ優れた学見を保持しておられる今回のお話も私だけが聞くのは甚だもったいなく、まこと幸運なことでした。なお今後にかかる機会をお願いして、この続きや渡来人の歴史なども合わせてお聞きしたいものと願っております。用田さんどうも有難うございました。

わが家をめぐる昆虫 (2002 年度第 6 号 P・4, 5 加固さんより)

質問 1. 9/10 日現在、キアゲハの幼虫は約 6cm ですが、これは季節的には遅すぎないか。

→福田甲夫ほか(1982)によりますと、飼育時の幼虫期は春から夏でも 1～3 か月ぐらいの幅があり一定しないそうです。また、野外での秋期の観察では 9 月に終齢であった個体が 11 月に入って蛹化したことがあるので全幼虫期は 4 ケ月ほどと推定されるようです。本種の幼虫期の長さやその変異、これにおよぼす因子についてほとんどわかっていません。

質問 2. アゲハとキアゲハの幼虫とではかなり形が異なり、頭でっかちのアゲハ(現物を見知っているのはアゲハとキアゲハだけ、他は図鑑による)・クロアゲハ・ナガサキアゲハは良く似ていますが、これは系統の遠近を反映しているのでしょうか。

→おっしゃる通り、幼虫の形態は系統関係を反映して似てきます。

質問 3. 今やポリオの心配はなくなったと思いますが、ゴキブリは未だ相当に恐れるべき昆虫なののでしょうか。

→ご質問の趣旨ですと、病気に関してゴキブリは恐れるべき昆虫かどうかとお聞きになられているのだと思います。「ゴキブリ大全」という本の中では、ゴキブリによって知らず知らずのうちに運ばれ、人間などの脊椎動物に伝染する可能性のある約 40 種の病原体をあげています。その中にはらい病、線ペスト、肺炎・食中毒、サルモネラ、腸チフスといった大物も名を連ねています。実験室での研究もゴキブリがさまざまなウイルスを獲得、維持、排出し、ポリオや感染性肝炎といった命にかかわる病気を伝達している容疑がかなり濃いことを明らかにしています。

たしかにゴキブリは病気を媒介しますが、現在の日本において病気に関してはそれほど恐れおののくような昆虫ではないと思います。ゴキブリは嫌いな昆虫の代表で、形が気持ち悪い、すばしっこくて捕まえにくく不潔だというのがその理由のようですが、家の中がきれいになったおかげで感染症の病原菌を持っていることはほとんどありません。

伊吹山文化資料館往訪記

森 擴之



1月19日道路の積雪を心配しながら、博物館の用田、桑原、芳賀学芸員殿ならびにFR-Staffの尾形さんのお世話により、有志の皆さん6名とともに、伊吹山文化資料館を見学させて頂きました。

本資料館では「資料館友の会」制度を設けておられ、館内の展示をはじめ館活動全般にわたり、友の会の皆さんの尽力によって運

営されているとのことであり、まさに手作り博物館の感がしました。

琵琶湖博物館のフィールドレポーター制度と似かよった制度であり、友の会の皆さんとの交流はまことに有意義なことと思います(残念ながら、今回は友の会の皆さんとはお会い出来ませんでした)。館内の展示では、伊吹地方の古い民具、伝統行事、伊吹特産のモグサ製造過程などのほか尋常小学校教科書などがあり、興味深く拝見することが出来ました。

資料館のアウトラインを資料館担当の方から解説して頂いた後、用田学芸員殿にご案内を頂き、戦国時代当地の領主であった京極氏の代々の墓、庭園跡(石組み庭園としてはわが国有数とのこと)などを訪れ、京極氏在りし日の隆盛を偲ばせて頂きました。



また、見学に先立ち、わが国での「そば」栽培の発祥の地である伊吹で、おいしい伊吹そばに舌つつみを打ちました。



今回は訪問できませんでしたが、近くには薬草風呂、薬草園などを備えた施設「ジョイいぶき」もあり、次回は是非立ち寄りたいものだと、心残りしながら帰途につきました。

表 題 「伊吹山山麓史跡」

投稿日 「03.01.21」

名 前 「志賀町 尾形 勇」

伊吹山山麓地域文化の史跡を訪ねて

博物館の用田政晴さん(考古学部門)に上記のことで私たちの、みがってな願いを申し入れましたところ、同氏快く聞き入れていただき、このほど伊吹山麓にひろがる史跡のいくつかを見学できるチャンスがやってきました。

当日(一月十八日)JR近江長岡駅まえ広場へ見学希望者皆さんそれぞれのルートを通して十一時過ぎ集合「総員 10 名」、用田さんより今日の行程順を話され、一同スタート、先ずは昼も近いこととて、一番は、腹ごしらえと“伊吹野そば店”

ここの蕎麦その名も聞きしに及ぶ伊吹山麓産の味覚格別(コシの強い喉ごしの、なんとも言えぬ美味さ絶品 私の独りよがりかも?)皆さんどうでした?

見学一番は、伊吹山文化資料館へ

用田さんが前びろに 同館に予約し置かれ、案内役にと同館担当(町役職員)高橋さんも待機願っておりました。

資料館の中を隈なく案内して頂いた。この地に古くからあり、現在にも伝わる人の暮らしの諸生活用具の数々、当地固有の機器(石臼・もぐさ機等など)一階、二階の陳列展示品にはどれも目を見張るばかり、また映像を用いて同館の今日までの歩み、活動状況も話され参考になりました。

見学二番は、京極氏館跡 私の期待の膨らむ所

資料館より 車で数分 南側山麓少し 登ったところ上平寺村内にあり、近年発掘された所のように、庭園、池、館跡などまだ残る山林の平地の中に点在している。全貌が出現するのは、まだ日数がかかるようだ。池の石など、配置から 越前朝倉氏の館跡と酷似しているように思えた。

見学地 三番目は山東町柏にある京極氏のゆかりの寺院、徳源院

京極初代氏信から歴代の菩提寺で宝篋印石塔十八基が居並ぶ壮観と三重塔(寛文十二年(1672)造立)が時代を偲ばせ史観を満たす。

ここが最終目的地で、本日の修学遠足はすべて無事終了。みなさんそれぞれの印象をもたれて帰路につかれたことでしょう。

__今日の研修史跡めぐりのすべてご指導ご案内頂いた用田さんと車安全運転と案内サポート願った。桑原さん、芳賀さん。どうもありがとうございました。



伊吹山文化資料館を中心とした周辺地域の見所見て歩記

彦根市 加固 啓英

2003年1月19日伊吹山資料館、京極氏館跡地、京極氏菩提寺の徳源院、等を見学してきました。常識&学識ゆたかな皆さんと一緒にしたので、後の報告のことも考えず、物見遊山気分でレコーダーやカメラも持たず、メモも取らずに過ごしてしまいました。

伝えるべきものを正確に伝えるレポートは常識&学識ゆたかな皆様よりの報告が掲載されると思いますので、「ピカソの絵のモデル」のよう「非常識な目玉の配置」からの報告をさせていただきます。(そんな訳で、誤りが有りましたらお許し下さい。)

《伊吹山文化資料館》優れた展示物・方法、イベント、から熱意が感じられます。

* 民具や道具と機械境界的な農業・産業機械が面白く思われました。と同時に、これらがなつかしく身近に感じられる私は、日に日に骨董人間になりつつあるのを実感させられました。カラクリ好きな私には農機具や機械には特に興味がありました。これらには設計者の機知や目の付け所、思い入れが構造や作動から読み取れる面白さがあるからです。当世風の、個々の事情を離れた画一的な設計思想、プログラム、アルゴリズム、マニュアル、演算処理、等による、発想に飛躍のない機械は面白さがイマイチなのです。

* * 「機織」の文字が示すように、「織機」こそが「道具→機械」の元祖に近いものではないでしょうか。

* こちらはボランティアの協力とその働きがすばらしそうです。この方たちの手になる手近な素材によるジオラマ等の展示物は素人域を越えた素晴らしい出来栄でした。この手法を習得し県内の同様の施設へ水平展開出来れば、高価で時間のかかる本職モデラーの作る物にかなりの部分が置き換えられ、安価で変わり身の速い展示が出来ると思います。

《京極氏館跡》現状の山地斜面の湿地で、目につく物は庭園跡地の庭石と樹木だけでした、

* 伝聞ですと庭石は大分持ち去られているようで、絵図面等も無く復元するにも往時の姿を知る資料は無いようで、素人の下手な絵でも残っていれば貴重なものとなったと思います。江戸末期から明治にかけてヨーロッパへ多くの日本の生物が紹介されていますが、これには大量の標本の船載と共に日本の絵師の正確な描写力が下支えになっているらしいのです。

〈徳源院〉京極氏の菩提寺です。

* 近郷に散在していた墓石(何基あったかメモを取りませんでした。)を集めて祀っているそうです。年代に対応して、わずかつつの様式の変化が読み取れるそうです。

現代は過去の良いものを安易に切り捨て、更に磨き上げる努力が足りないのではないのでしょうか。たとえば私の小学一年生の夏に第二次世界大戦の敗戦を向かえ、進駐軍が駐留して来ました。生野菜を食う米兵の「日本の野菜は臭い」「ハニーワゴン(くみ取りの馬車・牛車)」の戯言で江戸時代から続いた「屎尿の完全リサイクル」から、高価な設備投資/薬剤・人件費を費やした末に捨てるだけの「泥棒に追い銭の屎尿処理」へ方向転換したのです。屎尿の問題点は「悪臭」と「衛生問題」だけであり、親切な技術の投入により、この点だけを解決すれば「肥料」だけでなく、さまざまな分野での有効な素材が見出されると思います。

伊吹山文化資料館見学会に参加して

梶島 昭紘

大寒前の1月18日(土)伊吹町の伊吹山文化資料館の見学会に参加しました。

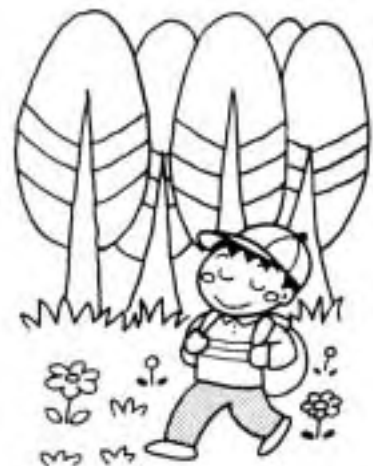
当日一番楽しみにしていた「伊吹 おろし蕎麦」を昼食に大盛りでいただき、外に出ると、青空に雪を頂いた伊吹山が目の前に飛び込んできました。どこからでも伊吹山が望めて、この町は伊吹山の恵みで育まれている町だな...と実感しました。

伊吹山文化資料館は友の会やボランティア(町内の方が中心)の方たちが展示品を持ち寄り、手作りされたと聞き感心しました。こじんまりとしていますが、良く行き届いており、判りやすく親しみのある展示になっていました。展示内容も伊吹山の麓での昔の暮らし展示があり、数はそれほど多くはないのですが楽しく見学しました。

教室で学芸員さんの丁寧な活動報告を拝聴して、この館の友の会員方々のご苦労やこれからの活動方法など意見交換することができれば視野が広がるし、活動の参考にもなるのではないかと思いますながら館を後にしました。

その後、京極氏の館跡、庭園等を見学しました。この近くはハイキングコースになっているそうで、暖くなればコースにはいることができるとのことです。

今回できなかった京極氏の城跡散策や薬草風呂など、もう一度伊吹町に来てみたい、との思いを胸に帰途につきました。



伊吹山資料館見学会下見会に参加して

草津、橋本

1月19日(日)伊吹山資料館へ見学のお誘いがあり、参加させていただきました。学芸員さん3名とレポーター員7名、計10名が参加しました。

当日一番心配していたのは雪の心配でした。伊吹山の近くと云うとこの時期積雪を思い浮かべます。私は雪の中の経験が無く当日までは大変心配でしたが、幸い好天に恵まれ雪の道を走ることなく、無事に伊吹町に着くことが出来ました。昼前でしたので名物の伊吹そばで腹ごしらえをしてから資料館へ向い正午前に到着、伊吹町教育委員の高橋さんより丁寧な説明と案内をして頂きました。

資料館は、伊吹町立春照小学校春照分校の休校校舎を改修して作られ、平成10年3月に開館されたそうです。

展示室1 伊吹山にいだかれたくらし、(囲炉裏のある風景・米作りの一年)..

まず入って驚いた事は、展示されているものがすべて生きている感じです。それらは作られた物ではなく、自分等が愛用してきた器具を自分等が使っていた通りにレイアウトしているからだと思います。

展示室2 伊吹山の恵みとなりわい、(曲谷の石臼づくり・伊吹もぐさ・山の仕事)

展示室3 伊吹の自然とぶんか(伊吹の大地・お花畑と伊吹山地の自然..)

展示室4 掘り起こされた伊吹の歴史(伊吹の夜明け・京極氏と上平寺城..)

この資料館に来て私の子どものころを思い出させてくれました。当館の高橋さんの説明では伊吹町の方々がボランティアで自分等の昔の物を持ち寄り実体験の中でレイアウトされたそうで、そのことが展示に(生きている)と私を感動させたのかもしれません。

もし私が一人でこの資料館に来ていたら今日ほど楽しく見学出来なかったと思います。それは参加に誘ってくださった皆さんが各自展示を見ていろいろな思い出を語り、話題が付きなかったことです。その資料館での2時間ほどがあつという間に過ぎたかんじです。

その後、高橋さんの案内で室町時代以後の守護大名、京極氏の上平寺城跡を見学、その庭園跡を見学し、京極氏の権勢を目のあたりに知った次第です。

伊吹山資料館へ行き大変多くのことに感動しました。生きた展示の仕方、お金をかけなくて持ち寄りで、立派にできること、フィールドレポーターの皆さん、春には伊吹町との交流会も計画されると思います。ぜひ参加されて、展示を見て又その体験談を交流の場で話し合うのも楽しいと思います。

申し遅れましたが、当日お世話くださいました用田さん、桑原さん、芳賀さん、本当に有難う御座いました。

【伊吹山文化資料館をたずねて】

【030321】

【草津市 古谷 善彦】

昨年 12 月中旬に「伊吹山文化資料館へ見学に行きませんか」という案内をいただきました。

内容を聞いて見ると、この伊吹山文化資料館は地元の人たちがボランティアとして展示、運営されていること、かつての豪族であつた京極氏の屋敷跡や菩提寺がある、名産の伊吹そばが食べられるなど・・・各々に少々食指を動かされて参加する事にしました。

1 月 18 日(土)今年の冬は本来の冬らしい寒さの中、予定の時間いっぱい有意義に巡る事が出来ました。からみ大根たっぷりのおろしそばは、そばの味の良さがイマイチ分からない私にはさわやかで、あっさりとした口当たりにおいしく頂きました。

午後のスケジュールは伊吹町教育委員会の高橋さんの案内で伊吹山文化資料館の展示品など懇切丁寧な解説や、ボランティアの活動状況を聞き、その後、京極氏の館跡にも案内していただいて、菩提寺である徳源院も巡りました。

京極氏とは武家佐々木一族であると知りつつも詳しい事は知らず、「平家にあらざれば人にあらず」と平家一門が栄華を誇っていた十二世紀末、平家追い討ちに大功のあつた同じ佐々木一族である六角氏と、湖北と湖東・湖南を分有し、又、南北朝の対立動乱の時代に京極高氏(道誉)が足利方の武家として活躍し、その奔放華美な振舞いは当時の婆沙羅の風潮を代表した…というようなことを後に、とある本から学び、近江は国情の縮図の観があつたと云われる戦国争乱や、京極氏にまつわる近江の中世などについて、幾らかの知識を得るよい機会でもあつたと思っています。

今回は用田さんの案内や解説をはじめ、いつもながら芳賀さん、桑原さんに総てのお世話いただき有難うございました。



表 題 【ブラックバスとブルーギル】

投稿日 【030102】

名 前 【土山町 京 美季男】

昨年 11 月 24 日「水源の森林づくりフォーラム」の「魷漁体験」に参加の機会を得て、琵琶湖の外来漁の生態を垣間見ることができました。守山漁協の 2 隻の漁船に 18 人が分乗して、ホテルラフォーレの沖 200m の魷の先端の囲いの中に到着です。網を一方から手繰り寄せてゆき、たも網で魚を救い上げては船の水槽の網カゴに移してゆきます。

カゴの目を変えることによって、泳ぎ抜けてゆく魚が、一定め大きさを、分別されて、それが、種類分別にもなっていました。

沿岸を回遊する魚は障害物に出会うと、深い方へ向う習性を利用した漁法が魷漁ですが、たも網ですくい上げたばかりの湖漁をポリ箱に広げると、大きなブラックバスやブルーギルばかりで、フナやコイ、ハス子などの琵琶湖固有種は、その中に、いくらか混じっているというのが正直な実感でした。

5 cm ほどのブルーギルの稚魚は無数といっていいほど入っていましたがそれらの外来漁は焼却処分されるそうです。

漁協の戸田さんが、大きなブラックバスの腹をナイフで割いて、固有種の魚やエビを取り出して並べられましたが、すごい大食漢です。この戸田直弘さんは「わたし琵琶湖の漁師です」という光文社新書を 2002 年に出された人で琵琶湖の美しい自然を背景に、ピチピチとした文体で、外来漁問題について論じておられます。

ホンモロコは一匹も入っていないくて、今は最早や、「淡水魚の宝石」といわれるまでに、激減してしまっていて卵のうちにブルーギルに食べ尽くされてしまうそうです。外来漁が固有種を食べ尽くしたあとは、外来漁同志が共喰いして、彼らも絶滅し、「沈黙の琵琶湖」と化すのでしょうか。40 万年という生態系の末端でこんな光景をまじめに思い浮かべてしまうほど、バス、ギルの繁殖ぶりは猛烈を極めています。

「今なら間に合う」と誰かが自信をもつて、発言して欲しいという強い思いでいっぱいでした。



表 題 [稲枝駅西側、ご当地鳥情報 1]

投稿日 [030121]

名 前 [彦根市 加固啓英]

私と愛犬の行動範囲、メッシュコード 5236-61 の宇曾川と愛知川、出来れば国道 8 号線(実情は JR 琵琶湖線)と琵琶湖湖岸に囲まれた範囲の野鳥の情報をお知らせします。

《新顔情報》 今までの私の記録に見当たらない野鳥です。

Jan/08/2003 シメ? 稲枝東小学校 校庭 その後でも数回確認

Jan/17/2003 ルリビタキ? 荒神山 尾根道の鞍部

Jan/19/2003 ミコアイサ? 曾根沼緑地

《変な行動》

Dec/20/2002～愛知川下流、栗見橋～湖岸道路間左岸で見かける事が多い。.

大型のワシタカで多分トビよりは大きい。肩より前は灰色、後は暗褐色。ガッシリした脚で地面を 1～2 歩あるくにも翼を半開きにして大儀そう。トビとは異なり尾羽は扇形。なかなか写真を撮らせてくれない。

Jan/09/2003 荒神山 稲村神社

高い木の梢で普通の声で鳴いていたハシ、ボソガラスが麓で犬が吠え出すと、呼応するように「ウォッ、ウォッ」と犬の声のまねを続けていた。カラスの勝手とはいえ何か意味があるのか??

Jan/09/2003 自宅 JR 稲枝駅西側の住宅地 5236-6145

家の庭木に野鳥の餌の容器を下げて、冬の間だけ餌を供給しているが、スズメが 7 羽ほど集まり、その中の 1 羽が、雛鳥のするような、翼を半開きにし、体を膨らませ、体を震わせ餌をねだる仕草をして周囲のスズメに迫るが、邪険に飛び蹴りを食らわせられ続けていました。多分雛鳥ではなく雌の雄に「求愛給餌」を要求する行動だと思います。

吉本新喜劇の山田花子の芸のないド突き芝居を見せられるようで、寒々とした気分させられました。

- * 海に依存しない動物にとって人間の食材は塩分が濃すぎるので、野鳥の餌にするに適した動物性蛋白質のものを探していたのですが、犬用のジャーキー(実質はソーセージのような練り物)をペンチでフレーク状にしたものが鳥たちに大好評です。

Jan/09/2003 自宅 JR 稲枝駅西側の住宅地 5236-6145

以前見られたのはほとんどがハシボソガラスだったが、本日突然に多数のハシボソガラスが飛来し、ほぼ 1:1 ほどの割合になりました。この 2 種は全く別行動なのか、競合しあうのか、今後が見物です。

- * ヒバリはラークに生きているのにカラスはクロウが多いのです。

表 題 [「クズ」からのゲーム]

投稿日 [030202]

名 前 [彦根市 加藤啓英]

河原や道端で、「吉野葛」のような最高級ブランドの本物の葛粉の原料でありながら、あまり見向きもされず、ところかまわず生い茂ったクズの蔓を見かけます。

私の経験からは、娘が小学生の頃に「夏休みの一研究」とかで、その根から葛粉を作ったことがありましたが、労多くして収量は微々たるものでした。他には蔓をクリスマスのリースか籠を編む材料にぐらいで、他の利用方法は思いつきませんでした。

- * 「クズ」は砂漠化対策などに人手植栽による「先駆植物(Pioneer plant)」として使われていますが、この Pioneer plant に似た響きの言葉が浮かんできました。
- * 化学工場で実験室のフラスコ・ビーカー サイズの試作から製造ラインまでスケールアップする為の条件出しの過程の中間サイズに、Pilot plant が有ります。
- * Pioneer plant の plant と Pilot plant の plant では Plant の意味が違います。初めの plant は「植物」であり、後のは「製造工場・生産設備」の意味です。後の「製造工場・生産設備」は「植物」「動物」「菌類」を大雑把に「生産者」「消費者」「還元者」とする見方に従い、めぐりめぐって Plant は Plant →「植物」は「生産者」に行き着きました。メデタシ、メデタシ！ 拍手 3・3・7 拍子！！

「葛根湯」という風邪薬があります。これを調べましたところ、原料は葛根を主材として麻黄(マオウ)・生姜・大棗(タイソウ)・桂皮・芍薬・甘草を含む、風邪の初期に服用とあります。インフルエンザは風邪に含めるかどうかは記載がありませんでした。

- * 麻黄(マオウ)も調べてみて(私にとって)意外な記載を見つけました。
(名前の紛らわしい物に黄麻(オウマ)が有り、これは麻袋になるジュートの原料植物で、全くの別種です。)

麻黄は「マオウ科の裸子植物」とあります。裸子植物といえば、今の今まで「針葉樹類」「イチョウ」「ソテツ」しか思い浮かばず、それが全てだと思っていました。

- ** マオウ *Ephedra sinica* 裸子植物マオウ科の雌雄異株の小低木。中国北部、モンゴル原産の薬用植物。薬効成分はエフェドリンを含むアルカロイド。薬効は解熱、咳止めなど。塩化エフェドリンは百日咳や喘息の特効薬。
- ** エフェドリン 麻黄のアルカロイドで交感神経興奮剤。気管支筋弛緩作用あり
塩化エフェドリンは気管支喘息などに用いる。
1892 年 長井長義(1845～1929)が抽出単離。
- *** 「マオウ(魔王)はゲーテの詩からシューベルトが抽出単離」とは書いてなかった。

表 題 [我が家にもコウガイビル]

投稿日 [021222]

名 前 [彦根市 加固啓英]

12 月 20 日我が家の浴室のタイルの壁の、かなり高い、水気の無い位置にコウガイビルがへばり付いていました。濡れたティッシュペーパーの紙縊り(コヨリ)のように弱々しく頼りない物ですが、水で湿したティッシュペーパーと共にガラスのシャーレーに移しておいたところ、翌朝あらためて見るとかなり太く短く、ふてぶてしく変身していました。

翌 21 日フィールドレポーター定例会(掲示板の発送準備)へ行く日でしたので、これを博物館で見えました。

質問コーナーではグライガーさんに説明して頂きましたが、あらためて彼がすごい勉強家なのに驚かされました。私には偏形動物(門)、環形動物(門)、渦虫動物(綱)などは英語では言えないので、オズオズと日本語で語しますと、表音文字の国の人なのに全てを理解してくれるのです。私の周囲には、こんな話に乗ってくれる日本人は「琵琶湖博物館」と多賀町の「あけぼの博物館」にしかいません。

発送準備中の「掲示板」を見てビックリ！

学芸員紹介はグライガーさん(レポーター山崎 千晶さん)

投稿の「コウガイビル」「コウガイビル 追記」(有田 重彦さん)

が掲載されているでは有りませんか！！

コウガイビルは林の中の苔の生えた、湿った岩の上などで見かけるシンネリムツツリしたネクラな性格の生き物かと思っていましたが、時々見回ると結構な距離を歩き回り、これならナメクジやカタツムリも餌食にできそうだと納得出来ます。しかし何を求めて浴室の壁にやってきたのか、これはキリマンジャロの豹の死骸と同等の謎ではないかと思えます。

今後、コウガイビルのアカデミックな調査研究は有田さんをお願いすることとして、私は「眉唾路線」で「私は郊外(に)ビルを持っている」と言い触らすこととします。

江戸の長屋のかみさん連中が錦絵の花魁を椰捻して「チャラチャラしたベベ着て、頭にヒルを載せていりゃ世話はない」というのが「コウガイビル」の云われ…というのはどうですか？ 但し、これは全くのフィクション、口(?キーボード)から出まかせです。

追伸

前回投稿の「飽きもせず…」に初歩的ミスをしてしまいました。すみません

ページ下端のへちまの絵です。花卉の付いていた部分を花茎としてしまいましたが、幹と子房(つると果実)の間の茎が花茎のはずでした。多分このような花を子房下位と云うのでしょうか。出来ましたら布谷さんに解説をお願いしたいところです。

表 題 【 鳥 の 観 察 記 録 】

投稿日 [030310]

名 前 [彦根市 加 固 啓 英]

犬の散歩に、一周が約 2.1km約 25 分を要する、私の家の周囲の用水路を含む住宅地と耕地、を野鳥の記録をメモに残しながら 2～5 周しています。

記録は溜まり続けますし、これを始めてからかなりの種類の鳥が見分けられるようになり、面白い行動や習性も目につき、楽しみは増えたし、一年以上続ければ「初見」「初消え?」は分かると思いますが、犬に引かれながらの記録は結構骨が折れ、多くのバードウォッチャーがやっている事でもあり、あまり意味がないかとも思い、止めようかとも思っています。

今年の 1～2 月分の記録を添付しますので、有効利用が出来るのであれば今後も続けたいと思いますので検討をお願ひします (手元に時間・天候も控えてあります)。

野鳥記録(JR 稲枝駅・西側、南稲部町住宅地 & 彦富の耕地)

	Jan							Feb						
	/07	/08	/13	/18	/21	/25	/26	/03	/05	/10	/13	/15	/17	/22
セグロセキレイ	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-	*	*	*	*
トビ	*	*	-	*	-	*	*	*	*	*	*	-	*	*
ハシボソガラス	*	*	*	*	*	*	*	*	*	-	*	*	*	*
ヒヨドリ	*	*	*	*	-	*	*	*	*	-	*	*	*	-
ツグミ	*	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
スズメ	*	*	*	*	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*
ムクドリ	*	-	*	*	-	*	*	*	*	*	*	*	*	*
モズ	*	*	*	*	-	*	*	*	*	-	-	-	*	-
カワセミ	*	-	*	-	-	-	*	-	-	*	*	*	-	-
ケリ	*	*	*	-	-	-	*	*	-	*	*	*	*	*
ハクセキレイ	*	-	*	*	*	-	*	*	*	*	*	-	-	*
コサギ	*	*	*	*	-	-	*	-	-	-	-	-	-	*
タゲリ	*	*	-	*	-	-	-	*	*	*	*	-	*	*
キジバト		*	*	-	-	-	*	-	-	-	-	-	-	*
カワラヒワ		*	-	*	-	-	-	-	-	-	-	*	-	*
シメ		*	*	-	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-
カワウ			*	-	-	-	-	-	*	-	-	*	-	*
アオサギ			*	*	-	-	-	*	*	-	*	*	-	*
ジョウビタキ♂			*	-	-	*	-	-	-♂♀	*	♀	*	-	-
ハシブトガラス				*	-	-	-	-	-	-	*	-	-	*
キセキレイ						*	-	*	*	-	-	*	*	*
メジロ							*	-	-	-	-	-	-	-
ホオジ							*	-	-	-	-	-	-	-
タシギ								*	-	*	-	-	-	*
ヒバリ										*	*	-	-	-
カイツブリ											*	-	-	-

表 題 [幾つかの雑件]

投稿日[020312]

名 前 [彦根市 加固啓英]

〈春で～す！！〉めっちゃやたらに寒い日が続きますが、それでも春です。誰が何と云おうと春です。彦根はこのところ、猛烈な寒さと小雪まじりの北西の烈風の日々〈積殴りの小雪 Mar/08/09. 10. 11)が続いていますが、誰かが「春だ!」と言い張った時から「春」なのです。

もうフキノトウもツクシも食べました。揚げ雲雀(ヒバリ)も Feb/21.24.Mar/10.11 に見えています。雪の止み間の曇か薄日のさす合間に遠慮がちの高度で囀っています。

数年前には空(ソラではなくカラ。日本語は恐しい!)のドラム缶が道路上を転がり回る程の強風の中で、対地速度ゼロでホバリングを続けるヒバリを見かけました。これぞ「見上げた根姓」です。絶対に春です。

《「四 高 桜」をご存じですか》 やじ馬根根性の果てに、県の「生物環境アドバイザー」をしており、その関係でほんの僅かですが「琵琶湖哀歌」で知られる高島町の「四 高 桜」の移植にも関係しています。

3月1日に式典があり、移植後の桜は「四 高 OB(旧制四 高→現・金沢大学)」から「四 高 桜を守り育てる会(高島町観光協会内)」に移管されることとなりました。

大半は琵琶湖畔の景色の良い場所へ移され、根元を車に轢き固められたり、樹冠を電線の為に切り落とされることもなさそうな場所なので、余生は自然樹形には戻れないまでも「大きな盆栽」にされないで済みそうです。

花見の候補地として、桜の季節にお立ち寄り頂ければ嬉しいのですが。

四 高 桜を守り育てる会 高島郡 高島町 1400

Te1&Fax 0740-36-8135 駅案内所 0740-36-1314

《道草は文化》 このところ色々な道草を食っています。近くのマンションの植栽のマテバシイ曾根沼緑地のスダジイやヒシの実、あぜ道のニガナや各種のタンポポ、フキノトウ、アザミ、各種のキノコ(イグチの仲間は「毒茸」と公認されているもの以外はどれでも少しずつ食べて見ることにしているが、未だ生きています。)

職を離れた暮らしが、こんなに楽しいとは誤算でした。大抵の職場では、わき見、寄り道、低能率は悪とみなされ、高精度・高純度・高能率・大量生産、を求められますが、これではまるで高純度試薬のパイプ移送の人生です。

時計も持たず、ネクタイも捨てて、気の向くまま足の向くまま、わき見をしながら時々立ち止まり、何事にも無計画にやじ馬根性で鼻を突っ込み、愚にも付かない事を考える。

低純度、低濃度、低能率、少量生産、・こそ「多様性」や「文化」に繋がるものではないのでしょうか。

表 題 「冊子にしました」

投稿日「030019」

名 前[びわ町 梶本 さつき]

2002 年度のフィールドレポーター調査結果や掲示板を一冊の冊子にまとめました。「タンポポ」「ため池」「アオマツムシ」「滋賀県のカマキリの卵囊分布」「へちま情報」その他みなさんのご意見など、大変貴重な資料になります。身近に見たり、聞いたりしながら意識していなかったことを、反省し、勉強させていただきました。

有田さんの「アスパラは切られても伸びる、伸びる」研究と、タンポポでも同じような発見をしました。博物館に送らずにおいた、タンポポのつぼみが机の上でいつの間にか綿毛に成長していました。植物の生命力、繁殖のていねいな営みに感激した発見でした。後に、「切られても生長する」と布谷先生の資料で教えていただき、見たことが、検証できたことも。うれしいことでした。また、「アカミタンポポ」と「セイヨウタンポポ」の綿毛も標本にして教えていただいたことも感激でした。

ため池は、びわ町にはないので、夫が長浜の山の中まで案内して教えてくれました。生息動物や、植物については観察不可能でしたが、ため池の意味や、利水方法などを知り、新しい勉強でした。

アオマツムシの鳴き声は、ほんとに身近にやかましく鳴いているのに意識していなかった虫でした。テープの鳴き声と同じ鳴き声が、柿の木から聞こえた時は、食事を止め思わず柿の木に近寄っていました。

カマキリも意識して観察しています。個性的でとてもおしゃれに感じられる昆虫です。大好きになりました。

へちまは、新たに今年は繊維をシート状に縫ってシンクのシートにしてみようと思っています。利用方法などみんなの情報をお待ちしています。「へちまクラブ」が終わってもどうぞよろしくお付き合い下さいますようお願いいたします。

へちま

せんいの開きかた

1. カッターを使って、乾燥させたへちまのせんいを切り開く。さかなの開きをつくるようなかんじだ。
2. まんなかのたかい部分をとりぞく。
3. 2.のせんいこ、水をたっぷりすすぎ、アイロン台の上にタオルをあつめにしき、スチームアイロンをくり返しあててせんいをたいらにする。



今号は 2002 年度の最終版です。

フィールドレポーターの皆さんから多くの情報をお寄せいただき、今年度は 7 回目の「フィールドレポーター掲示板」発行です。有難うございました。

この 1 年は、複雑化するさまざまな出来事がたくさんありました。.

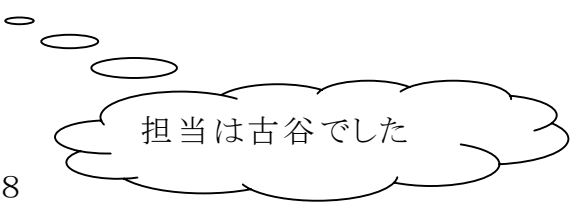
昨年 4 月から全国の小中学校の完全週休 2 日制が実施され、学校教育の中でも、多様化する社会環境や自然環境の変化に対応して、課外活動を含めてより積極的に学習、実習として取り入れられているようですが、一方大人の世界では経済不況でお父さんたちは週休二日制を返上してでも仕事をしなければ個人も企業も生き残れないという厳しい現状のようです。親子のスキンシップを考えると現実 mismatches 現象?と云えるのではないのでしょうか。又、世界が注目のイラクの大量破壊兵器、武装解除、民主化の行方も他人事ではないですね。

今年度のフィールドレポーター活動は、過去にも増して多彩でした。

調査では、「たんぽぽ…」「ため池…」「アオマツムシ…」を行いました。「ため池」「アオマツムシ」の結果を「フィールドレポーターだより」で 3 月初旬にお送りしましたがご覧のとおり前田さん、森さんが各調査報告の細部に亘る分析、或いは再度現地へ確認、そしてそれらをじっくりと最大限活用網羅した立派な結果報告をまとめて下さいました。お疲れ様でした！！

上記の調査のほか、調査会や観察会、夏のへちま交流会、シロバナタンポポ調査、ボランティアメッセに参加、伊吹山文化博物館と京極氏邸跡見学下見会、琵琶湖博物館研究発表参加 etc. を行いましたがお忙しい中それぞれの活動にご指導いただいた先生方にお礼を申し上げます。

そんなこんなで、スタッフの作業が輻輳してフィールドレポーター交流会が持てませんでしたが、遅ればせながら今年度調査を総括して 4 月 27 日(日)に交流会の開催を予定していますので多数の参加をお待ちいたします。



担当は古谷でした